IS300h

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステムの始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方..... 9
検索のしかた..... 10
イラスト目次..... 11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 25
シートベルト 27
SRS エアバッグ..... 30
ポップアップフード..... 36
排気ガスに対する注意..... 38

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは..... 39
チャイルドシート..... 40

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 54
ハイブリッドシステムの注意 57

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 61
オートアラーム..... 62

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 68
計器類 72
マルチインフォメーションディスプレイ 79
エネルギーモニター／燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面 84

3 運転する前に

3-1. キー
キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア.....96
トランク 100
スマートエントリー＆スタートシステム.....104

3-3. シートの調整
フロントシート 109
リヤシート 110
パワーイージーアクセスシステム／運転席ポジションメモリー／メモリーコール機能 111
ヘッドレスト 114

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 116
インナーミラー 117
ドアミラー 118

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 121
ムーンルーフ 124

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 128
荷物を積むときの注意.....134

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 135
EV ドライブモード.....139
トランスミッション.....140
方向指示レバー 145
電動パーキングブレーキ.....146
ブレーキホールド 149

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 151
AHB（オートマチックハイビーム）.....154
フォグランプスイッチ 156
ワイパー＆ウォッシャー.....157

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 162

4-5. 運転支援装置について
Lexus Safety System + ... 165
PCS（プリクラッシュセーフティ） 170
LTA（レーントレーシングアシスト） 180
RSA（ロードサインアシスト）... 190
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 193
先行車発進告知機能 202
ドライバー異常時対応システム . 204
BSM（ブラインドスポットモニター） 209
PKSA（パーキングサポートアラート） 213
クリアランスソナー 214
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 222
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 227
パーキングサポートブレーキ（静止物） 233
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 236
ドライブモードセレクトスイッチ 237
運転を補助する装置 239

4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス 246
寒冷時の運転 248

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ／ディスプレイ
リモートタッチ 252
センターディスプレイ 254

5-2. エアコン・デフォッガーの使い方
オートエアコン 256
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター .. 265

5-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 267

5-4. 収納装備
収納装備一覧 270
トランク内装備 273

5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 275
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W） 279

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 286
内装の手入れ 289

6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 293
ガレージジャッキ 295
ウォッシャー液の補充 296
タイヤについて 296
タイヤの交換 304
タイヤ空気圧について 309
エアコンフィルターの交換 310
電子キーの電池交換 312
ヒューズの点検・交換 313
電球（バルブ）の交換 315

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 322
非常点滅灯（ハザードランプ） 323
発炎筒 323
車両を緊急停止するには 324
水没・冠水したときは 325

7-2. 緊急時の対処法
けん引について 327
警告灯がついたときは 333
警告メッセージが表示されたときは 341

パンクしたときは..... 344
ハイブリッドシステムが始動できないときは 353
キーをなくしたときは..... 354
給油扉が開かないときは 355
電子キーが正常に働かないときは 355
補機バッテリーがあがったときは 357
オーバーヒートしたときは 361
スタックしたときは..... 364

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 368

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 . 372

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 382

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 384
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 386
アルファベット順さくいん 388
五十音順さくいん..... 390

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

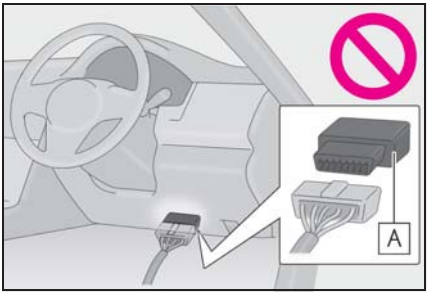
RF 送信機の取り付けについては、P.7 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- 前方カメラの画像情報

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちま

す。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。

・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム

● EFI コンピュータ

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

ハイブリッドシステムについて

IS300h は電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

IS300h を安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

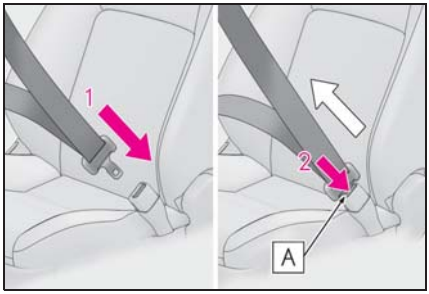
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

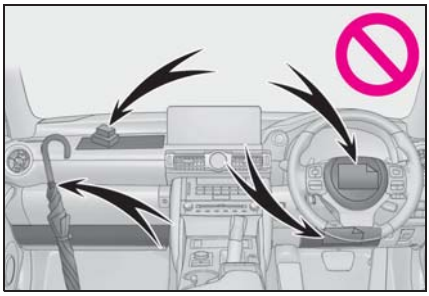
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

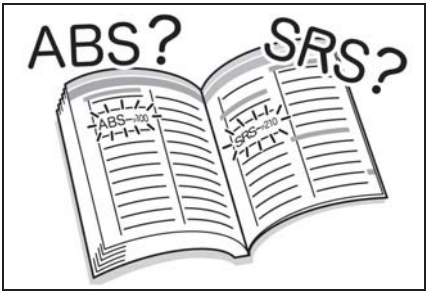


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

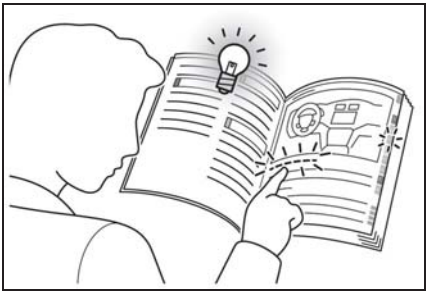
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.390
●アルファベット順さくいん：P.388



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.11

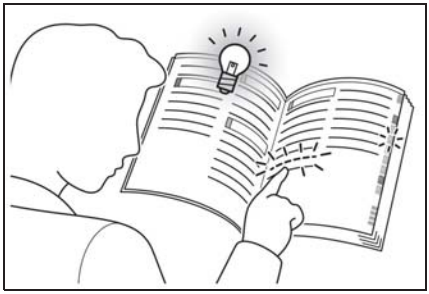


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.384
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.386

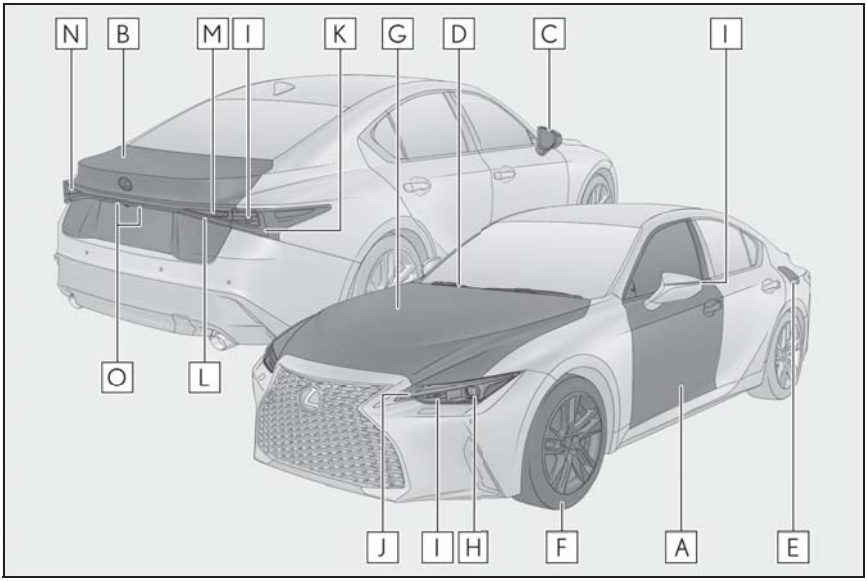
■ タイトルから探す

●目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。(→P.315)

A ドア.....P.96

施錠／解錠.....P.96

ドアガラスの開閉.....P.121

メカニカルキーでの施錠／解錠.....P.355

警告灯・警告メッセージ.....P.333, 341

B トランク.....P.100

車内から開ける.....P.101

車外から開ける.....P.101

メカニカルキーで開ける.....P.356

警告灯・警告メッセージ.....P.333, 341

C ドアミラー.....P.118

鏡面の角度調整.....P.118

ミラーの格納.....P.119

調整位置の登録★.....P.111

曇りを取る（ミラーヒーター）.....P.256

D ワイパー.....P.157

冬季の注意.....P.248

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★.....P.263

洗車時の注意.....P.287

E 給油口.....P.162

給油方法.....P.162

燃料の種類・燃料タンク容量.....P.368

F タイヤ.....P.296

サイズ・空気圧.....P.296, 371

冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P.248

点検・ローテーション・空気圧警報システム.....P.296

パンク時の対処.....P.304, 344

G ボンネット.....P.293

開け方.....P.293

エンジンオイル.....P.368

オーバーヒート時の対処.....P.361

警告メッセージ.....P.341

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.315, ワット数：P.371）

H ヘッドランプ.....P.151

I 方向指示灯.....P.145

J 車幅灯・LED デイライト.....P.151

K 尾灯.....P.151

制動灯

緊急ブレーキシグナル.....P.240

L 尾灯.....P.151

M リヤフォグランプ★.....P.156

後退灯★

シフトポジションを R にする.....P.141

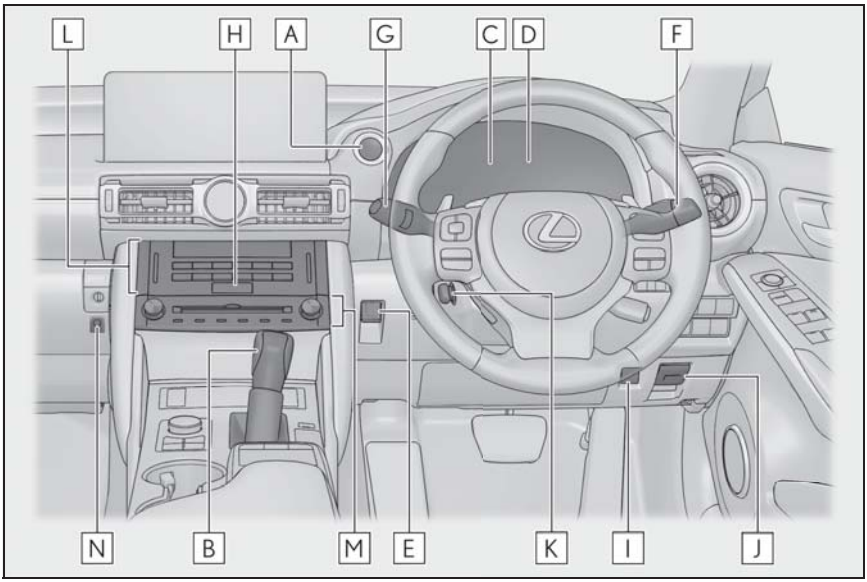
N 後退灯

シフトポジションをＲにする P.141

O 番号灯.....P.151

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A パワースイッチ P.135

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.135

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.324

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.353

警告メッセージ P.341

B シフトレバー P.140

シフトポジションの切りかえ P.141

けん引時の注意 P.327

シフトレバーが動かないときの対処 P.141

C メーター P.72

見方・明るさの調整 P.72

警告灯／表示灯 P.68

警告灯点灯時の対処 P.333

D マルチインフォメーションディスプレイ P.79

表示内容 P.79

エネルギーモニター ……P.84
警告メッセージ表示時の対処……P.341

E パーキングブレーキスイッチ……P.146
かける・解除する ……P.146
冬季の注意……P.249
警告ブザー・警告メッセージ……P.341

F 方向指示レバー ……P.145
ランプスイッチ ……P.151
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 ……P.151
リヤフォグランプ★……P.156

G ワイパー＆ウォッシャースイッチ……P.157
使い方……P.157
ウォッシャー液の補充 ……P.296
警告メッセージ ……P.341

H 非常点滅灯スイッチ ……P.323

I トランクオープナー ……P.101

J ボンネット解除レバー ……P.293

K ハンドル位置調整スイッチ……P.116
調整方法……P.116
調整位置の登録★……P.111

L オートエアコン ……P.256
操作方法……P.256
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）……P.256

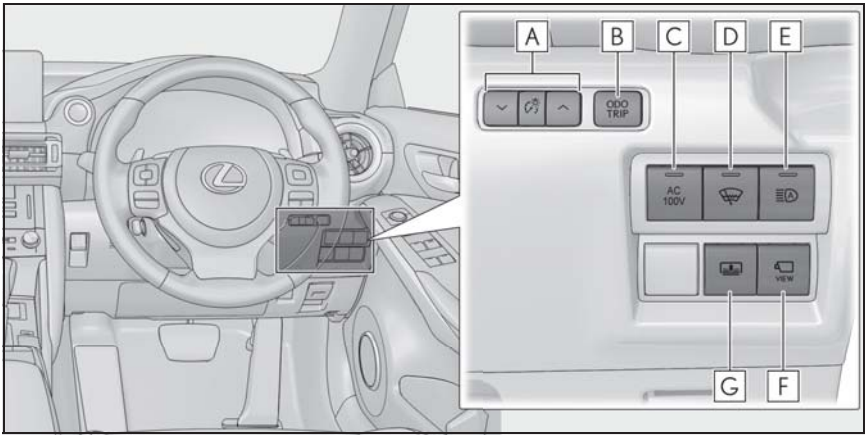
M オーディオ ※

N トランクオープナーメインスイッチ ……P.103

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類



A インストルメントパネル照度調整スイッチ P.78

B オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン P.78

C AC100V スイッチ★ P.279

D ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P.263

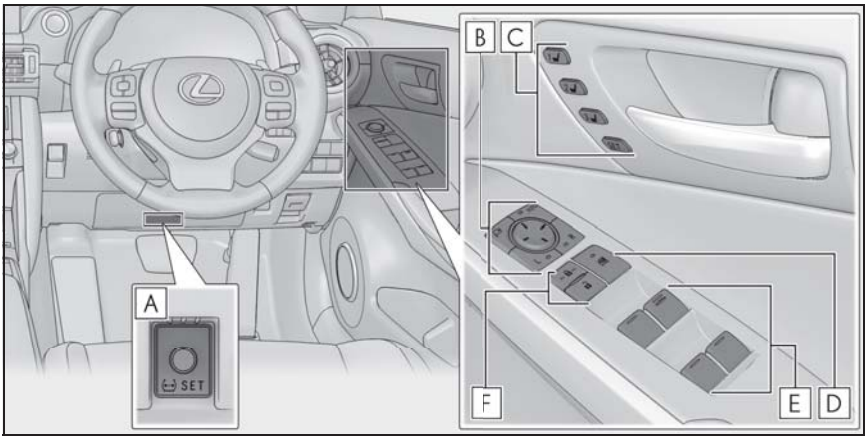
E オートマチックハイビームスイッチ P.154

F カメラスイッチ★※

G リヤサンシェードスイッチ★ P.277

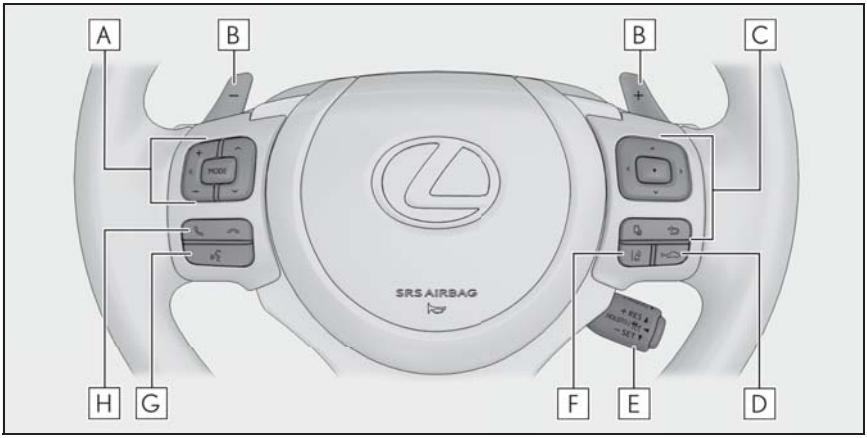
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



A タイヤ空気圧警報リセットスイッチ P.301
B ドアミラースイッチ P.118
C ポジションメモリーボタン★ P.111
D ウインドウロックスイッチ.....P.123
E パワーウインドウスイッチ.....P.121
F ドアロックスイッチ P.98

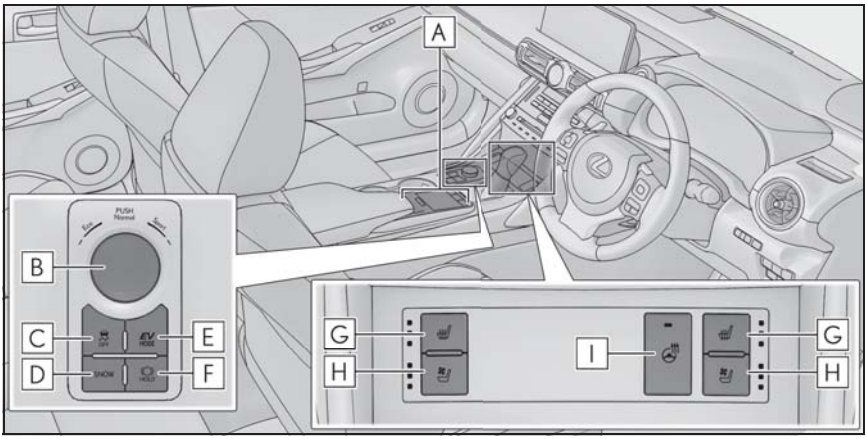
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A オーディオ操作スイッチ ※
B パドルシフトスイッチ P.142

C メーター操作スイッチ P.80
D 車間距離切りかえスイッチ.....P.197
E クルーズコントロールスイッチ.....P.193
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....P.193
F LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ.....P.180
G トークスイッチ※
H 電話スイッチ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

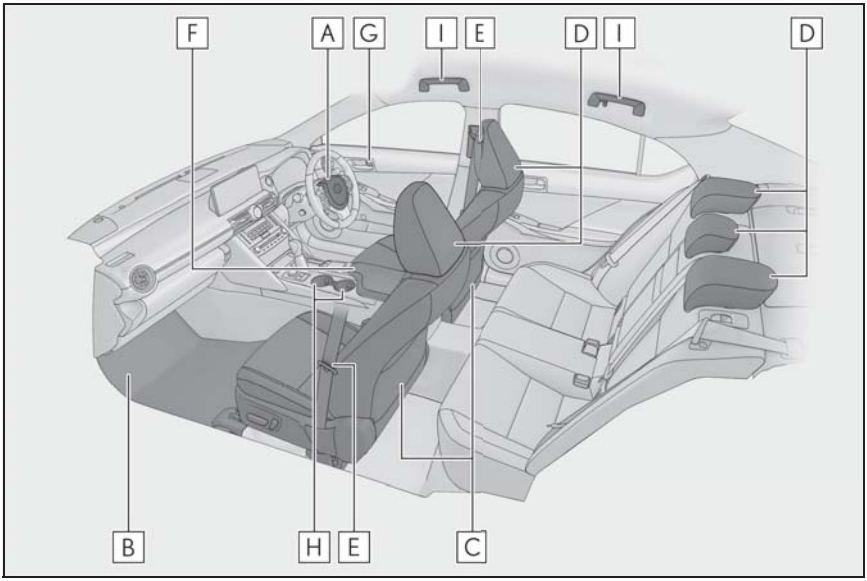


A リモートタッチ※ P.252
B ドライブモードセレクトスイッチ.....P.239
C VSC OFF スイッチ P.241
D スノーモードスイッチ P.142
E EV ドライブモードスイッチ.....P.139
F ブレーキホールドスイッチ.....P.149
G シートヒータースイッチ P.265
H シートベンチレータースイッチ★ P.265
I ステアリングヒータースイッチ★ P.265

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

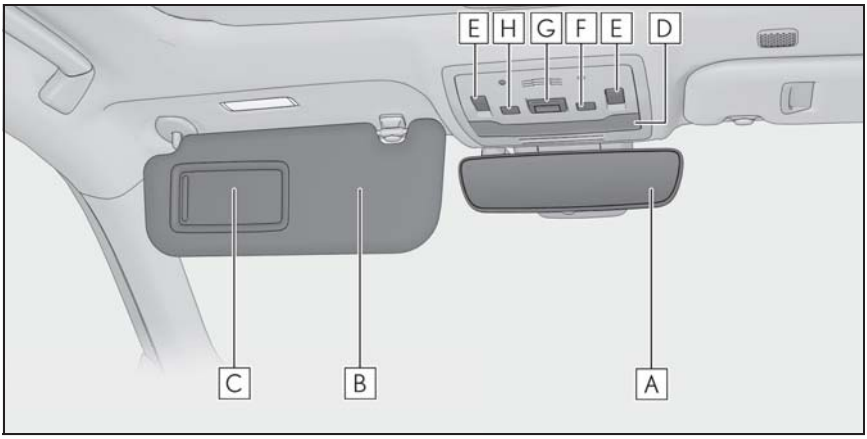
※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.30
B フロアマット P.24
C フロントシート P.109
D ヘッドレスト P.114
E シートベルト P.27
F コンソールボックス P.271
G ドアロックレバー P.99
H カップホルダー P.272
I アシストグリップ P.275

■ 天井



A インナーミラー P.117

B サンバイザー ※1 ..... P.276

C バニティミラー P.276

D インテリアランプ P.267

パーソナルランプ ※2 ..... P.268

E ムーンルーフスイッチ★ P.124

F インテリアランプドア連動スイッチ P.267

G ヘルプネットスイッチパネル ※3

H 侵入センサー OFF スイッチ P.64

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.42）

※2図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24

安全なドライブのために 25

シートベルト 27

SRS エアバッグ 30

ポップアップフード 36

排気ガスに対する注意 38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 39

チャイルドシート 40

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 54

ハイブリッドシステムの注意 57

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 61

オートアラーム 62

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

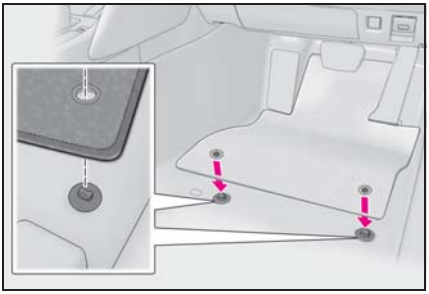
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

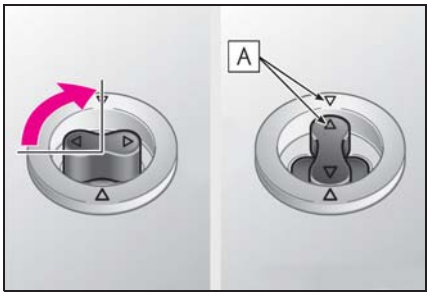
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

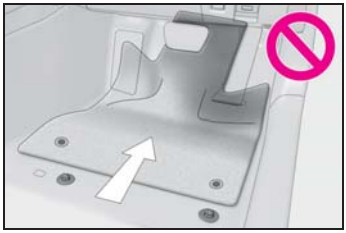
■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

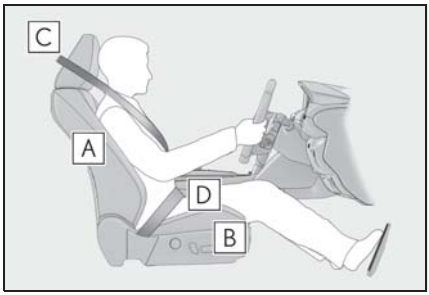


●ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.109）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.109）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.114）

D シートベルトを正しく着用する（→P.27）

警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.27)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P.40)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.117, 118)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる

●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る

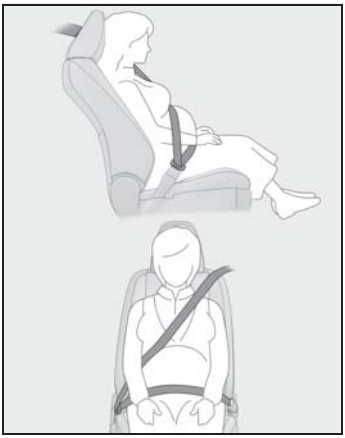
●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.50

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

警告

- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

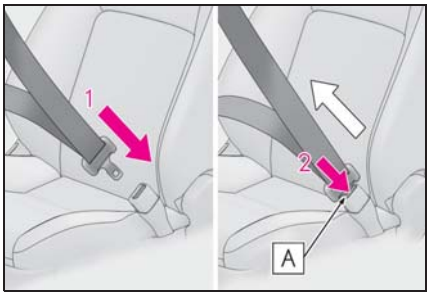
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→P.40）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

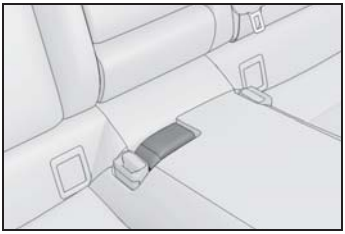
知識

■シートベルトロックの解除方法

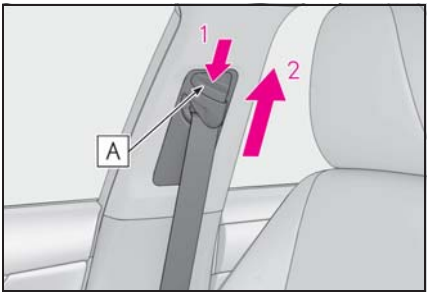
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）

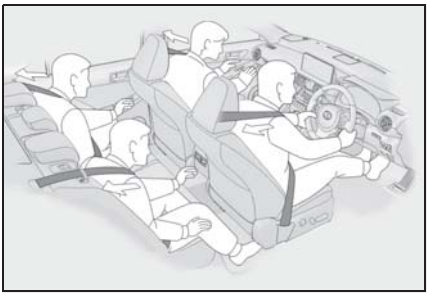


1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

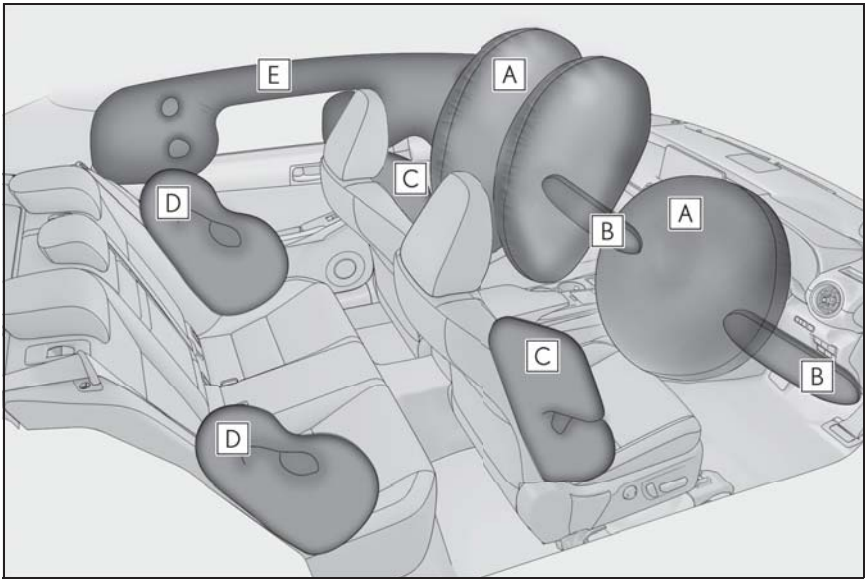
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS リヤサイドエアバッグ★
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

E SRS カーテンシールドエアバッグ

（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.60）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.97）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.240）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.269）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.323）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

■衝突以外で作動するとき

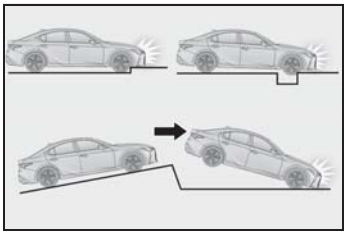
次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたと

き

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



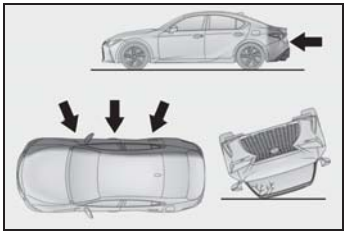
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

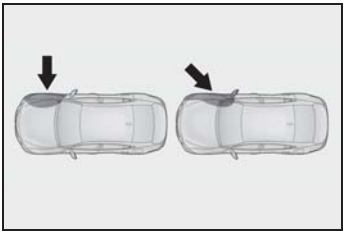


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

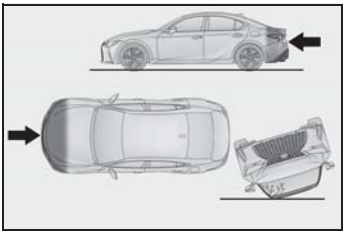


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

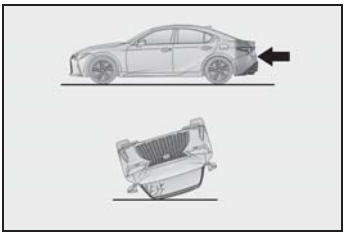
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

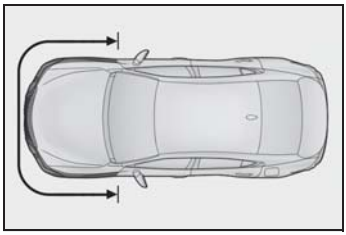


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

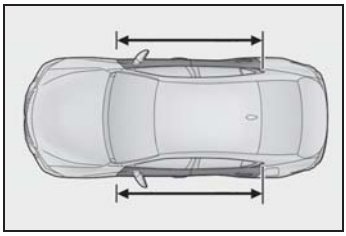
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

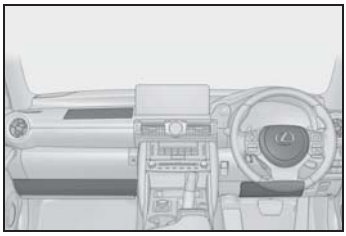
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



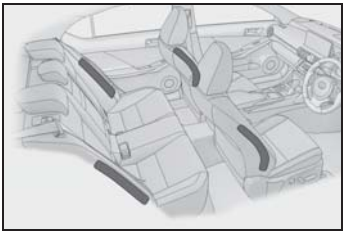
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



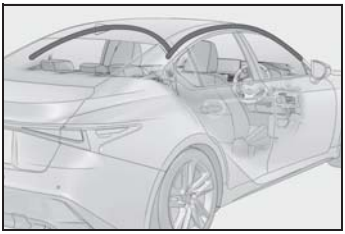
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■SRS エアバッグについて

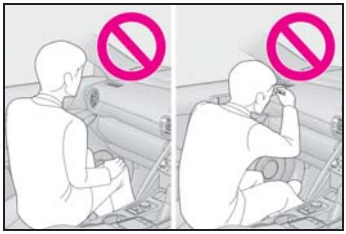
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

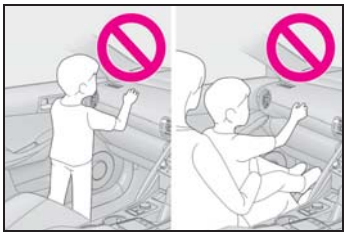
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

警告

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
  (→P.40)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



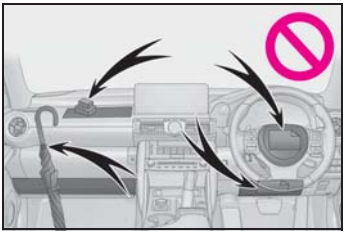
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

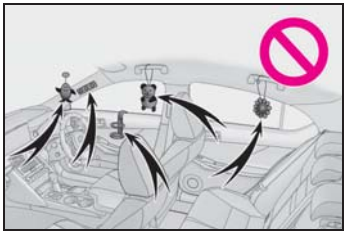
- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P.345）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部・フロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

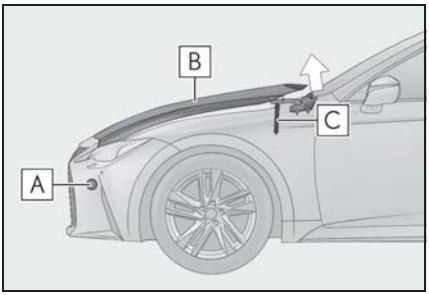
- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

システムの構成部品



A センサー

B ボンネット

C リフター

知識

■ポップアップフードについて

●廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

●ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高いと判断されたとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

●作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）

●その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
・縁石に衝突したとき
・深い溝や穴に落ち込んだとき
・ジャンプして地面にぶつけたとき
・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません。

●横たわっている人に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

警告

■ポップアップフードが作動したとき

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。

●ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

注意

■ポップアップフードについて

●ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

●4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P.40）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.99）・ウインドウロックスイッチ（→P.123）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.40）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.40

チャイルドシートを使用するときは：P.41

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.44

チャイルドシートの取り付け方法：P.48

・ シートベルトで固定する：P.49

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.51

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.52

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.44）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
  取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

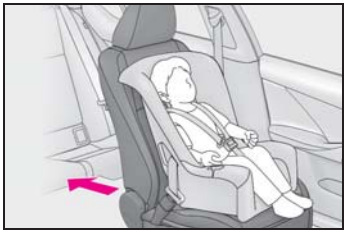
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



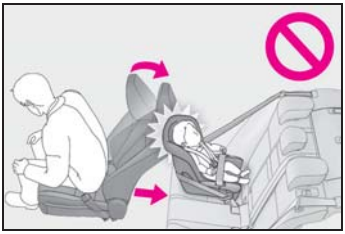
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

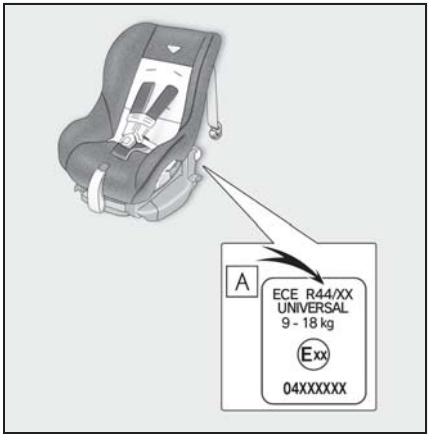
シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.47）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する
UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



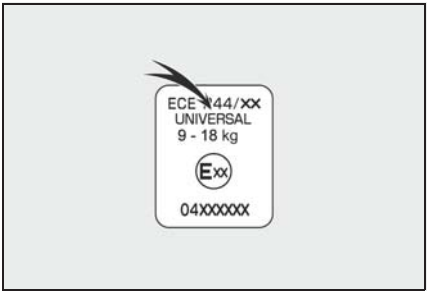
法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク ※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle

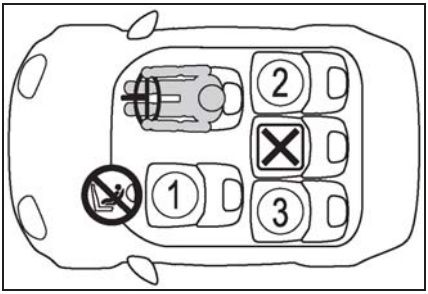
specific（特定車両）」



※1UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4
2 ※3	U L
3 ※3	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.47）に記載されたチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

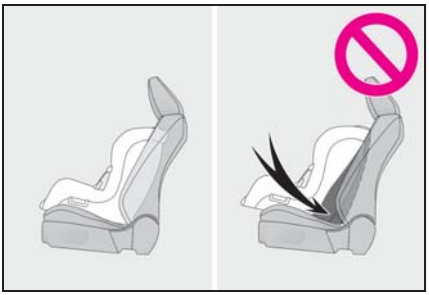
チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してくだ

さい。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2, R3	R1, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ **推奨チャイルドシートと適合性一覧表**

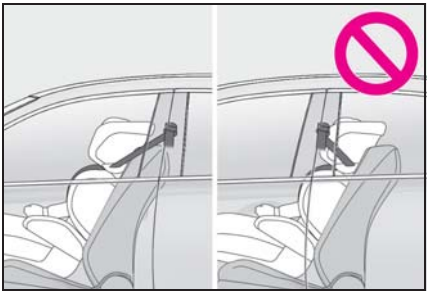
質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0, 0+ (13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
I (9 ～ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してだい。

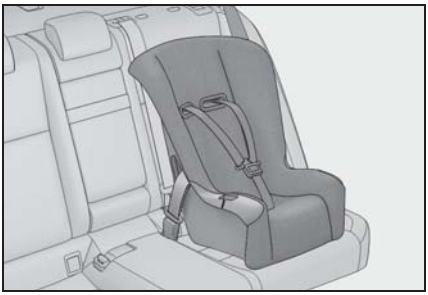
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

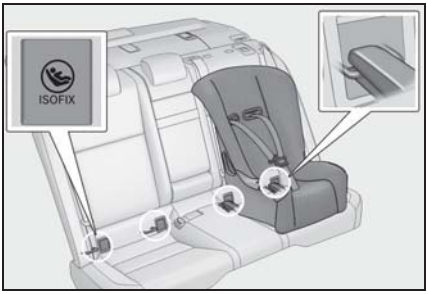
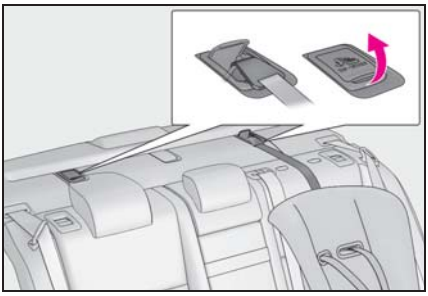


● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.49

固定方法		ページ
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.51
テザーベルトを固定する		P.52

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 45）

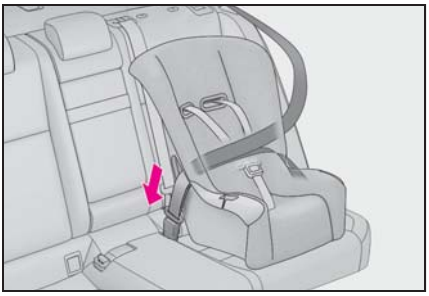
1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.41）

2 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.114）

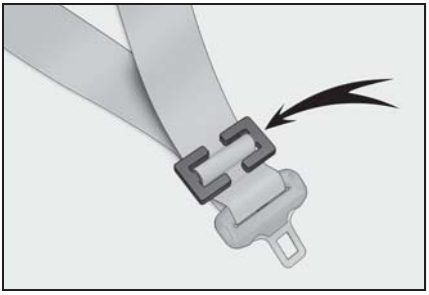
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.50）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

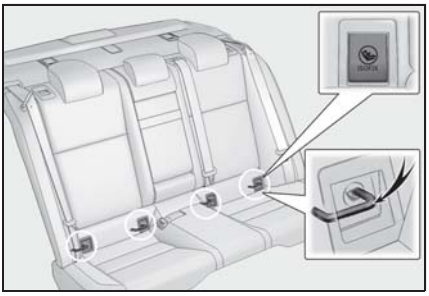
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 45）

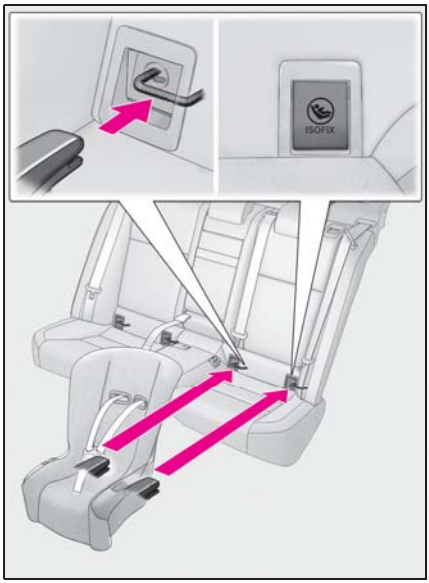
1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.114）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.50）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

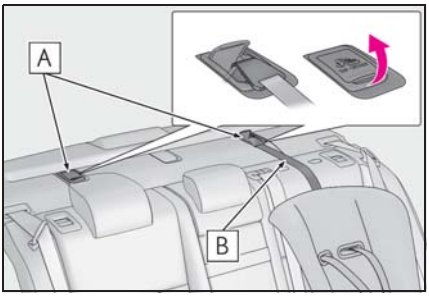
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

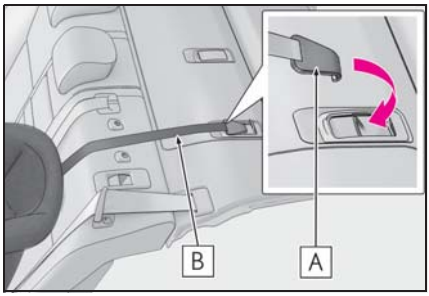
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→P.114）

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.50）
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

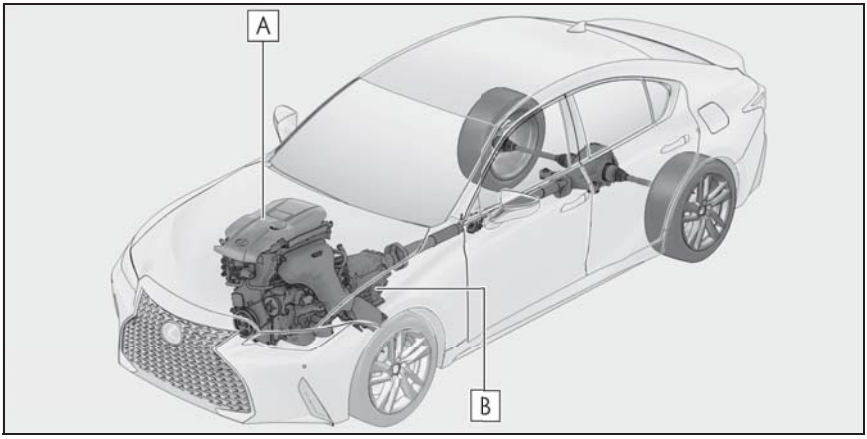
使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B 電気モーター

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P.55）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給

し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

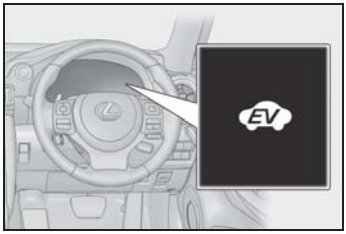
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがDまたはSで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがDまたはSで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.359

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。
安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- 車両下側からのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる“コツコツ”“カタカタ”音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート横にある吸入口から聞こえるファンの音

■ **メンテナンスや修理・廃車について**

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.372)

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■ **車両接近通報装置について**

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

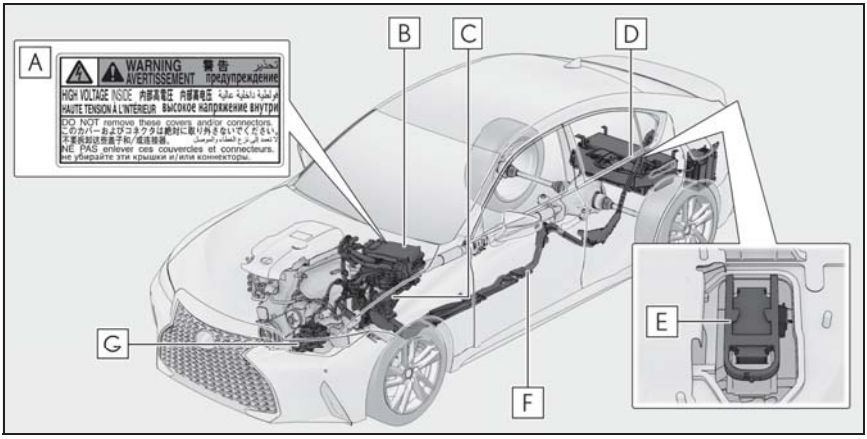
- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B パワーコントロールユニット

C 電気モーター

D 駆動用電池

E サービスプラグ

F 高電圧ケーブル（オレンジ色）

G エアコンコンプレッサー

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.336）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 10L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

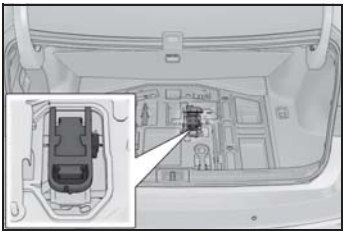
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

警告

●後輪（FR 車）または 4 輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.327）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

注意

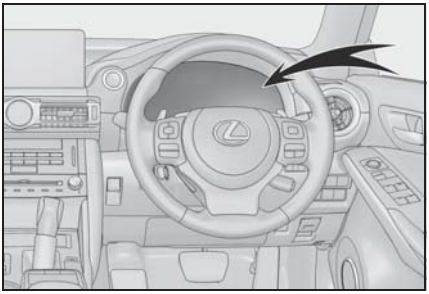
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。(→P.341)

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

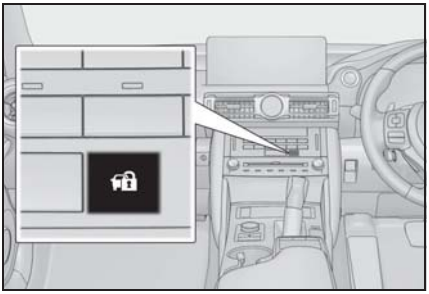
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

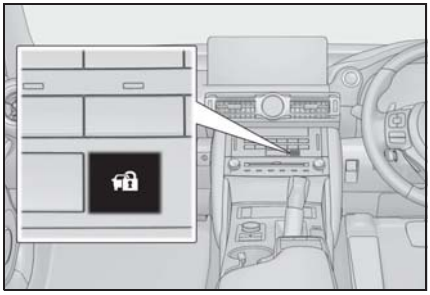
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

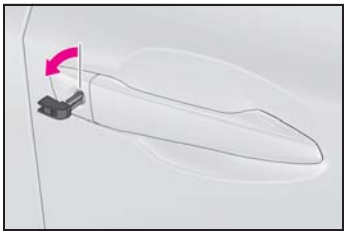
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

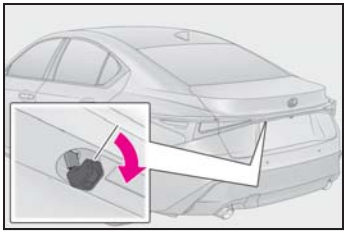
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

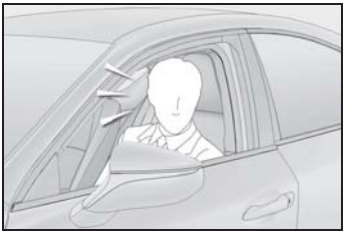
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



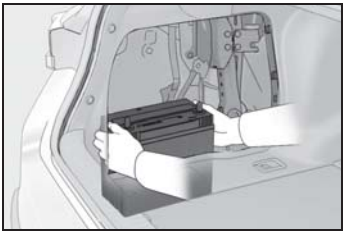
●メカニカルキーを使ってトランクを開けたとき



●車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.359）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサー

■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.62)

■ 侵入センサーを停止する

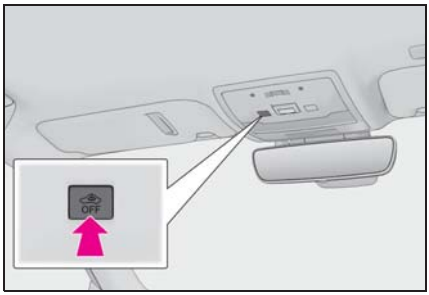
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF ／ ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

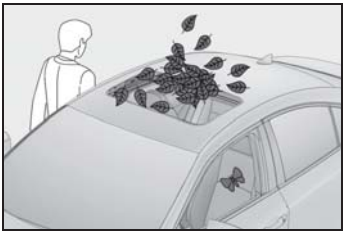
■侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

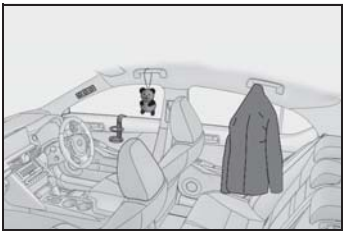
■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
  - ・室内に入った落ち葉・虫・風など
  - ・他車の侵入センサーなどが発する超音波
  - ・室外の歩行者の動き



●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



●振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
・立体駐車場に駐車したとき
・フェリー・トレーラー・列車などで車両を運搬するとき
・ガラスに付着した氷を削り落すとき
・高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
・ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 68

計器類 72

マルチインフォメーションディスプレイ 79

エネルギーモニター／燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面 84

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ F SPORT 以外

▶ F SPORT

メーターの表示状態によって、一部の警告灯／表示灯の位置が異なります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.333）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.333）

高水温警告灯 ※2（→P.333）

ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.333）

充電警告灯 ※2（→P.334）

駆動用電池残量低下警告灯 ※2
（→P.334）

油圧警告灯 ※2（→P.334）

エンジン警告灯 ※1
（→P.334）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1
（→P.335）

ポップアップフード警告灯 ※1
（→P.335）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.335）

ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 ※2
（→P.170, 335）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.336）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.336）

燃料残量警告灯（→P.336）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.336）

リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※3（→P.336）

タイヤ空気圧警告灯 ※1
（→P.337）

（橙色）
LTA 表示灯（→P.337）

（点滅）
クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.337）

（点滅）
RCTA OFF 表示灯 ※1
（→P.337）

（点滅）
PKSB OFF 表示灯 ※1
（→P.338）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1（→P.338）

スリップ表示灯 ※1
（→P.338）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯
（→P.339）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.339）

※1作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3センターパネルに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

- 方向指示表示灯（→P.145）
- 尾灯表示灯（→P.151）
- ハイビーム表示灯（→P.153）
- オートマチックハイビーム表示灯（→P.154）
- リヤフォグランプ表示灯★（→P.156）
- PCS 警告灯 ※1, 2（→P.173）
- クルーズコントロール表示灯（→P.193）
- レーダークルーズコントロール表示灯（→P.193）
- クルーズコントロールセット表示灯（→P.193）
- LTA 表示灯（→P.186）（白色）
- LTA 表示灯（→P.171, 186）（緑色）
- LTA 表示灯（→P.186）（橙色点滅）
- BSM ドアミラーインジケーター ※3, 4（→P.209, 222）
- BSM OFF 表示灯 ※1, 2（→P.209）
- クリアランスソナー OFF 表示灯 ※2（→P.215）
- RCTA OFF 表示灯 ※1, 2（→P.222）
- PKSB OFF 表示灯 ※1, 2（→P.228）
- スリップ表示灯 ※1（→P.240）（点滅）
- VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.241）
- スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※5（→P.135）
- READY インジケーター（→P.135）
- パーキングブレーキ表示灯（→P.146）
- ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.149）
- ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.149）
- EV インジケーター（→P.55）
- スノーモード表示灯（→P.142）
- 低温表示灯 ※6（→P.72）
- セキュリティ表示灯 ※7（→P.61, 62）

● 走行モード表示

▶ F SPORT 以外

EV ドライブモード表示灯
(→P.139)

エコドライブモード表示灯
(→P.237)

カスタムモード表示灯★
(→P.237)

スポーツモード表示灯★
(→P.237)

スポーツ S モード表示灯★
(→P.237)

スポーツ S+ モード表示灯★
(→P.237)

▶ F SPORT

EV ドライブモード表示灯
(→P.139)

カスタムモード表示灯★
(→P.237)

エコドライブモード表示灯
(→P.237)

スポーツモード表示灯★
(→P.237)

スポーツ S モード表示灯★
(→P.237)

スポーツ S+ モード表示灯★
(→P.237)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2システムが OFF のときに点灯します。

※3ドアミラーに表示されます。

※4作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

・ BSM メインスイッチが ON の状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
・ パワースイッチが ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※5マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

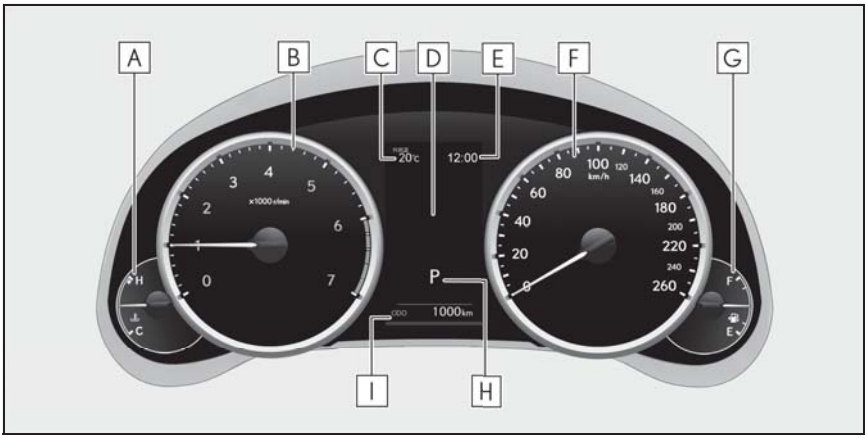
※6外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7センターパネルに表示されます。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置（F SPORT 以外）



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.76）

走行モードや設定によってハイブリッドシステムインジケーターに切りかえることができます。（→P.83）

C 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.79）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.341）

E 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。（→P.276）

F スピードメーター

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがありま

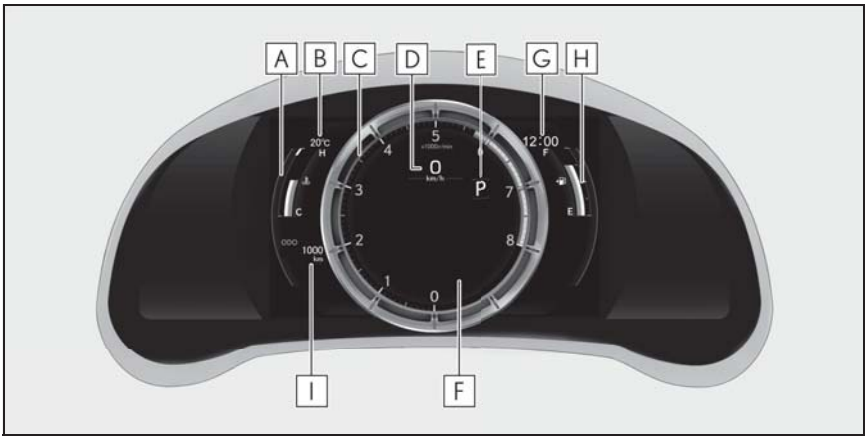
す。
・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

H シフトポジション表示（→P.140）

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.77）

■ **計器類の位置（F SPORT）**

▶ メーターリング中央時



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

C タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.76）

走行モードや設定によってハイブリッドシステムインジケーターに切りかえることができます。（→P.83）

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛り部分などが強調表示されます。

D スピードメーター

E シフトポジション表示（→P.140）

F マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.79）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.341）

G 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。（→P.276）

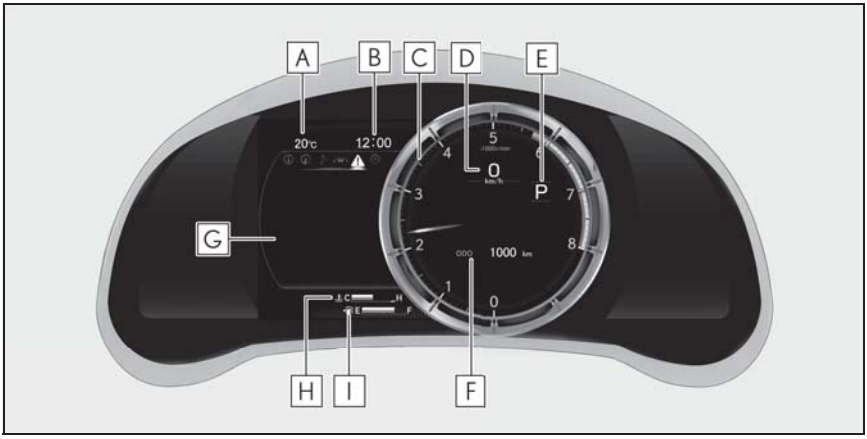
H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.77）

▶ メーターリング移動時



A 外気温

外気温度を -40° C ～ 50° C の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

B 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。（→P.276）

C タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.76）

走行モードや設定によってハイブリッドシステムインジケーターに切りかえることができます。（→P.83）

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛り部分などが強調表示されます。

D スピードメーター

E シフトポジション表示（→P.140）

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ

G マルチインフォメーションディスプレイ

H 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

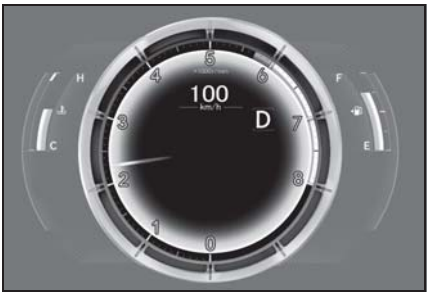
I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

■ REV インジケーター（F SPORT）

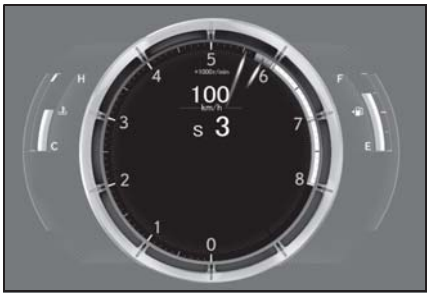
タコメーター表示中に、設定したエンジン回転数に到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーターを表示します。



REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの で設定することができます。

■ REV ピーク（F SPORT）

タコメーター表示中に、4000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 0.5 秒間表示します。



メーターの表示・配置を切りかえるには（F SPORT）

ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。

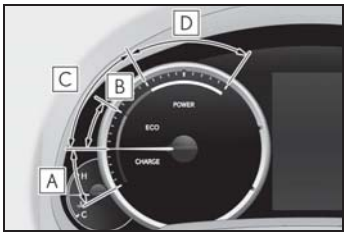
知識

■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **ハイブリッドシステムインジケーターについて**

▶ F SPORT 以外



A チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している機能を示します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

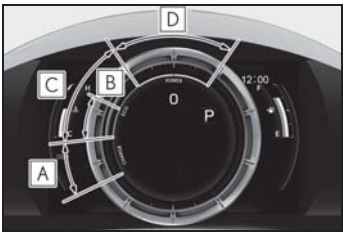
C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

▶ F SPORT



A チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している機能を示します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

● 走行モードに応じて、ハイブリッドシステムインジケーターとタコメーターが切りかわります。また、マルチインフォメーションディスプレイの⚙で常時ハイブリッドシステムインジケーター表示または常時タコメーターに表示に変更することができます。

● 次のときにハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。

・ タコメーター切りかえの設定が自動切りかえの状態で走行モードがエコドライブモードのとき

・タコメーター切りかえの設定が常時ハイブリッドシステムインジケーター表示のとき

●インジケーターの針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約20km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの⚙で、計器類の表示を変更できます。（→P.83）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.361）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

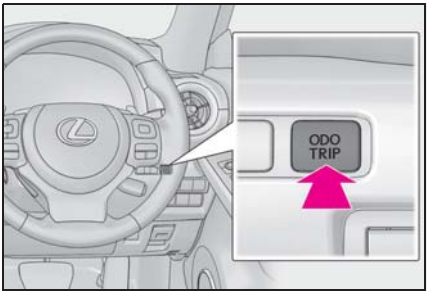
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

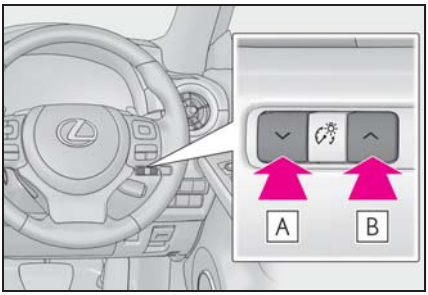
■ **表示の切りかえ**

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



A 暗くする

B 明るくする

知識

■ **インストルメントパネルの照度調整について**

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

マルチインフォメーションディスプレイ

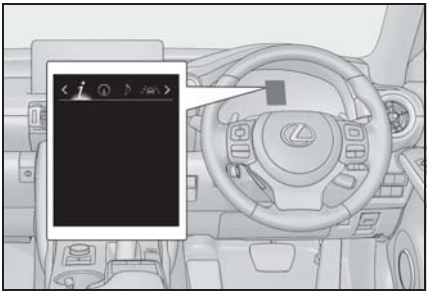
マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示（F SPORT以外）

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

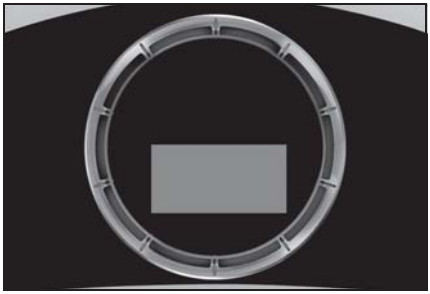


■ ディスプレイの表示（F SPORT）

▶ メーターリング中央時

走行に関するさまざまな情報を表示します。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



▶ メーターリング移動時

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。

F SPORT：メーターリング移動時のみ表示されます。

ドライブインフォメーション（→P.80）

ナビゲーションシステム連携表示（→P.82）

オーディオシステム連携表示（→P.82）

運転支援システム情報（→P.82）

警告メッセージ（→P.341）

設定（→P.83）

知識

■液晶ディスプレイについて

→P.77

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

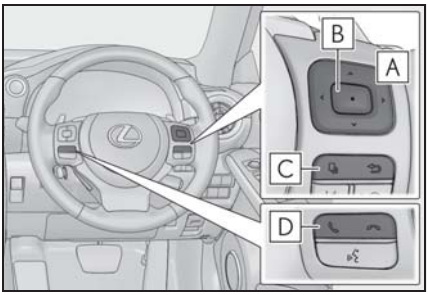
●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.77

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ＜／＞：メニューの切りかえ
∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット

▶ F SPORT 以外

C トップ画面を表示する・ひとつ前の画面にもどる
長押し：トップ画面を登録する

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

▶ F SPORT

C メーターリング移動・ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ トップ画面の登録（F SPORT 以外）

お好みの画面を登録することで、トップ画面を変更することができます。トップ画面を登録するには、登録したい画面を表示中に スイッチを長押ししてください。

走行に関する情報について

■ 表示項目（F SPORT 以外）

メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して *i* を選択し、∧ または ∨ を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● ドライブインフォメーション 3
● エネルギーモニター（→P.85）
● 車速表示
● タイヤ空気圧（→P.298）
● 表示 OFF

■ **表示項目（F SPORT）**

▶ メーターリング中央時

メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● タイヤ空気圧（→P.298）
● 表示 OFF

▶ メーターリング移動時

メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⓘ を選択し、∧ または ∨ を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● エネルギーモニター（→P.85）
● G モニター
● タイヤ空気圧（→P.298）
● 表示 OFF

■ **ドライブインフォメーション 1 ／ 2 ／ 3**

表示される数値は参考として利用してください。

● ドライブインフォメーション 1

・ 瞬間燃費
・ リセット間平均燃費

● ドライブインフォメーション 2

・ 航続可能距離
・ リセット間平均車速

● ドライブインフォメーション 3※

・ 給油後平均燃費
・ 始動後走行時間

※ F SPORT 以外

表示する項目は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。（→P.83）
表示できる項目は次のとおりです。

● 瞬間燃費

バー表示：現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセット間：リセット後の平均燃費を表示 ※1

始動後：ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示

給油後：給油後の平均燃費を表示

● 平均車速

リセット間：リセット後の平均車速を表示 ※1

始動後：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

● 走行時間

リセット間：リセット後の経過時間を表示 ※1

始動後：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

● 距離

航続可能距離：燃料残量による走行可能

な距離を表示 ※2, 3

始動後：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

● その他

ブランク：非表示

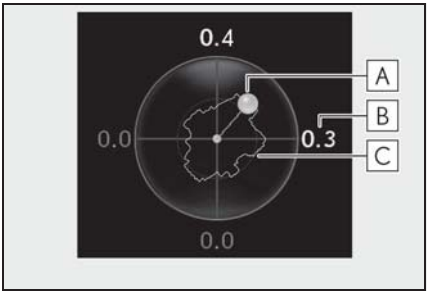
※1リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの を長押しします。

※2運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※3燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.72）

■ G モニター （F SPORT）※

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。



A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

C 最大 G の軌跡

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

メーター操作スイッチの を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

運転支援システム情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.180）

● RSA（ロードサインアシスト）（→P.190）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

（→P.193）

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位の単位を選択することができます。

● ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 ／ドライブインフォ 3

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2、ドライブインフォ 3、それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。（→P.81）

● 時計

12 時間表示／ 24 時間表示を切りかえることができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● テーマカラー

カーソルの色などを変更することができます。

● タコメーター切りかえ

走行モードに応じたハイブリッドシステムインジケーターとタコメーターの切りかえ方を変更することができます。

● REV インジケーター（F SPORT）

・ REV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

・ REV インジケーター（橙色）が表示されるエンジン回転数を変更することができます。

● REV ピーク（F SPORT）

REV ピークの作動・非作動を切りかえることができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.372

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

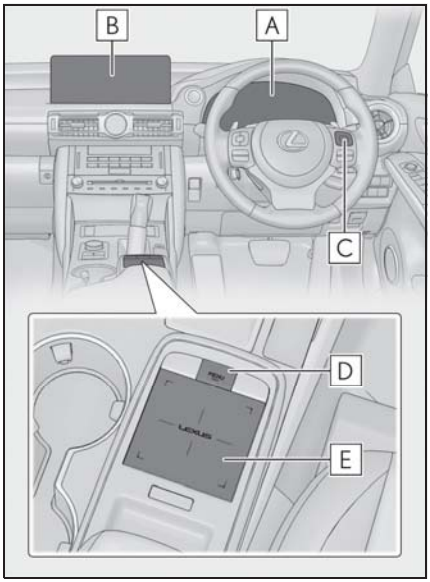
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイに表示します。

エネルギーモニター、Harmonious Driving Navi. 画面または燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

B センターディスプレイ

C メーター操作スイッチ

D MENU ボタン

E タッチパッド

エネルギーモニターの見方

■ センターディスプレイ

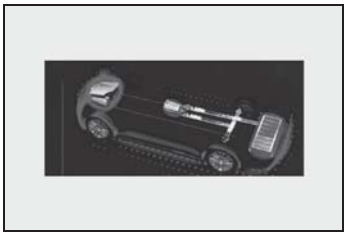
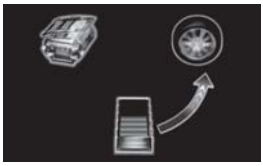
1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、ⓘを選択する

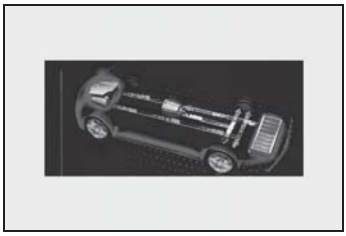
画面に直接タッチして選択することもできます。

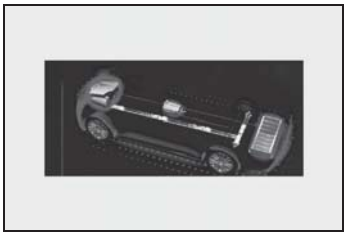
2 “エネルギー” を選択する

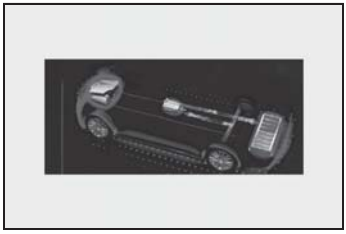
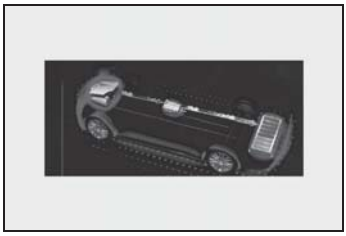
■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

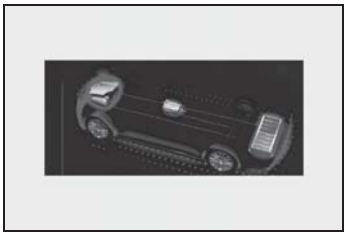
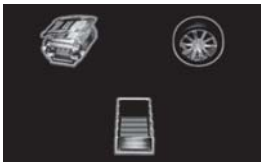
メーター操作スイッチの < または > を押して *i* を選択し、∧ または ∨ を押してエネルギーモニター画面を表示させる

電気のエネルギーで走行しているとき	
センターディスプレイ 	マルチインフォメーションディスプレイ 

ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
センターディスプレイ 	マルチインフォメーションディスプレイ

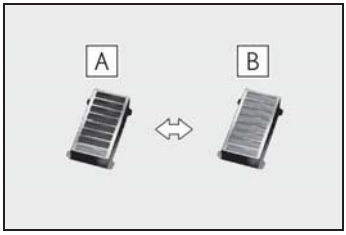
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
センターディスプレイ 	マルチインフォメーションディスプレイ

駆動用電池に充電しているとき	
センターディスプレイ 	マルチインフォメーションディスプレイ
	

エネルギーの流れがないとき	
センターディスプレイ 	マルチインフォメーションディスプレイ 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

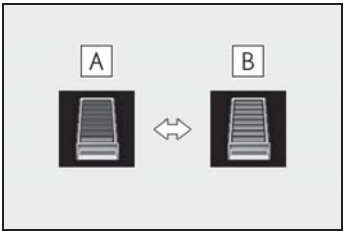
■ **駆動用電池の残量表示（センターディスプレイ）**



A 少ない

B 多い

■ **駆動用電池の残量表示（マルチインフォメーションディスプレイ）**



A 少ない

B 多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

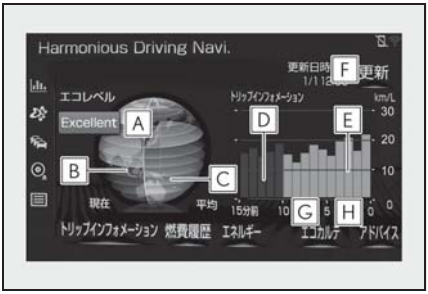
Harmonious Driving Navi. 画面の見方

■ 画面を表示させるには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、ⓘを選択する

画面に直接タッチして選択することもできます。

2 “Driving Navi” を選択する



A エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じてGood・Excellentが表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

B エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

C エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

D トリップインフォメーション（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

E トリップインフォメーション（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F 更新スイッチ ※

走行情報などをG-Linkセンターへ送信します。

G エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2排出量・平均燃費が表示されます。

H アドバイススイッチ

ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Linkサービスをご利用されているときに表示されます。
また、センターディスプレイに通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。
G-Linkの利用手続き・利用開始操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ G-Linkセンターへ送信する走行情報について

G-Linkセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するもの

であり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

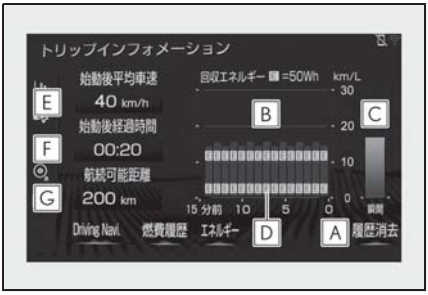
1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、ⓘを選択する

画面に直接タッチして選択することもできます。

2 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

E ハイブリッドシステム始動後平均車速

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

G 航続可能距離（→P.89）

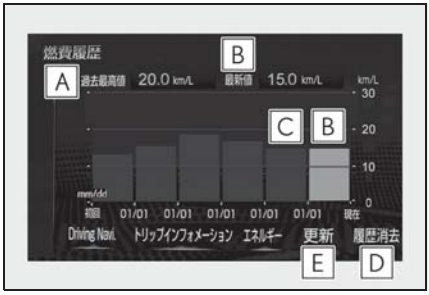
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “ 更新 ” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“ 履歴消去 ” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.72）

サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→P.255）、< または > を選択してお好みの画面を表示します。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。

■ トリップインフォメーション（タイプ A）

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費、回収エネルギーと航続可能距離を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ トリップインフォメーション（タイプ B）

航続可能距離・最新値・始動後走行時間を表示します。

表示される最新値は、参考として利用してください。

■ 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ エネルギーモニター

ハイブリッドシステム動作状況、エネルギーの回収状況を表示します。

エネルギーモニターの見方は、マルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。（→P.85）

運転する前に 3

3-1. キー

キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 96

トランク 100

スマートエントリー＆スタートシステム 104

3-3. シートの調整

フロントシート..... 109

リヤシート 110

パワーイージーアクセスシステム／運転席ポジションメモリー／メモリーコール機能 111

ヘッドレスト 114

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 116

インナーミラー..... 117

ドアミラー 118

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

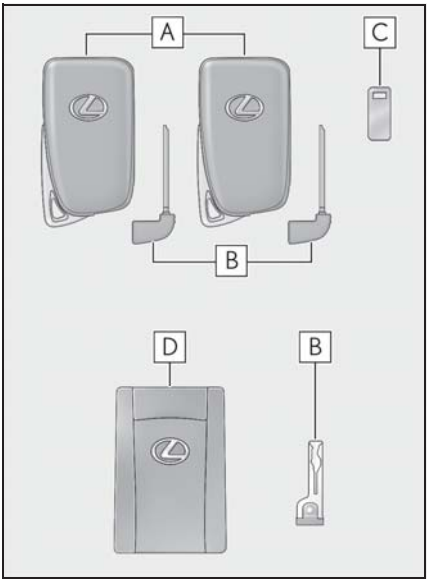
パワーウインドウ..... 121

ムーンルーフ 124

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.104）
・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.104）

知識

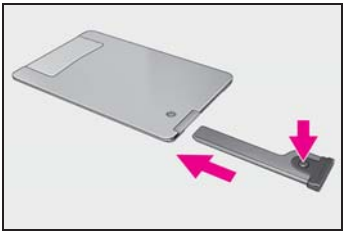
■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

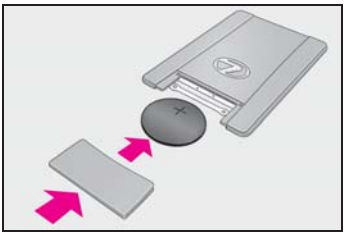
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーの電池は 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、ハイブリッ

ドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P.312

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.355

注意

■電子キーを紛失したとき

→P.354

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

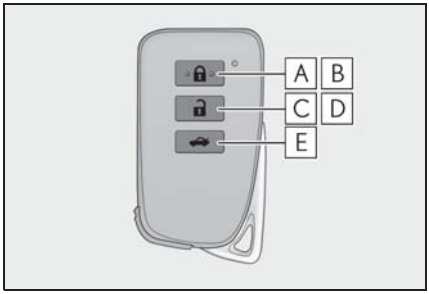
●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について



A ドアの施錠（→P.96）

B ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→P.96）

C ドアの解錠（→P.96）

D ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→P.96）

E トランクを開ける（→P.102）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

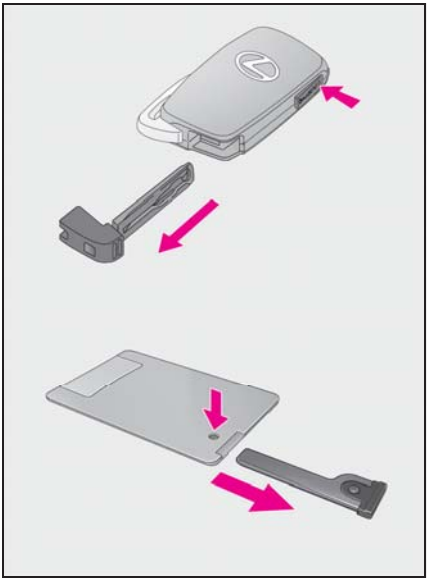
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒

に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
（→P.355）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、ラゲージセキュリティシステムをセット（→P.103）し、グローブボックスを施錠（→P.271）します。

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.354

■不正キーの使用について

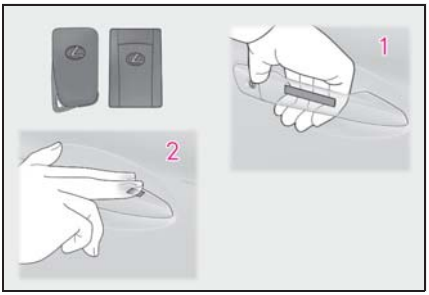
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

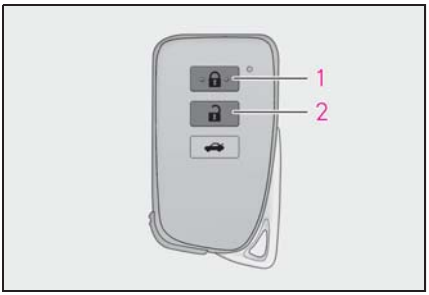
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席のドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。

知識

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.64）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.62）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

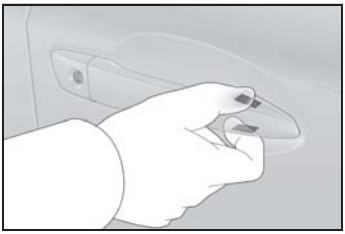
ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.62）

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.355）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.105

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.355）

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.312)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した

●ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉した。

ただし、リヤドアを開けてから 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.372)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.372)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

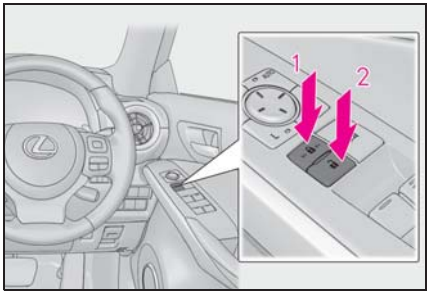
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

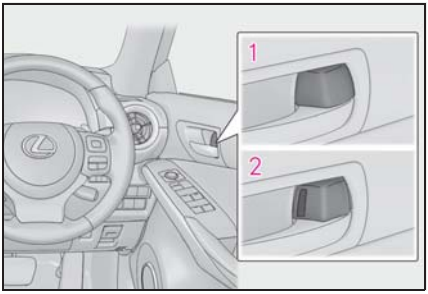
車内から解錠／施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からドアを施錠するには

▶フロント席ドア

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶リヤ席ドア

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアを閉める

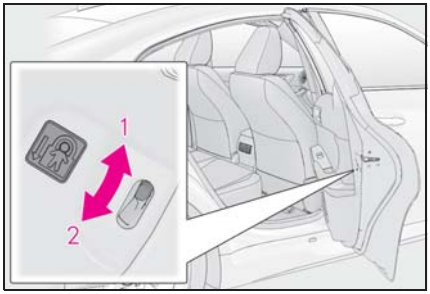
パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

ボンネット、いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていません。ボンネット、各ドア、またはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。ボンネット、全ドア、およびトランクを確実に閉めてください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.372 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

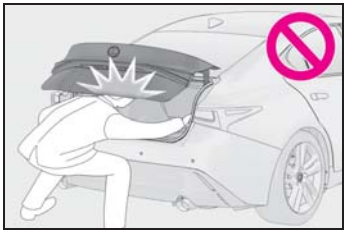
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ **トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

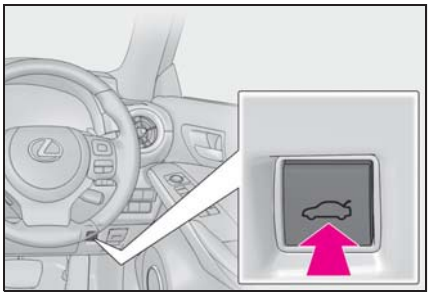


- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

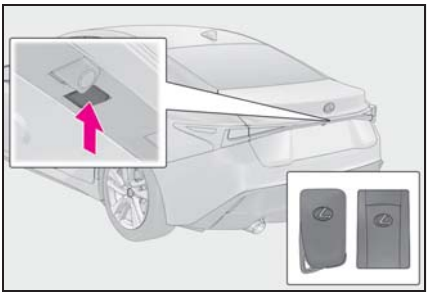


車外からトランクを開ける

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用して開く

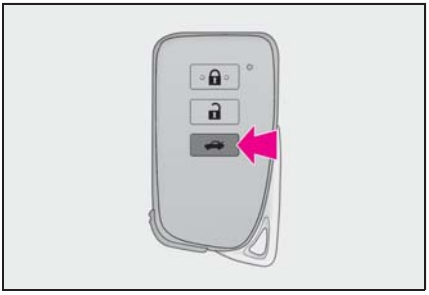
電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

車内のロックレバー以外ですべてのドアが解錠されているときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。



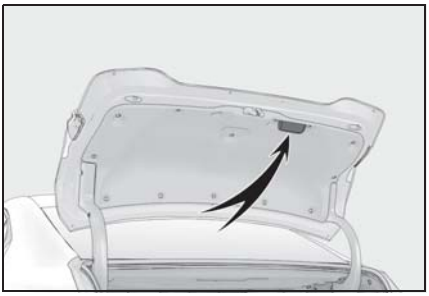
■ ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける



トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



知識

■ トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■ メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→P.356)

■ スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→P.356)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.312)

■**マルチインフォメーションディスプレイにトランクが開いているメッセージが表示されたときは**

→P.99

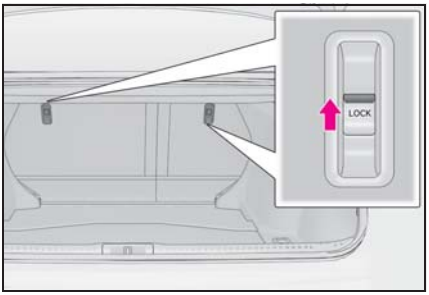
■**カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.372)

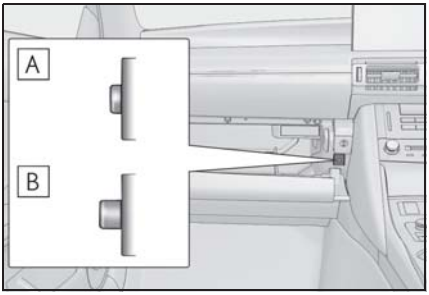
ラゲージセキュリティシステム

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、ラゲージセキュリティシステムをセットできます。

1 ラゲージセキュリティシステムレバーを施錠側にする



2 グローブボックス内のメインスイッチを OFF にして、トランクオープナースイッチを無効にする



A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■**駐車場などでキーを預けるときは**

→P.95

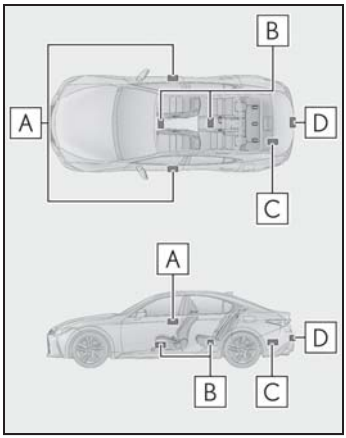
スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→P.96）
- トランクを開ける（→P.101）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.135）

知識

■アンテナの位置



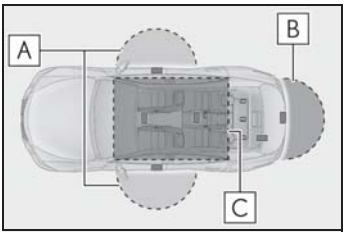
A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.341）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

- 車外から警告音が“ピー”と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉めた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉めてください。

●車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイにスマートエントリー＆スタートシステム故障の警告メッセージが表示されたときは

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

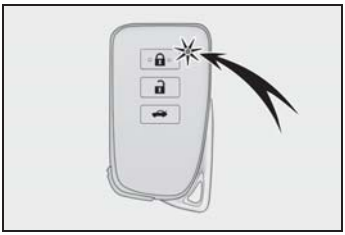
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの🔒を押しながら、🔓を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.355）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・

空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.105）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったとき

に、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.105）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→P.102）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→P.355

●ハイブリッドシステムの始動：→P.356

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→P.96, 102, 355）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.356

●ハイブリッドシステムの停止：→P.137

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.104）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

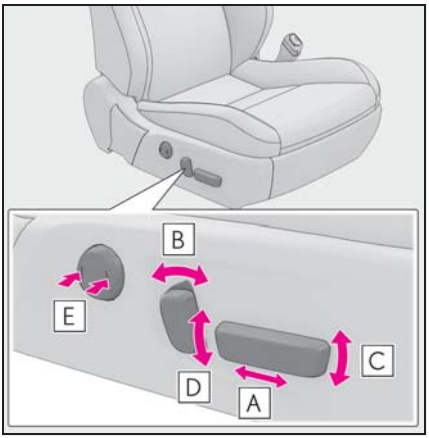
●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D クッション後端の上下調整

E 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

知識

■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。
（→P.111）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シートを調整するときは

●ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

●リヤシートを折りたたんでいるとき、フロントシートの背もたれがリヤシートにあたる場合は、あたらない位置へ調整してください。正しい運転姿勢がとれない場合は、リヤシートを元の位置へもどしてください。（→P.110）

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれを前倒しするときは

●走行中に前倒しをしない

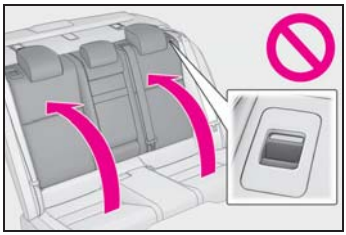
●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする

●倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない

●お子さまがトランクに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

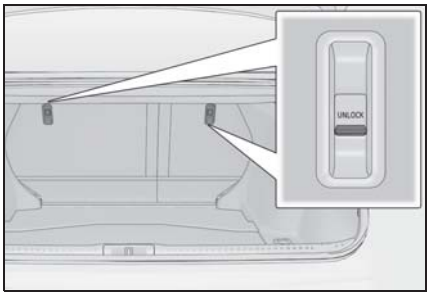
●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



●シートベルトを挟み込まないようにする

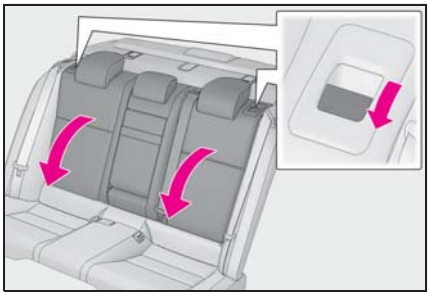
背もたれを倒す

1 ラゲージセキュリティシステムレバーが解除側になっていることを確認する



2 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

もどすときは、背もたれを起こして固定します。



ラゲージセキュリティシステム

→P.103

パワーイージーアクセスシステム★／運転席ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

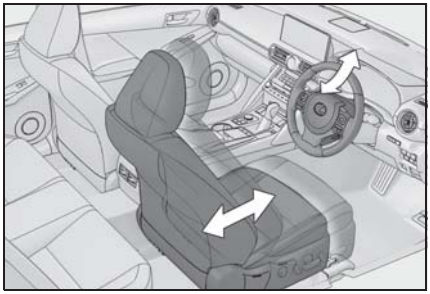
ドライビングポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

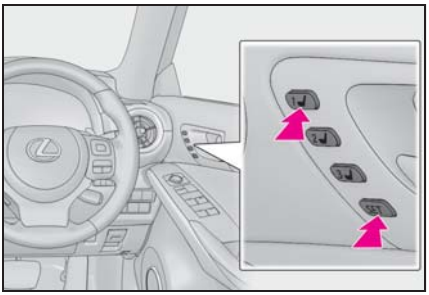
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

ドライビングポジションを登録するには

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. パワースイッチを ON モードにする
3. 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
4. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

■登録できるシート位置（→P.109）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

警告

■シート調整時の警告

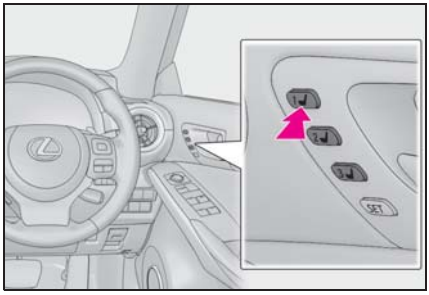
シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は、パワースイッチを押すと調整されます。

電子キー（カードキーを含む）にドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

■ 登録方法

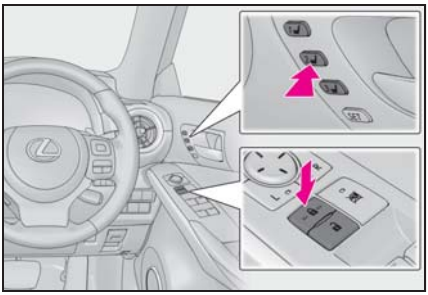
お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタ

ンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2 パワースイッチを ON モードにする
3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピー ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON モードにする
2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

ヘッドレスト

警告

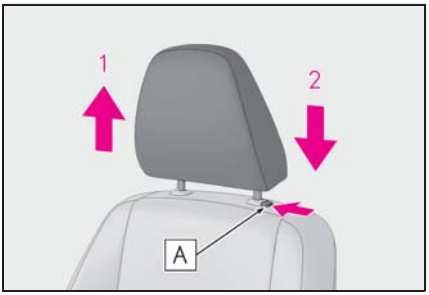
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

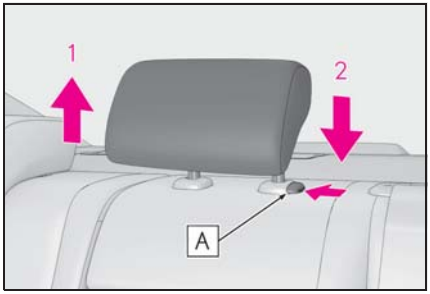
▶ フロント席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

▶ リヤ席



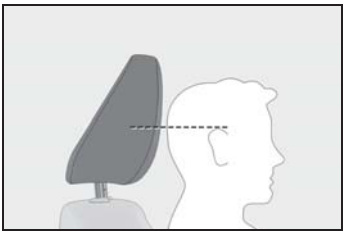
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



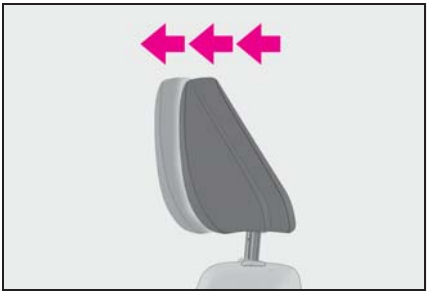
■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整

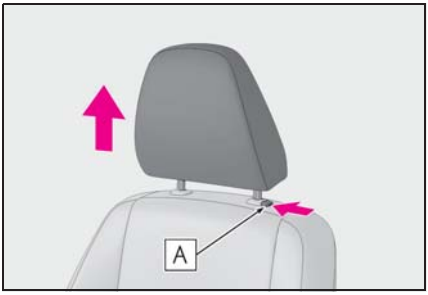
ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。
(→P.109)

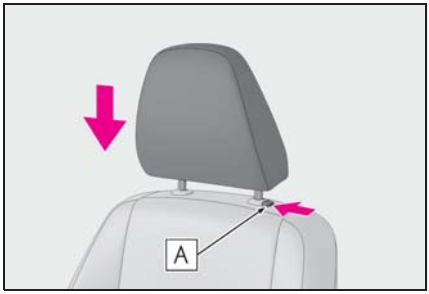


ヘッドレストを取り付けるには

▶ フロントシート

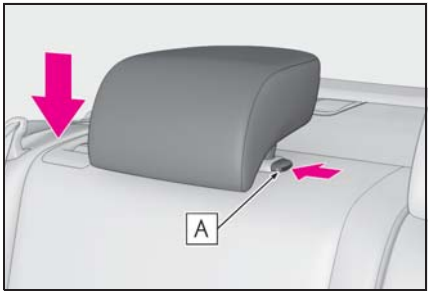
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



▶ リヤシート

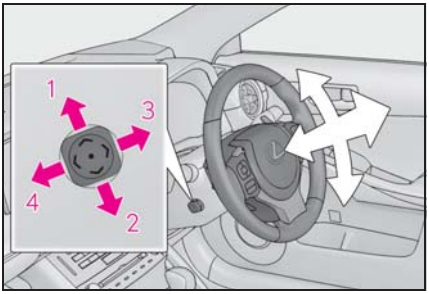
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンAを押しながら最下部のロック位置まで押し下げてください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.111）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.111）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

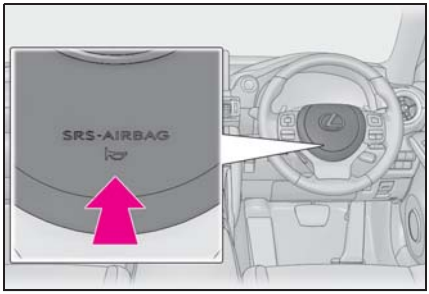
警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります



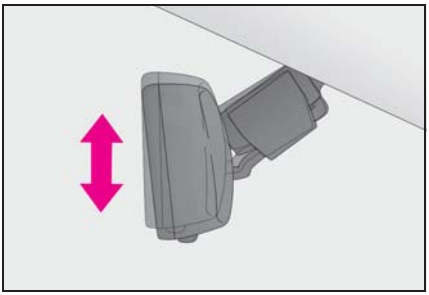
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

■走行中の留意事項

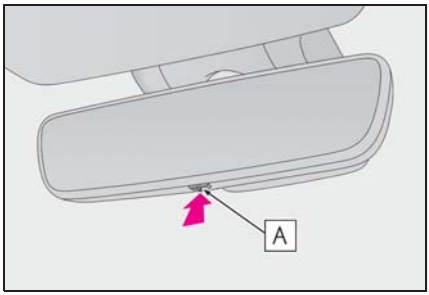
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

自動防眩機能を使うには

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

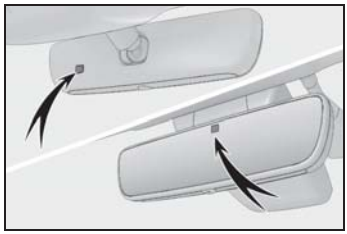
ON のときはインジケーター A が点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

警告

■走行中の留意事項

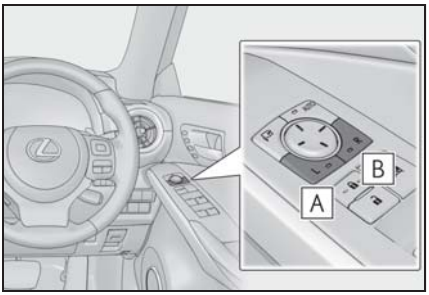
走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

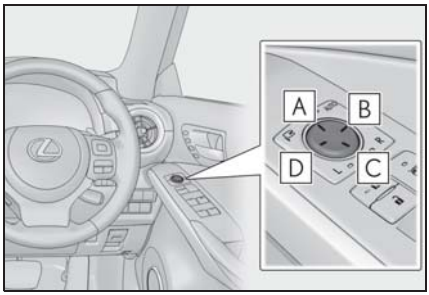


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.258)

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.111)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.117)

■リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡

面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときは、シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき

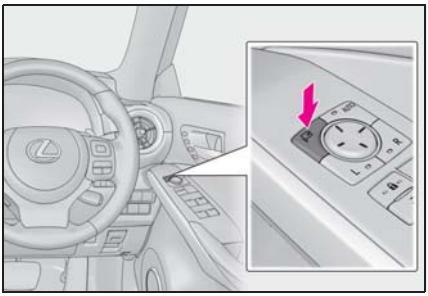
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



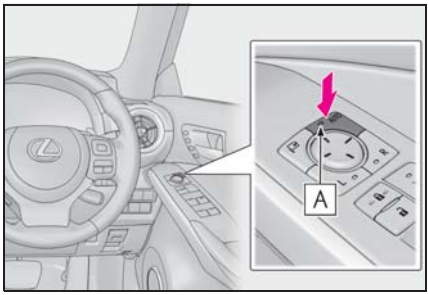
■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。（→P.372）

警告

■ミラーが動いているとき

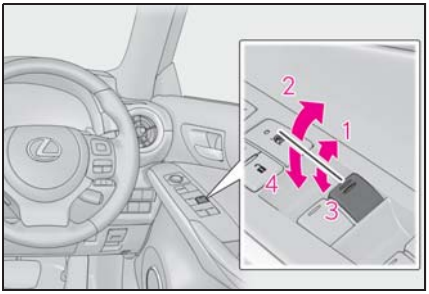
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドア

ガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.356）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.96）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.62）

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

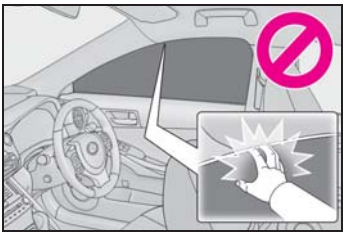
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.123）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

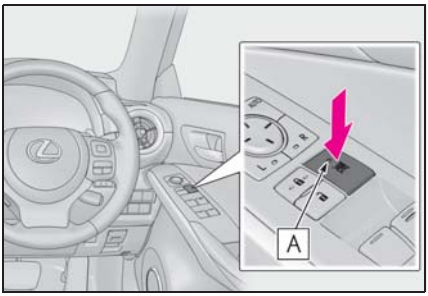
●巻き込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■**作動条件**

パワースイッチがONモードのとき

■**補機バッテリーをはずしたとき**

ウインドウロックスイッチがOFFになるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチをONにする必要があります。

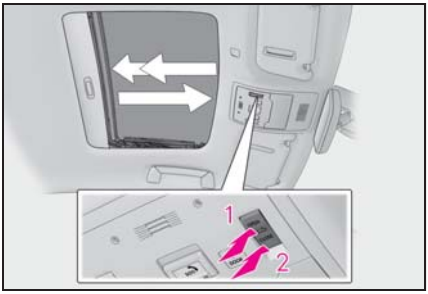
ムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ ムーンルーフを開閉するには



1 ムーンルーフを開く ※

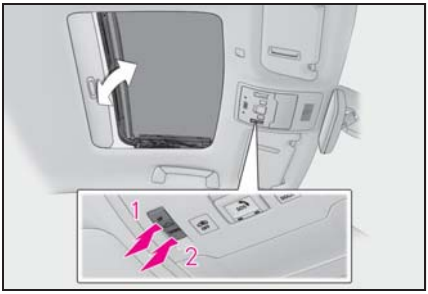
全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップ ※

2 チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※ （→P.356）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※ （→P.96）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。

■ オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.62）

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “UP” 側を押し続け ※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度 “UP” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “UP”、または、“CLOSE” 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.372)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

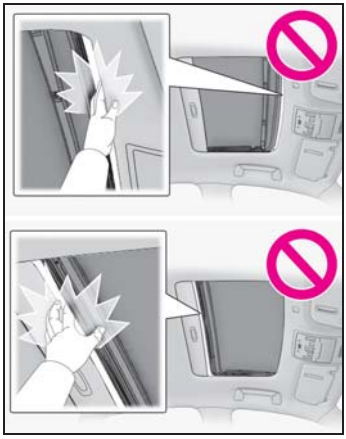
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 128

荷物を積むときの注意..... 134

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 135

EV ドライブモード 139

トランスミッション..... 140

方向指示レバー..... 145

電動パーキングブレーキ 146

ブレーキホールド..... 149

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 151

AHB（オートマチックハイビーム） 154

フォグランプスイッチ..... 156

ワイパー＆ウォッシャー 157

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 162

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + ... 165

PCS（プリクラッシュセーフティ） 170

LTA（レーントレーシングアシスト） 180

RSA（ロードサインアシスト） 190

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 193

先行車発進告知機能..... 202

ドライバー異常時対応システム 204

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 209

PKSA（パーキングサポートアラート）.....213

クリアランスソナー.....214

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....222

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....227

パーキングサポートブレーキ（静止物）.....233

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....236

ドライブモードセレクトスイッチ 237

運転を補助する装置.....239

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 246

寒冷時の運転 248

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.135

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.140）
2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→P.146）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P.140）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
2 パーキングブレーキをかけて（→P.146）、シフトレバーを P にする（→P.140）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.141）
2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P.146）
3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.240）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.246）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンド

ルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.324 を参照してください。

警告

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.140)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N に入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

警告

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READYインジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READYインジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.344 を参照してください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき ※

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.241）すると、急発進の抑制制御も停止 ※ します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.241）

※ 後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.372）

・パワースイッチを ON モードにしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・センターディスプレイの前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

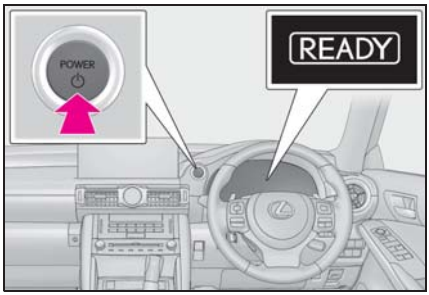
4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.61）レクサス販売店へご連絡ください。

●シフトレバーがＰの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、Ｐ以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.55

■電子キーの電池の消耗について

→P.92

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.105

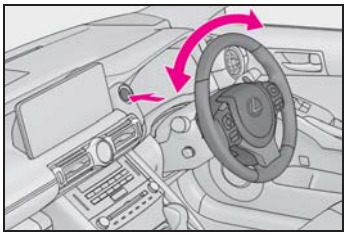
■ご留意いただきたいこと

→P.106

■ステアリングロック機能

●パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください” が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



●短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.60

■電子キーの電池が切れたときは

→P.312

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→P.355

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→P.146）、シフトレバーを P の位置にする
3 パワースイッチを押す
4 ブレーキペダルから足を離した状態にしてメーターの表示が消灯していることを確認する

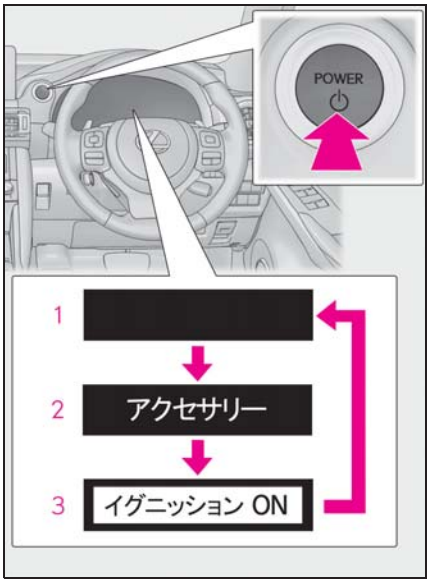
警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。
（→P.324）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。
メーターに “イグニッション ON” が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メーターの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに “電源を Off してください” が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの “電源を Off してください” の表示が消灯していることを確認する

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。
シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

EV ドライブモード

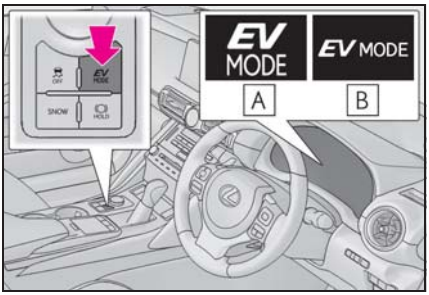
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



A F SPORT 以外

B F SPORT

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0°C を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.84）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.84）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだと

きや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2（→P.143）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- D･S モードで走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき（→P.142）
- D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P.237）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.133

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

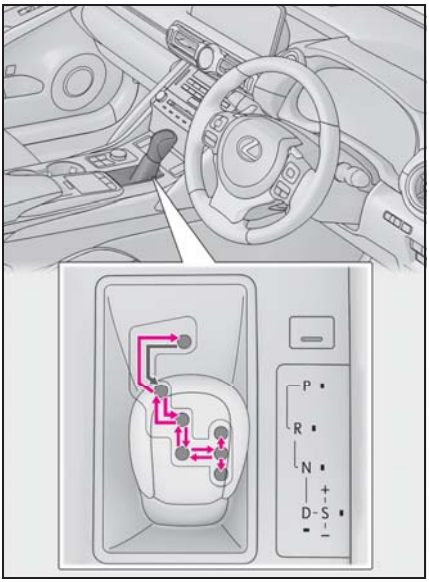
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



パワースイッチがONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチがONモードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

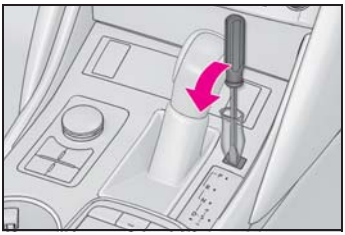
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.147）
2 パワースイッチをOFFにする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

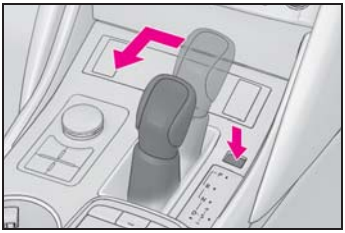
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

ださい。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

■ スポーツモード・エコドライブモード

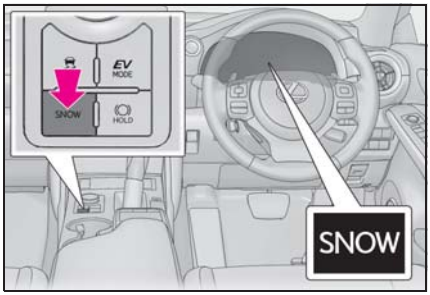
→P.237

■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



知識

■スノーモードの自動解除

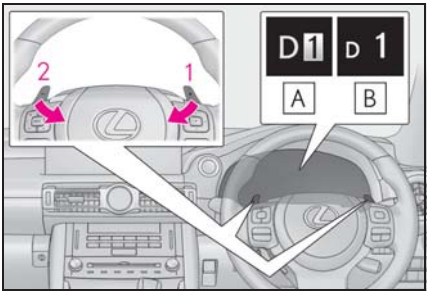
スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

D ポジションでのシフトレンジ選択

パドルシフトスイッチの “－” 側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。

シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



A F SPORT 以外

B F SPORT

1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、車速に応じて D2・D3・D4 もしくは D5 に設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

■ **シフトレンジ機能**

● エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。

● シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■**Dポジションでパドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき**

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■**Dポジションでのレンジ選択の自動解除**

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

● 停車したとき

● アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

● シフトレバーを D 以外にしたとき

■**シフトダウン制限警告ブザー**

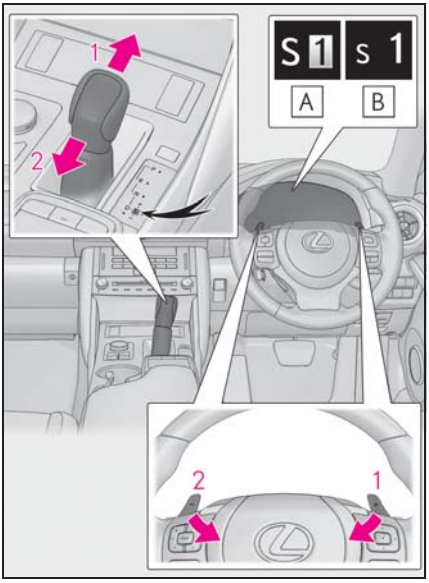
安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

S モードでのシフトレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



A F SPORT 以外

B F SPORT

1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて S2・S3・S4 もしくは S5 に設定されます。

■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 1 から 4 のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、シフトレンジが自動的に切りかわります。

知識

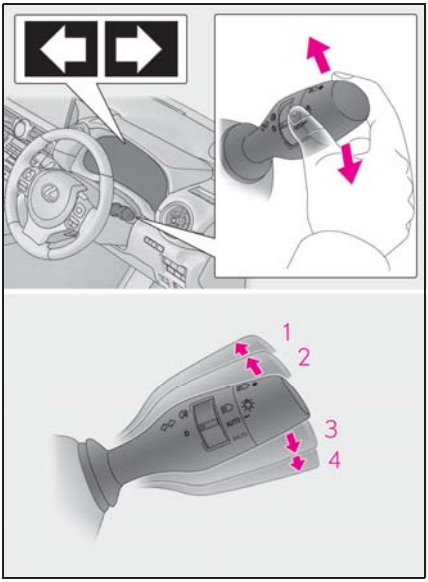
■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の **2** または **3** の位置に操作してください。レバーを **1** または **4** の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

電動パーキングブレーキ

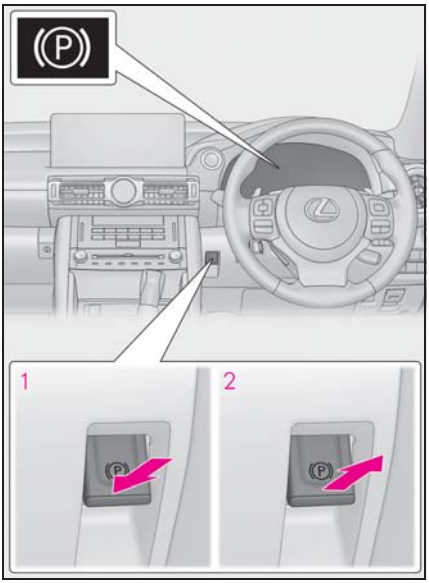
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ **マニュアルモード**

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

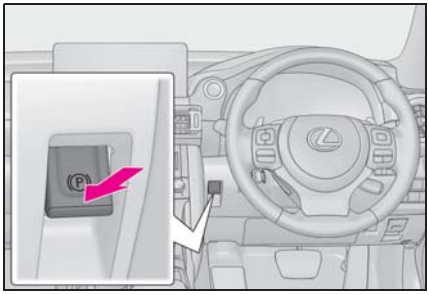
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.339)

■ **オートモードを ON にする**

停車中に、“EPB シフト連動機能 ON” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

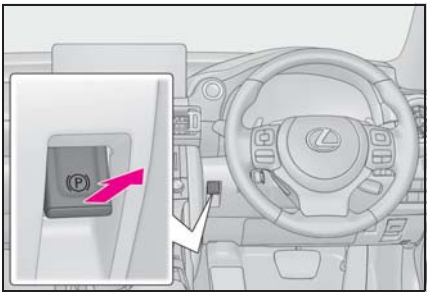
● シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかか

り、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 OFF” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける



知識

■パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

- 運転席ドアが閉じている
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
  ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
  ON モード以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■駐車するとき

→P.249

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.333

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.248

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

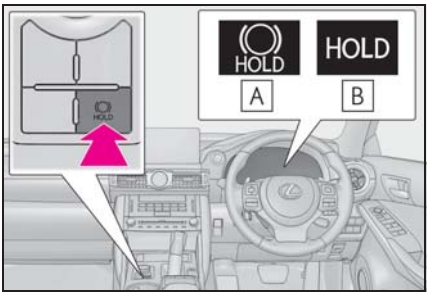
ブレーキホールド

シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

●パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.146）

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールド

スイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.339

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

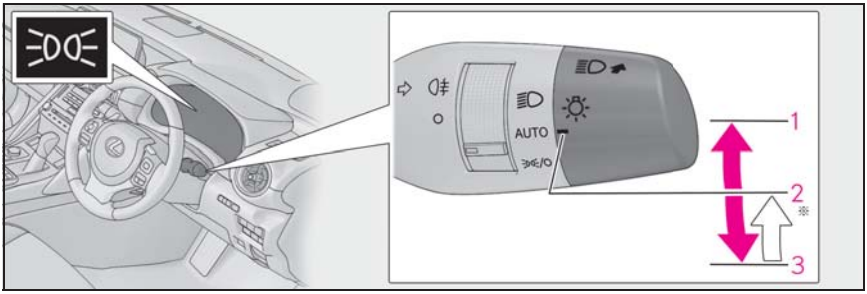
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO ※1	LED デイライト（→P.152）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

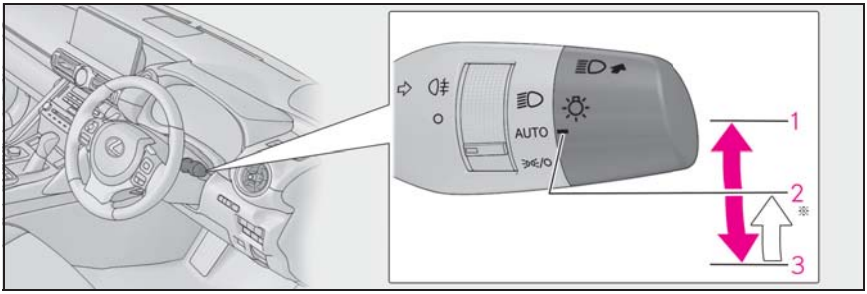
※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→P.152）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

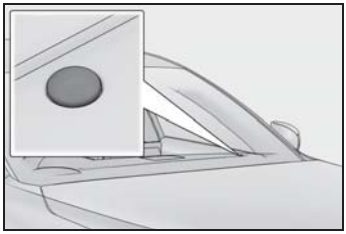
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから ≡DC/O または≡○の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

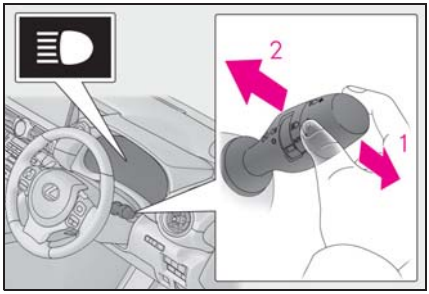
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.372)

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

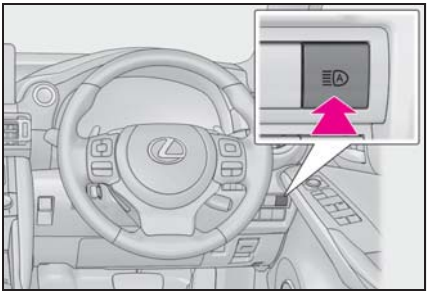
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

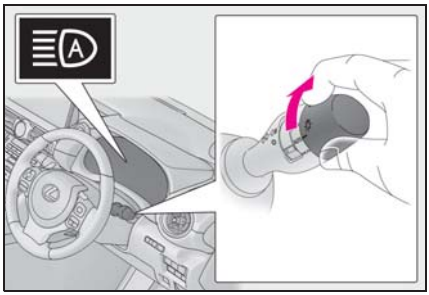
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを⇒または

AUTOの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームが作動し、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイ

ビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

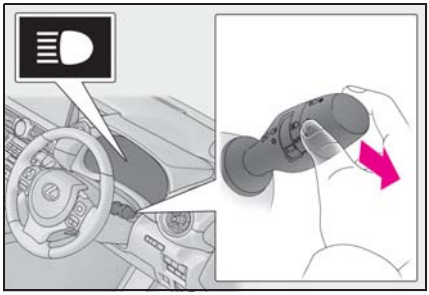
手動切りかえのしかた

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーをもとの位置にもどします。



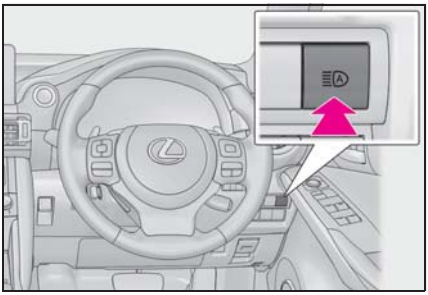
■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯

します。

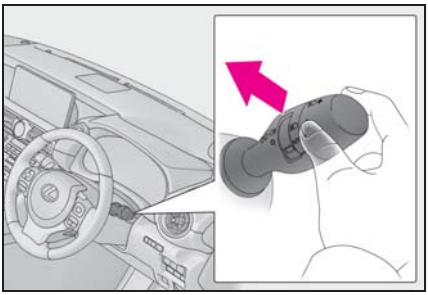
オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

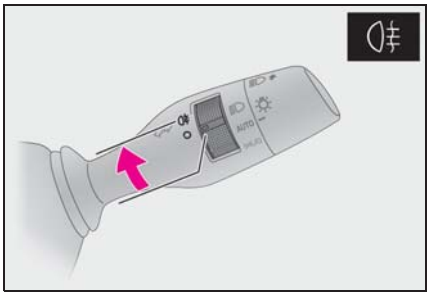
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

リヤフォグランプを点灯のしかた

リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



知識

■ 点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

■ リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

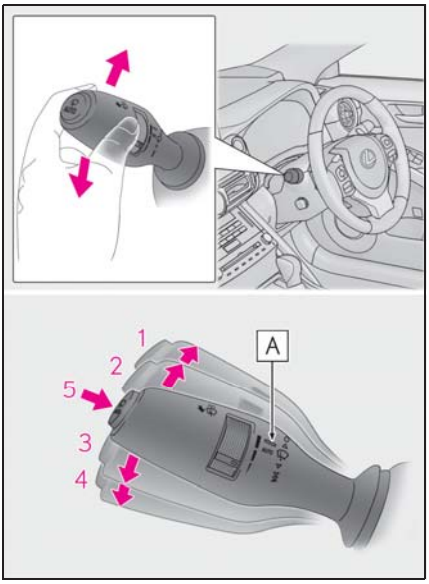
⚠注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



1 ○ レバーを 2 段階上げる

2 △ レバーを 1 段階上げる

3 ▽ レバーを 1 段階下げる

4 ▽▽ レバーを 2 段階下げる

5 AUTO モード ON/OFF スイッチ

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動する AUTO モードの ON/OFF を切りかえます。
AUTO モードのときは、AUTO モード表示灯 A が点灯します。

操作前の状態によって、レバーを操作したときのワイパー作動は次のように切りかわります。

▶ 操作前の状態：停止

操作する位置	作動
○	一時作動
△	一時作動
▽	低速作動
▽▽	高速作動

▶ 操作前の状態：低速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	停止
▽	高速作動
▽▽	高速作動

▶ 操作前の状態：高速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	低速作動
▽	変化なし
⧗	変化なし

▶ 操作前の状態：AUTO モード（間欠作動）

操作する位置	作動
○	停止
△	一時作動 ※1
▽	低速作動 ※2
⧗	高速作動 ※2

※1一時作動後、AUTO モードにもどります。

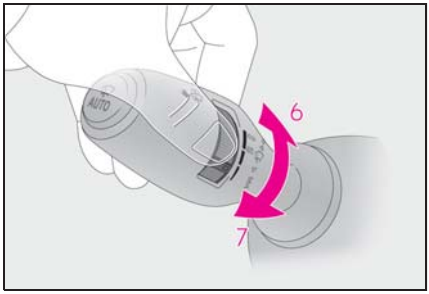
※2AUTO モードは解除されます。

▶ 操作前の状態：AUTO モード（連続作動）

操作する位置	作動
○	停止
△	変化なし
▽	低速作動 ※
⧗	高速作動 ※

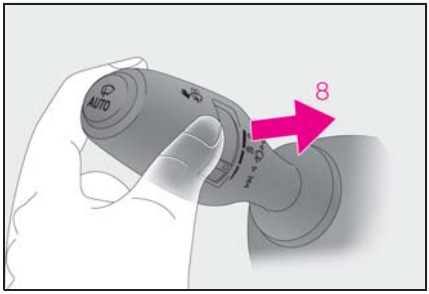
※ AUTO モードは解除されます。

AUTO モードのときは、次のように ツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

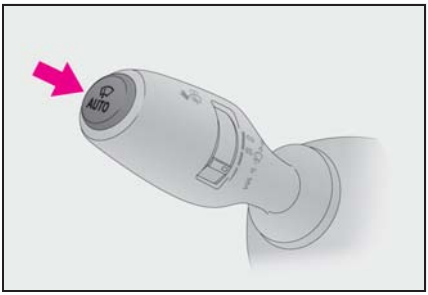
ヘッドランプクリーナー装着車：
パワースイッチが ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

間欠時間調整式ワイパーへの切りかえ

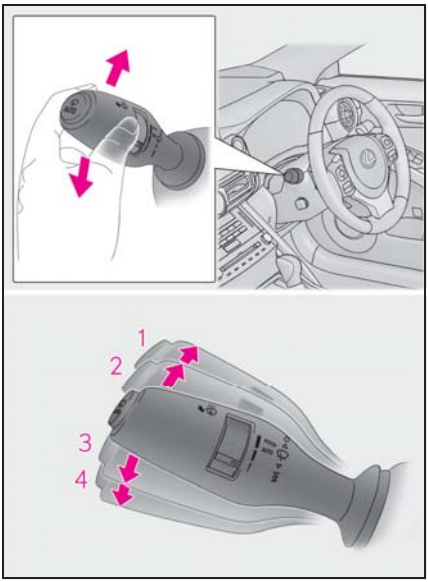
雨滴量や車速に関係なく間欠作動する、間欠時間調整式ワイパーとして使用することができます。停車中で、ワイパーが停止状態のときに切りかえることができます。AUTO モードのとき、または間欠作動中は切りかえることができません。

AUTO ボタンを AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続ける

もう一度 AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続けるともとにもどります。



■ **間欠時間調整式ワイパーの作動**



1 ○ レバーを 2 段階上げる

2 △ レバーを 1 段階上げる

3 ▽ レバーを 1 段階下げる

4 ⧗ レバーを 2 段階下げる

操作前の状態によって、レバーを操作したときのワイパー作動は次のように切りかわります。

▶ 操作前の状態：停止

操作する位置	作動
○	一時作動
△	一時作動
▽	間欠作動
⧗	高速作動

▶ 操作前の状態：間欠作動

操作する位置	作動
○	停止
△	停止
▽	低速作動
⧗	高速作動

▶ 操作前の状態：低速作動

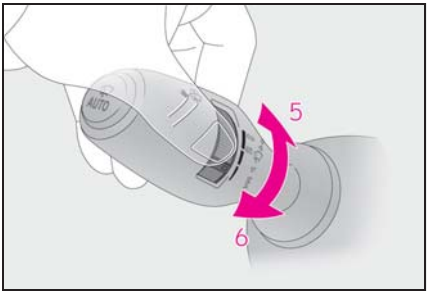
操作する位置	作動
○	停止
△	間欠作動
▽	高速作動
⧗	高速作動

▶ 操作前の状態：高速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	低速作動

操作する位置	作動
▽	変化なし
⧖	変化なし

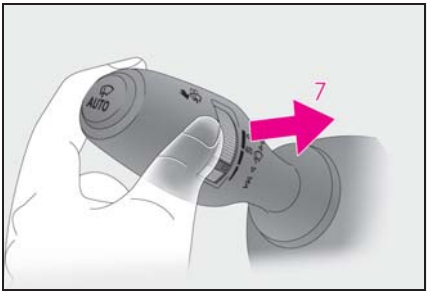
間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 間欠ワイパーの作動頻度（減）

車速が高くなると、作動頻度が増えます。



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
パワースイッチが ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■液だれ防止作動

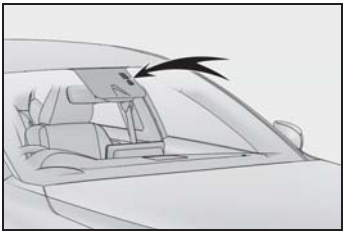
ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■車速による作動への影響

- 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。
- 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または－ 30 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用し

てください。

■ワイパーが一時作動しているとき

AUTO を押しても AUTO モードに切りかわりません。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

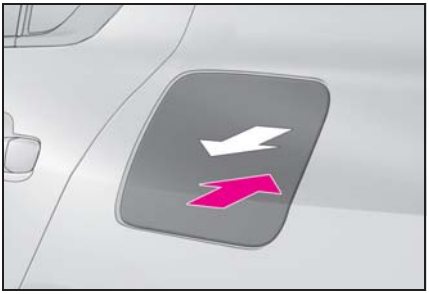
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

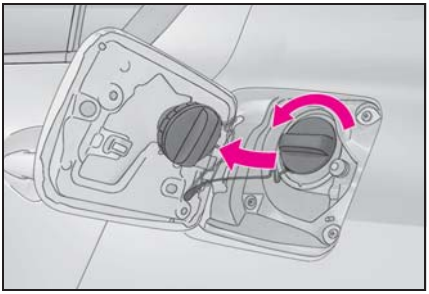
給油口を開けるには

1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

“カチッ” と音がするまで押し、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

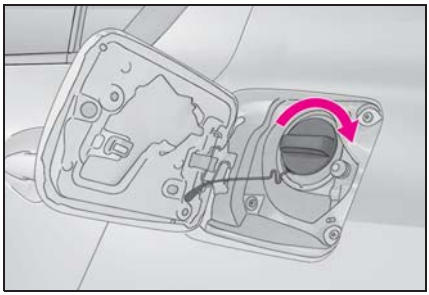
■**給油扉が開かないとき**

→P.355

給油口の閉め方

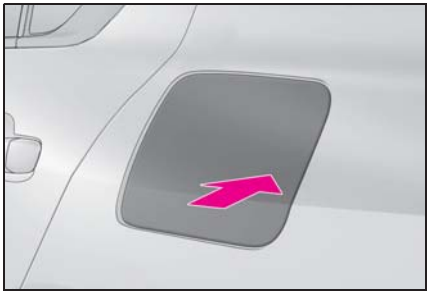
1 キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を “カチッ” と音がするまで押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

■**給油扉の施錠について**

次の場合、ドアが施錠されても給油扉は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき（→P.100）
- ドアを施錠したあとに給油扉を閉めたとき

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.170

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.180

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.154

■ RSA (ロードサインアシスト)

→P.190

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.193

■ 先行車発進告知機能

→P.202

警告

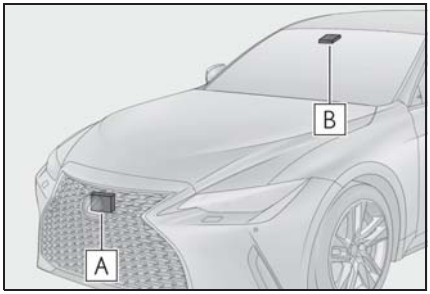
■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

警告

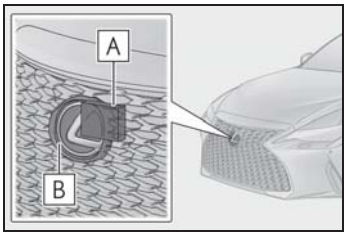
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

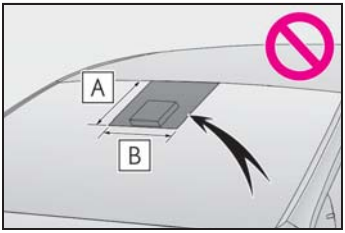
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.257）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.257）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき

・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき

その場合には “ プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください ” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.170）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.173）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象と して検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

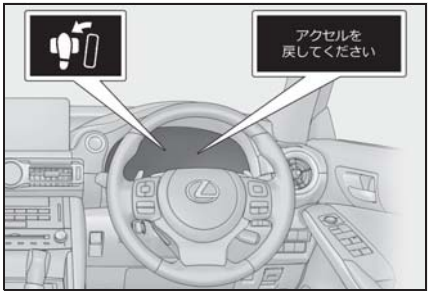
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

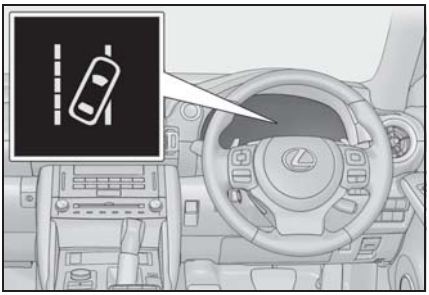
■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

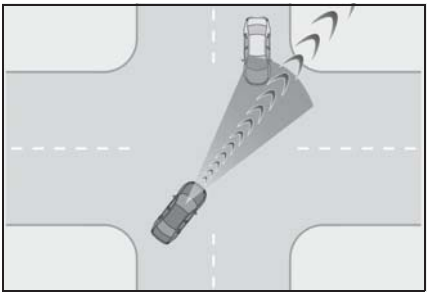


■ 交差点右左折支援

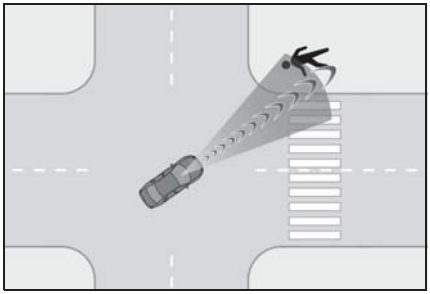
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



■ サスペンションコントロール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.240）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.176

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.177

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

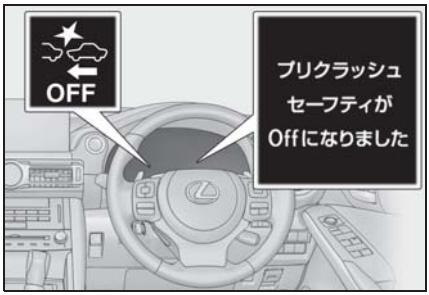
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.79）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



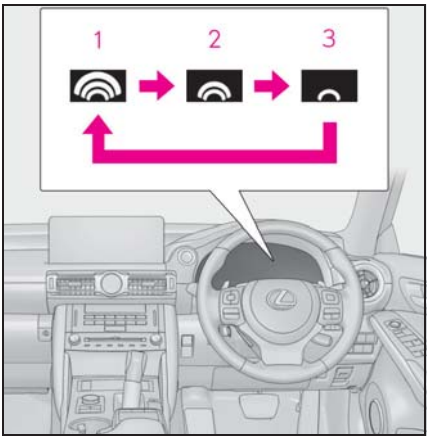
■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.79）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると “ 中間 ” に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■**プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件**

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

・シフトレバーが R のとき

・VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h

作動対象	自車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

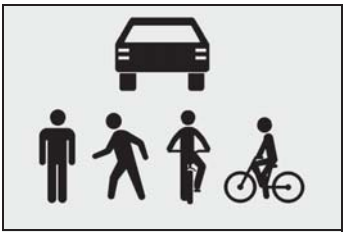
●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■ **作動対象の検出**

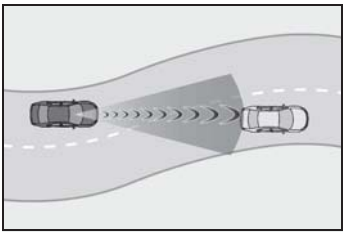
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.177）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



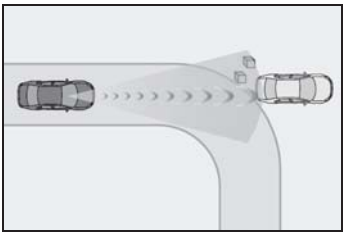
■ **衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

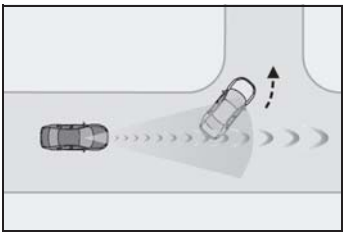
・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



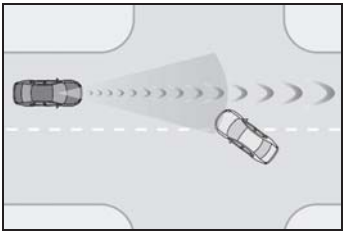
・ 作動対象などに急接近したとき
・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



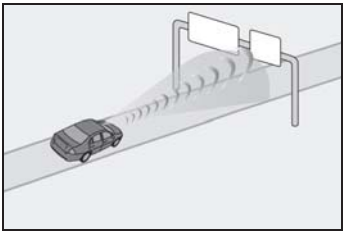
・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



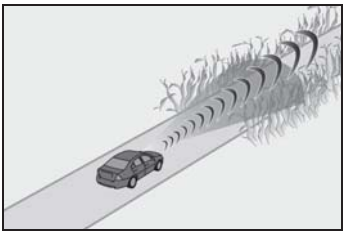
・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



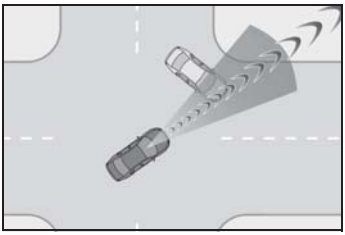
・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・ 洗車機を使用するとき
・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・ テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・ 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・ 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・ 右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

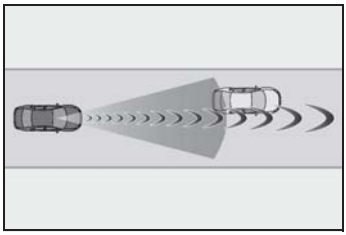


・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・ 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

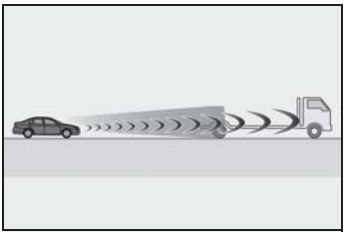
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・ 自車や作動対象がふらついているとき
・ 作動対象が急な動きをしたとき (急ハンドル・急加速・急減速など)
・ 作動対象に急接近したとき

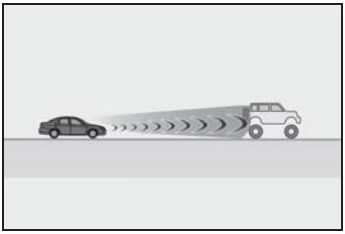
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

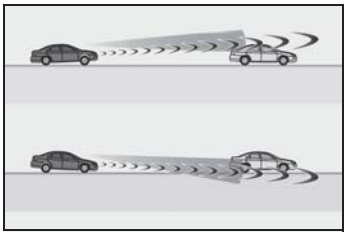


・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

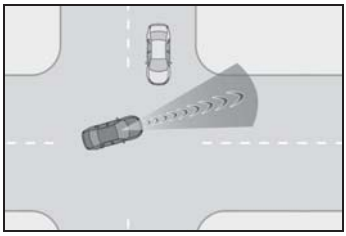


・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

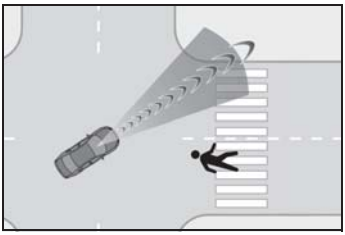
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・車線を区切る白 (黄) 線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど) とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.241）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

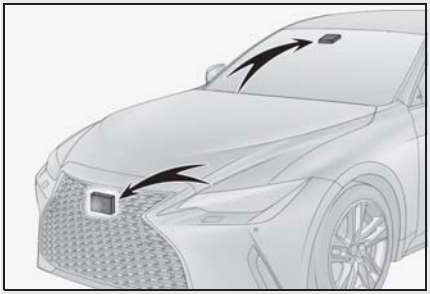
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のため プリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.193）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

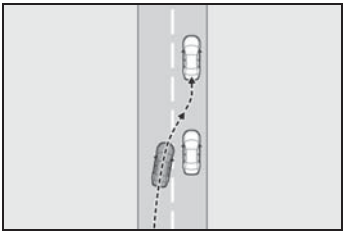
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

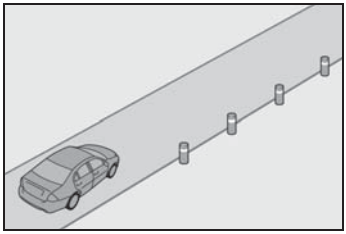


●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

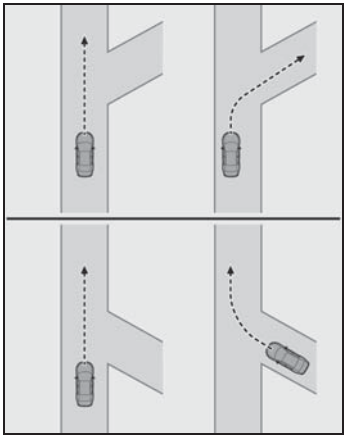
●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

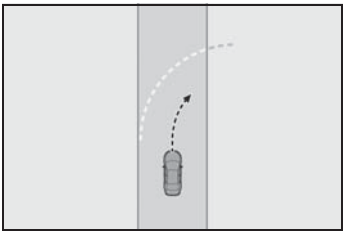
- 先行車追従表示中（→P.186）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

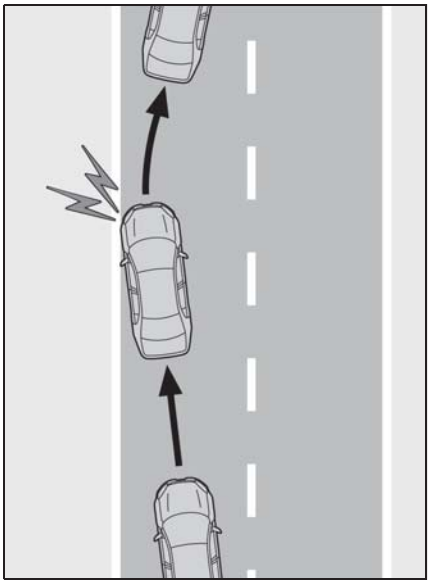
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界



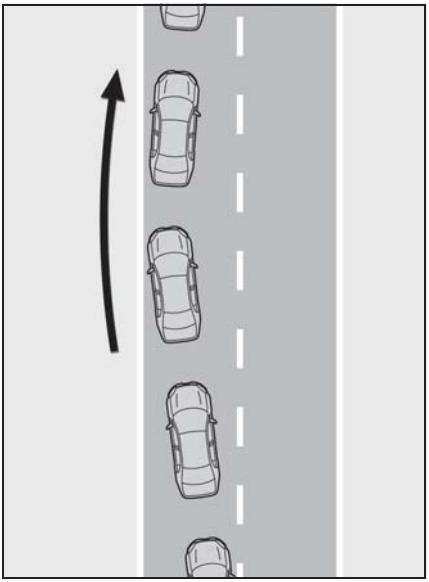
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中

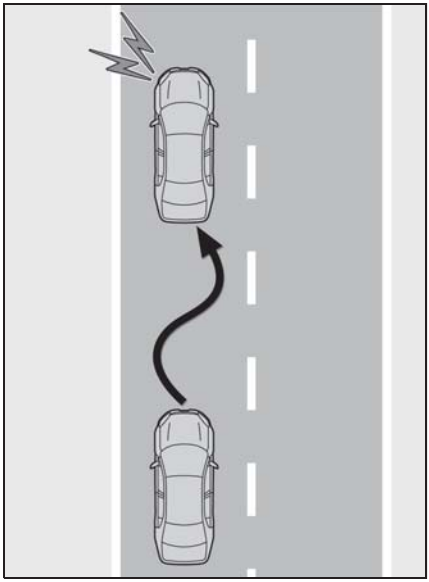
も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

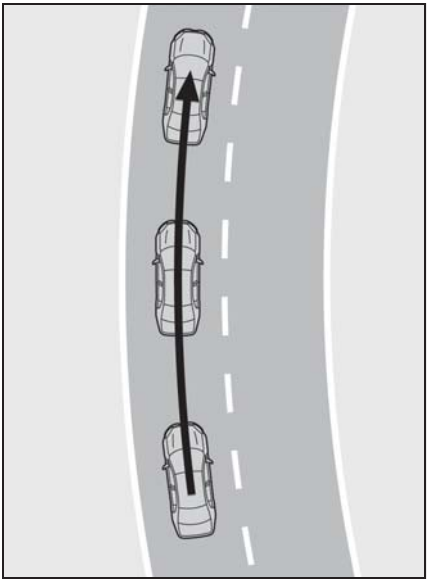


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



設定のしかた

■ LTA を ON にする

LTA スイッチを押す

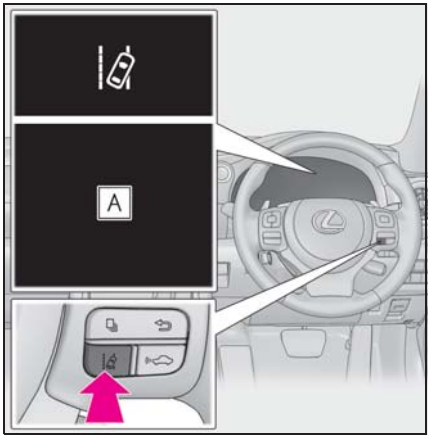
LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 車線維持支援機能のON/OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON/OFF が切りかわります。

現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



▶ 車線維持支援機能 ON

A “LTA　操舵支援　あり　センタートレース　あり ”

▶ 車線維持支援機能 OFF

A “LTA　操舵支援　あり ”

■ LTA を OFF にする

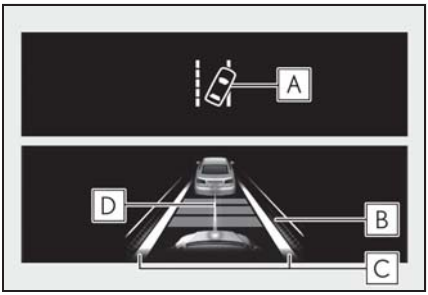
LTA スイッチを長押しする

LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

D 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自

らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.189）

※1車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの で “ふらつき検知” を “On” に設定しているとき（→P.79）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.189）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの で “センタートレース” を “On” に設定しているとき（→P.79）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.189）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.188）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.187）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされ

ると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.187）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で“警報手段”を に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

●車線維持支援機能作動中に カーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注

意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では 使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

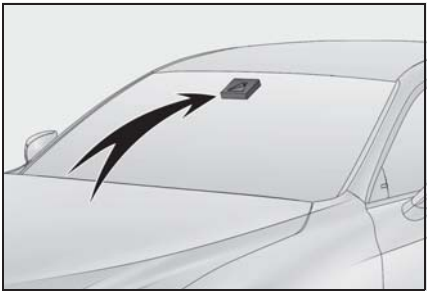
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→P.372）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

警告

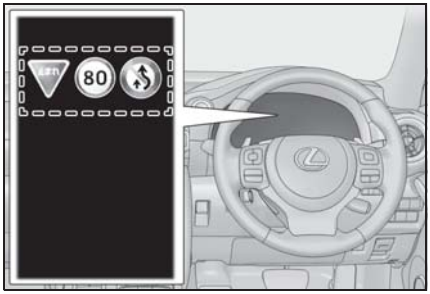
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

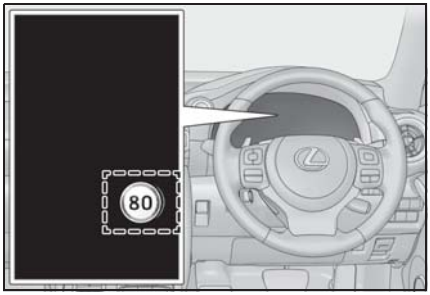
● 運転支援システム情報を選択したときは、最大３つの標識を表示できます。（→P.79）



● 運転支援システム情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。（→P.79）

・最高速度標識

・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して を選択し、 を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RSA” を選択し、 を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝

撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.372）

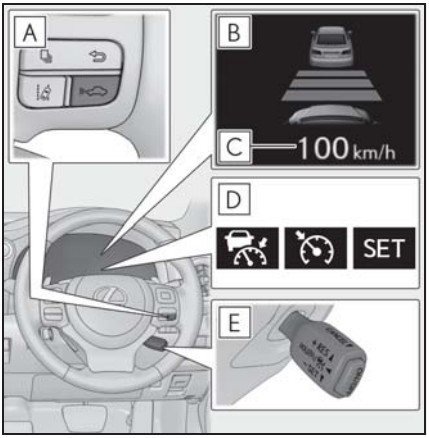
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

● 車間制御モード（→ P.195）
● 定速制御モード（→ P.198）

システムの構成部品



A 車間距離切りかえスイッチ

B マルチインフォメーションディスプレイ

C 設定速度

D 表示灯

E クルーズコントロールスイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.200

・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.201

● 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

● システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON ／ OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

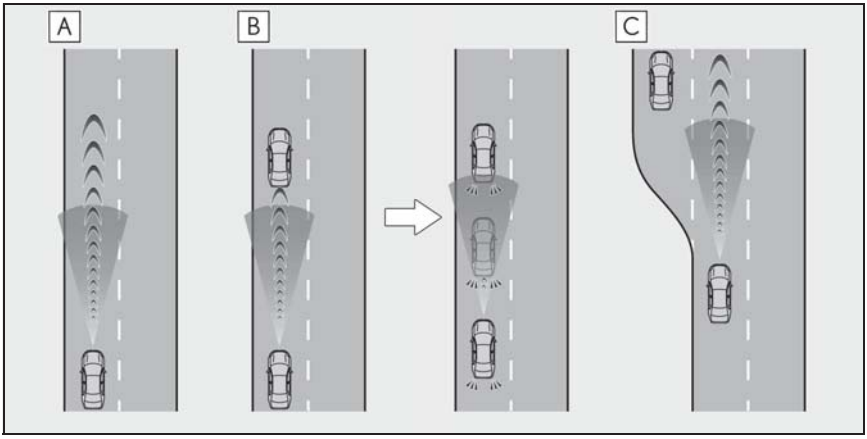
●車両けん引時

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

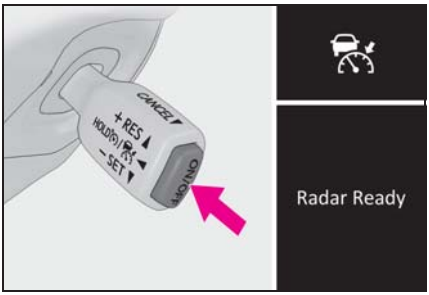
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON ／ OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

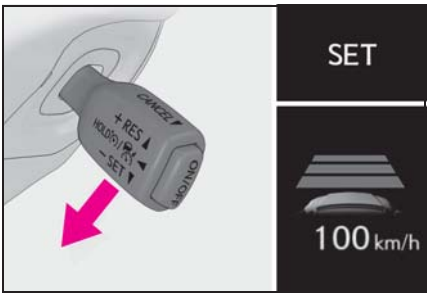
ON ／ OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.198）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

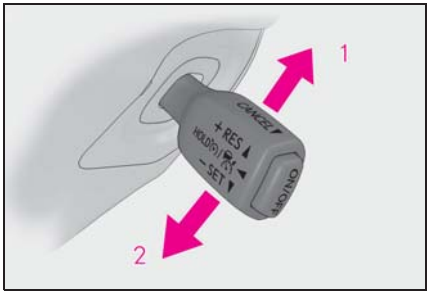
レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● レバーで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.198）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

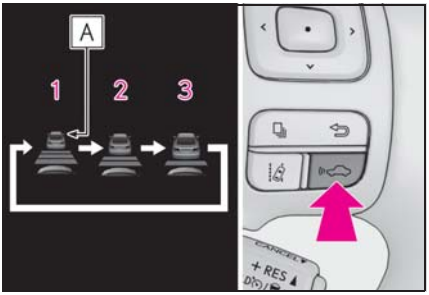
● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 レバーを下げる

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い
2 中間
3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

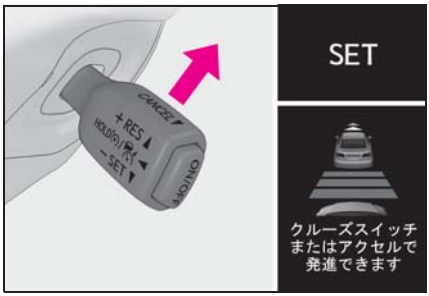
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

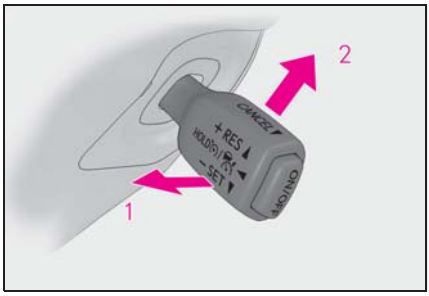
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、レバーを手前に引く

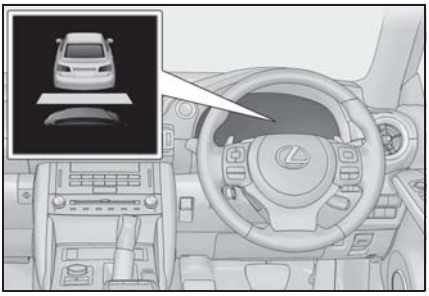
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、レバーを上げる

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブ

ザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

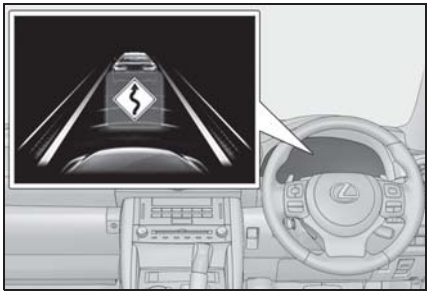
状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

■ システム作動時の表示

車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。



■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの（→P.79）から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON／OFF を切りかえることができます。

を押すごとに設定が切りかわります。

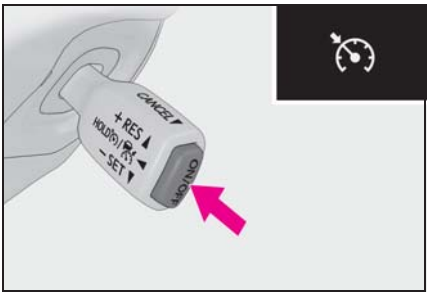
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON／OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON／OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



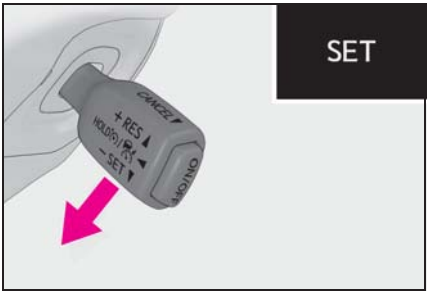
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.196）

制御を解除する・復帰させる（→P.197）



知識

■**設定条件について**

●シフトレバー がDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■**車速設定後の加速について**

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■**追従走行中の停車制御について**

●制御停車中にレバーを上げた場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■**車間制御モードの自動解除**

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■**定速制御モードの自動解除**

次のとき、自動的に定速制御モードが解

除されます。

●設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.168, 341）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

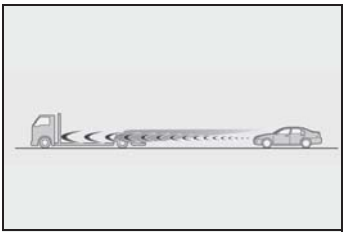
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.197）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

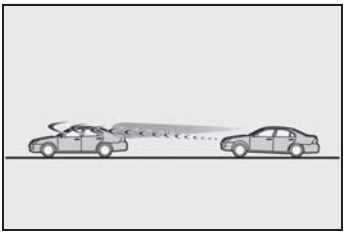
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



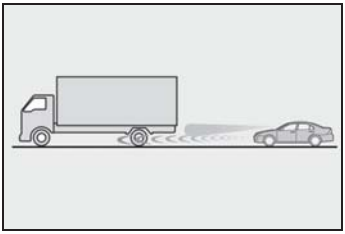
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合
（重い荷物を積んだときなど）



●先行車の車高が極端に高いとき

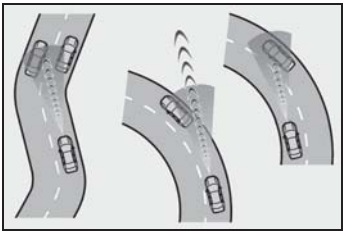


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

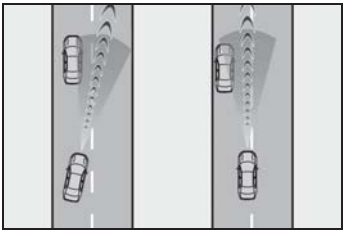
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

●上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

●カーブへの進入速度が過度に高いとき

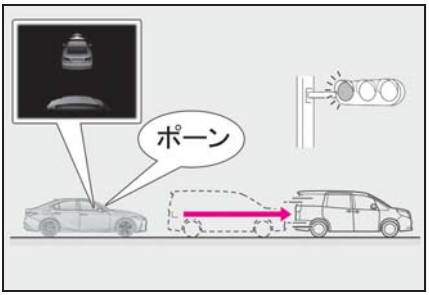
●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、 を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、 を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、 を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、 を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、 を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 告知タイミング ” を選択し、 を押す

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

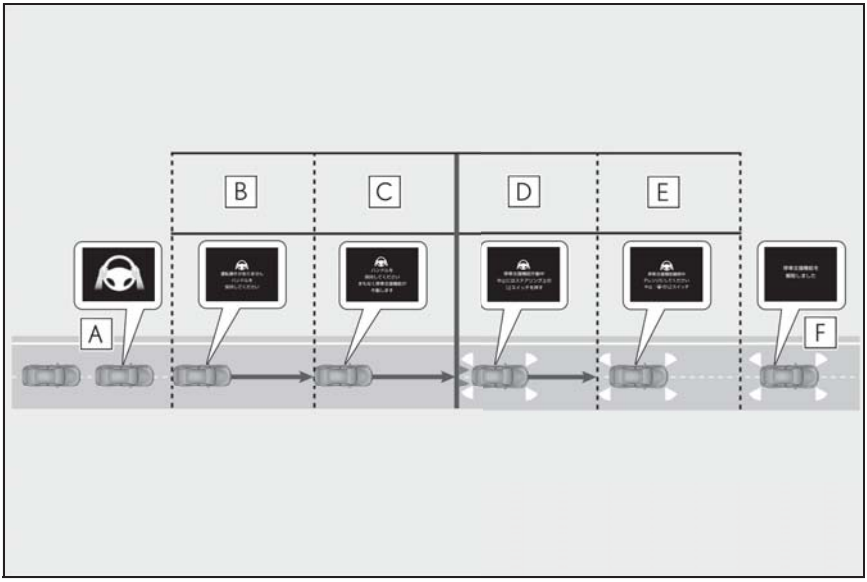
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット※自動接続による運転者の救命要請も行います。

※別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。B「警告1状態」、C「警告2状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常/異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合にはD「減速停止制御」、E「停止保持」で自車を減速、停車させ、E「停止保持」を継続します。



A 手放し運転警告（→P.188）

B「警告 1 状態」

C「警告 2 状態」

D「減速停止制御」

E「停止保持」

F 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。
G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA スイッチを ON し、LTA 制御中

●レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中

●自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

●B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
・運転者がブレーキ操作をしたとき
・運転者がアクセル操作をしたとき
・ブレーキ異常検出時
・方向指示レバーを操作したとき

●E「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
・パワースイッチを ON モードから OFF にしたとき
・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

●B「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき

●C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）

●手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（C「警告 2 状態」および D「減速停止制御」のみ）

●運転者がブレーキ操作をしたとき

●運転者がアクセル操作をしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディ

スプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。（→P.189）

■ **ドライバー異常時対応システムの留意事項**

- ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピッ、ピッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、C「警告 2 状態」に移行します。

C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40km/h ～ 50km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、D「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。

知識

■ **非常点滅灯（ハザードランプ）について**

C「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピーーー」）とマルチインフォメー

ションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると E「停止保持」に移行します。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

D「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

E 「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

E「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。
ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯します。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

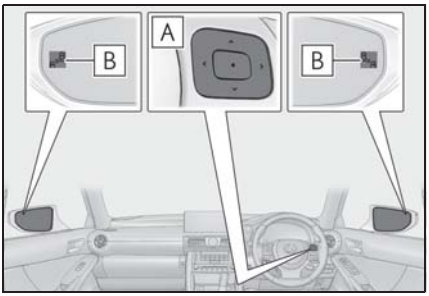
■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

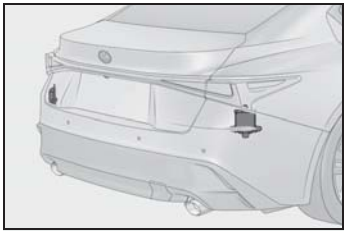
警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.209）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.212）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。

1 ＜ または ＞ を押して を選択する

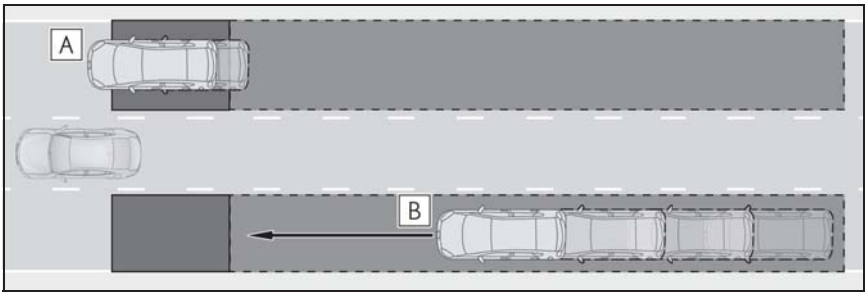
2 ∧または∨を押して BSM を選択し、 を押す

BSM 機能が OFF の時は、BSM OFF 表示灯（→P.70）が点灯します。
パワースイッチが ON モードになるたび、BSM 機能は ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

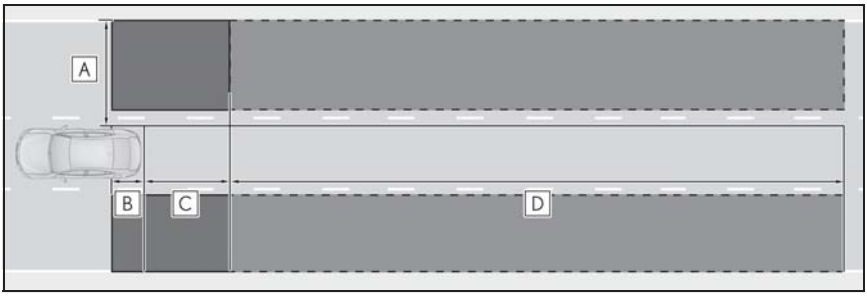


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトレバーが R 以外のとき

●車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

PKSA（パーキングサポートアラート）

PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせするRCTA （リヤクロストラフィックアラート）機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

駐車支援機能

■ クリアランスソナー

→P.214

■ RCTA （リヤクロストラフィックアラート）

→P.222

警報ブザー

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.80）

1 ＜ または ＞ を押して を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、 を押す

3 ∧ または ∨ を押して を選択し、 を押す

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ **ブザー音の一時ミュート（消音）**

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

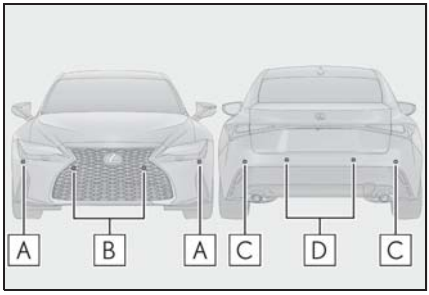
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ **センサーの種類**

▶ F SPORT 以外



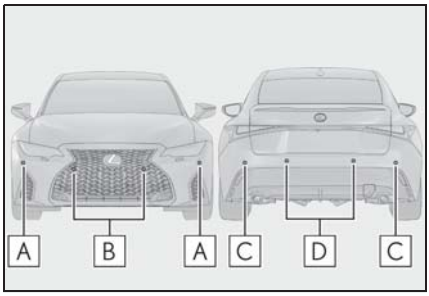
A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

▶ F SPORT



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

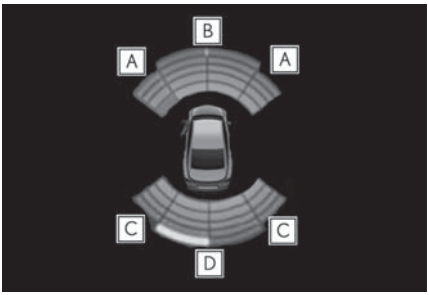
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ **クリアランスソナーの表示のしかた**

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイに表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイ表示



A フロントコーナーセンサー作動表示

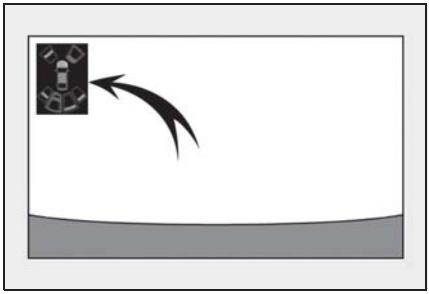
B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

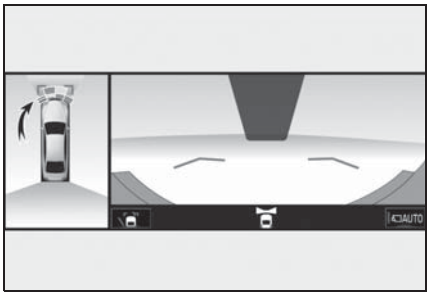
D リヤセンターセンサー作動表示

● センターディスプレイの表示

作動対象を検知するとセンターディスプレイ上に自動表示されます。



作動対象を検知するとパノラミックビューモニター画面上に自動表示されます。



システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON／OFF を切りかえます。（→P.80）

1 ＜ または ＞ を押して を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、 を押す

3 ∧ または ∨ を押して を選択し、 を押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.70）が点灯します。

いったんクリアランスソナー機能を ON/OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの からブザー音量を変更することがで

きます。（→P.213）

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

センサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

●補機バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
・オーディオ使用時
・エアコン使用時
・他システムのブザー音吹鳴時

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

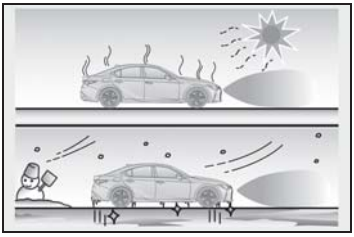
次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

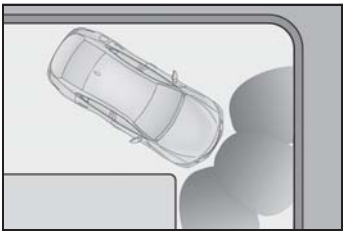
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

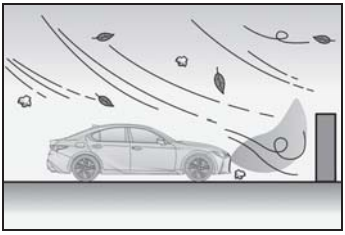
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

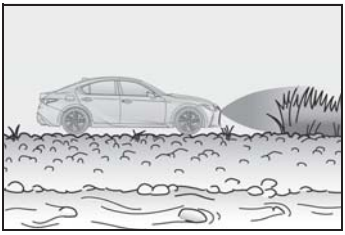
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

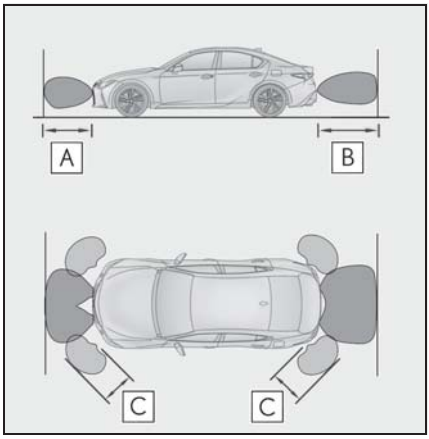
●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ及びセンターディスプレイの作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

● 静止物までのおおよその距離：150cm ～ 60cm※ （リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→P.221）

● 静止物までのおおよその距離：100cm ～ 60cm※ （フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→P.221）

● 静止物までのおおよその距離：60cm ～ 45cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→P.221）

● 静止物までのおおよその距離：45cm ～ 30cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→P.221）

● 静止物までのおおよその距離：30cm ～ 15cm※1

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	センターディスプレイ ※2

※1自動ミュート機能なし（→P.221）

※2点灯及び枠が遅い点滅

● 静止物までのおおよその距離：15cm 以下 ※1

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	センターディスプレイ ※2

※1自動ミュート機能なし（→P.221）

※2点灯及び枠が早い点滅

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

● 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

● 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

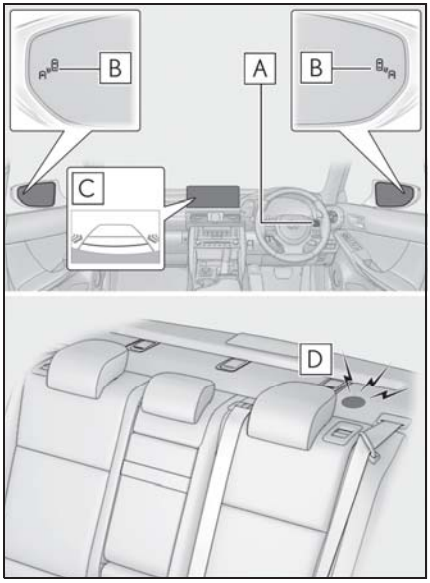
■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.209）

■システムを正しく作動させるために

→P.210

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.223）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.80）

1 ＜ または ＞ を押して を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、 を押す

3 ∧ または ∨ を押して “RCTA” を選択し、 を押す

パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ **ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ **RCTA ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは**

センサー周辺のバンパーに水・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの水・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

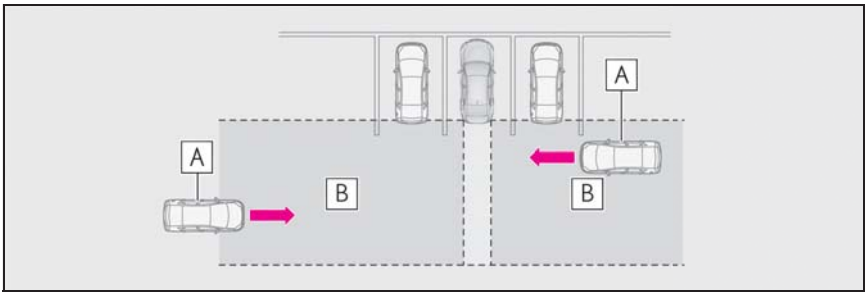
■ **後側方レーダーセンサーについて**

→P.210

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A 接近車両

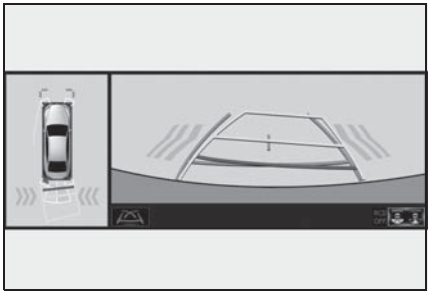
B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近

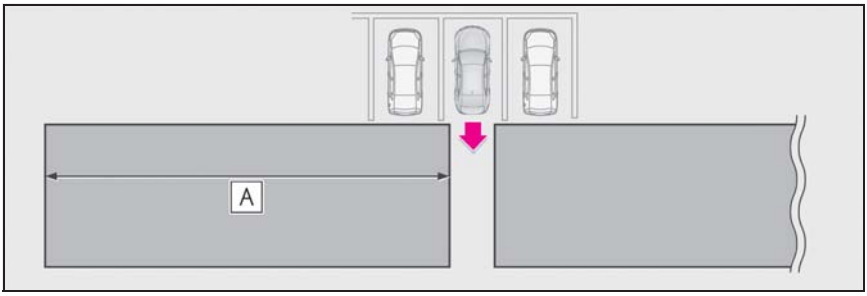
している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき（例：パノラミックビューモニター画面）



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	40m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON モードのとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→P.213）

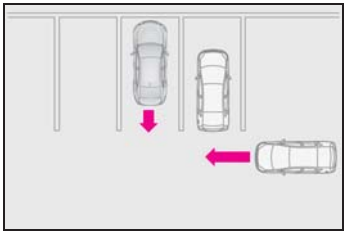
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●小型の二輪車・自転車・歩行者など※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

■**システムが正常に作動しないおそれのある状況**

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

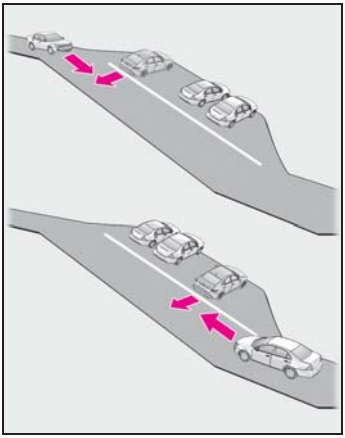
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

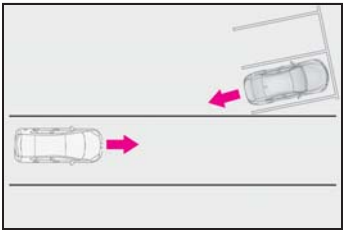
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



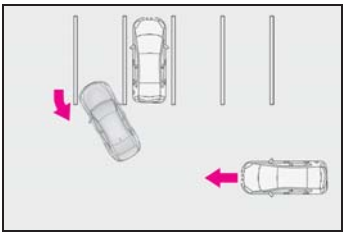
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

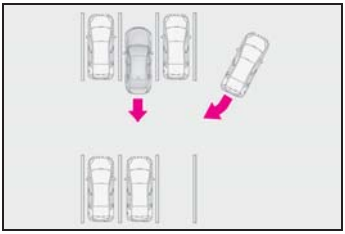
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



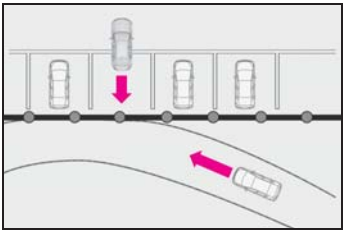
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



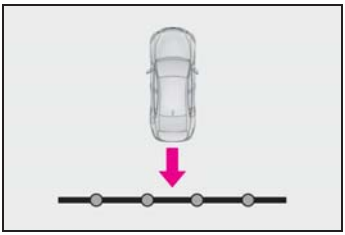
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

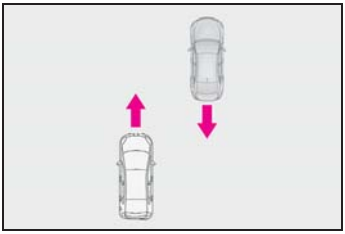


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

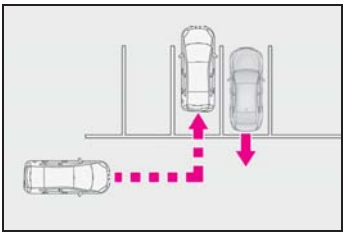


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）**

→P.233

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）**

→P.236

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき

警告

- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

パワースイッチを ON モードにした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON ／ OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.80）

1 ＜ または ＞ を押して を選択する

2 ＜ または ＞ を押して “ PKSB” を選択し、 を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.70）が点灯します。

いったん PKSB システムを ON/OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ 加速抑制中です ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキ！ ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

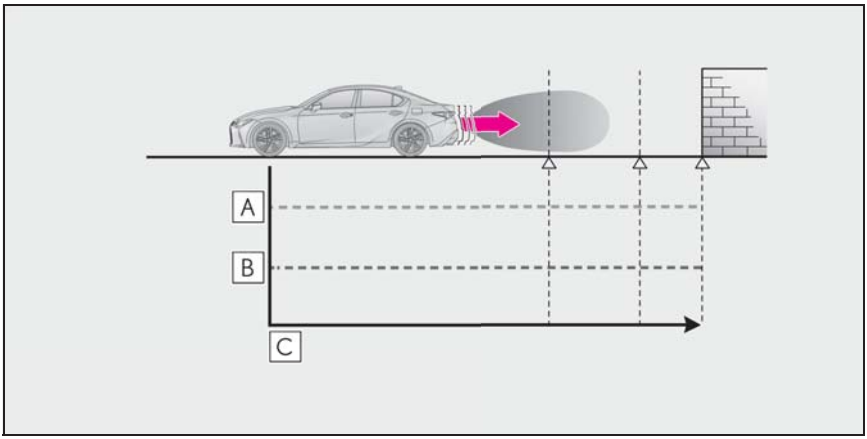
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

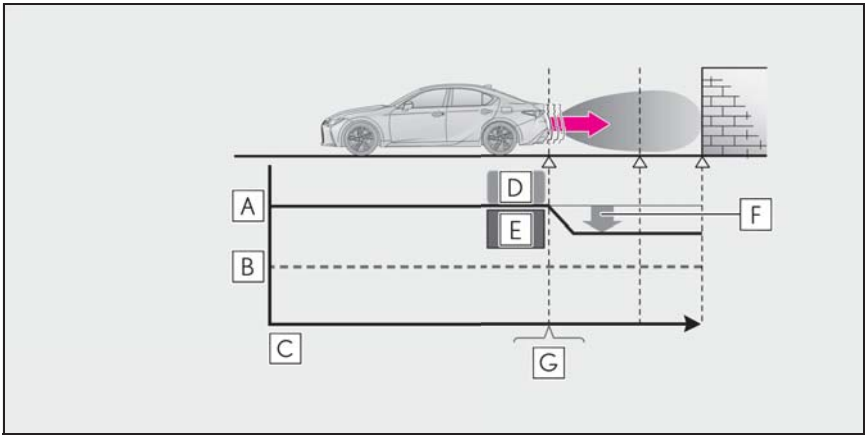


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

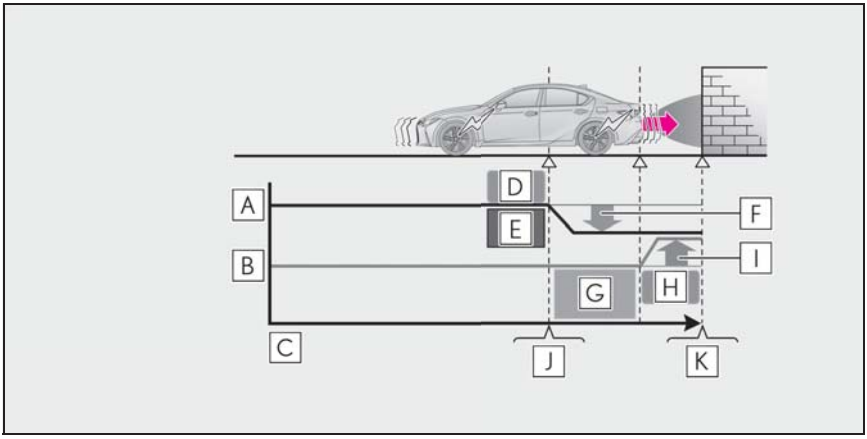
D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F ハイブリッドシステム出力を抑える

G 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

● 図３（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F ハイブリッドシステム出力を抑える

G 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

H ブレーキ制御開始

I ブレーキ制御を上げる

J 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

K 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が非作動になり、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。この時、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→P.70）

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にする（→P.228）
- パワースイッチを OFF にしてから ON モードにする
- シフトレバーを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行する
- 車両の進行方向を切りかえる（前進から後退、または後退から前進）

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”“クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- センサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

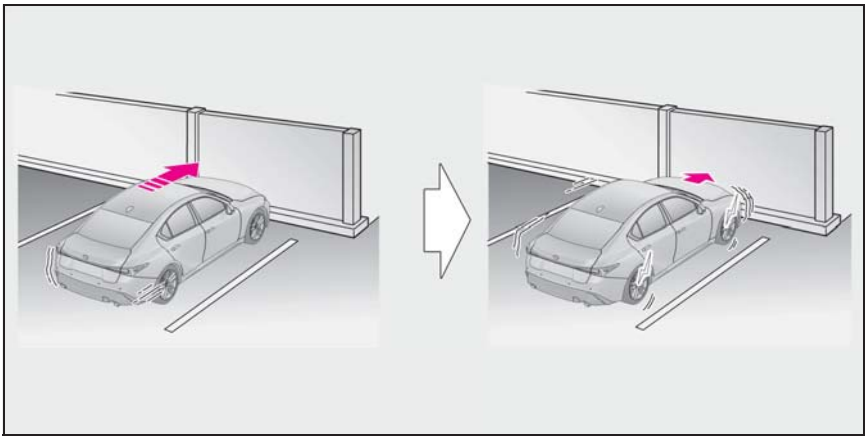
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

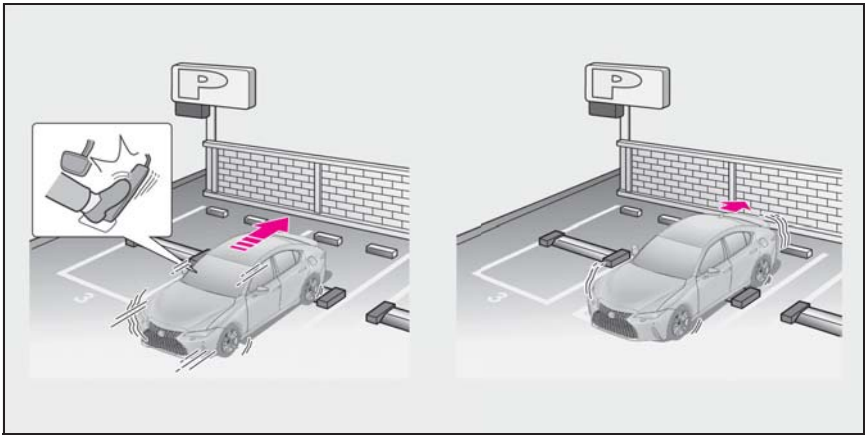
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

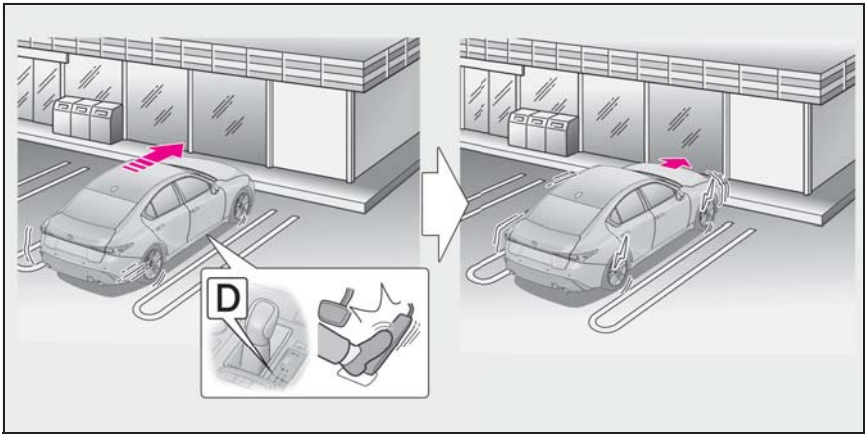
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.214

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.216

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.231

■洗車時の注意

→P.216

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.70, 68）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・ 車速が約 15km/h 以下
・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき

・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.219）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.217

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.218

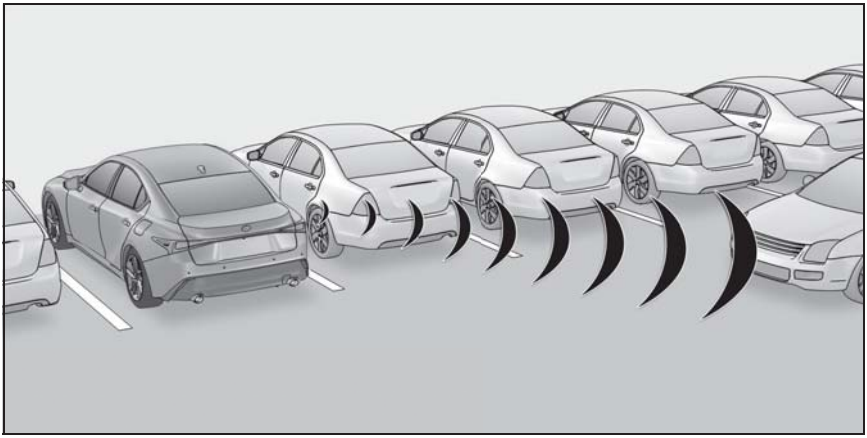
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.210

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.210

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.70, 68）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトレバーが R のとき
- 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.224）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.225

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

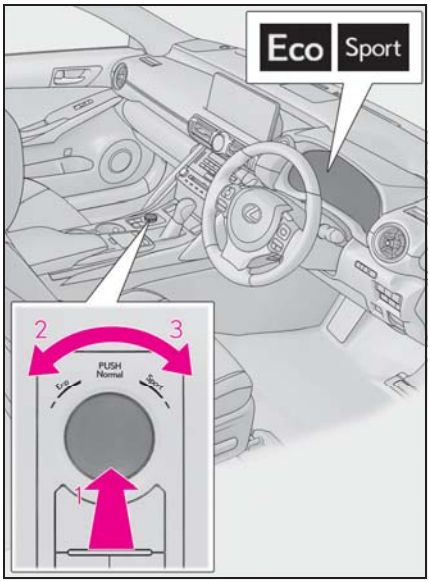
→P.226

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

2 エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッ

チを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

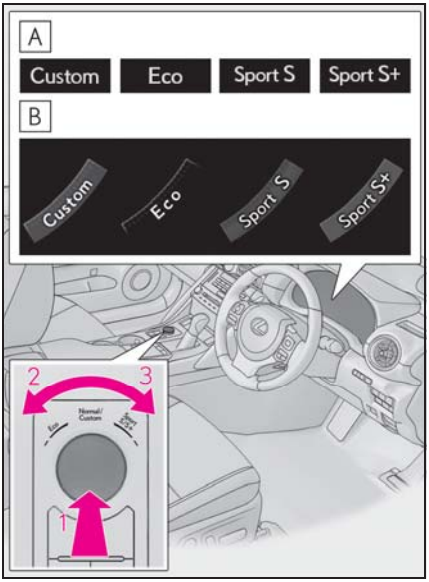
3 スポーツモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。

また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、SPORT 表示灯が点灯します。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



A F SPORT 以外

B F SPORT

1 ノーマルモード／カスタマイズモード

ノーマルモード / カスタマイズモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマルモード / カスタマイズモードが切りかわります。

カスタマイズモードのとき、“Customize” 表示灯が点灯します。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・カスタマイズモード

以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。（→P.254）

機能	設定
パワートレーン制御	Normal
	Power
	Eco
シャシー制御	Normal
	Sport
エアコン作動	Normal
	Eco

2 エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

・スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみた

いときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、SPORT S 表示灯が点灯します。

・ スポーツ S ＋モード
トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、SPORT S ＋表示灯が点灯します。

知識

■ **エコドライブモード時のエアコン作動について**

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■ **スポーツモード／カスタマイズモードの自動解除**

スポーツモード／カスタマイズモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

■ **サイド画面の割り込み表示**

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。
（→P.255）

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ **ECB（電子制御ブレーキシステム）**

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ **ABS（アンチロックブレーキシステム）**

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ **ブレーキアシスト**

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ **VSC（ビークルスタビリティコントロール）**

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ **S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）**

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、優れたフラット感（安定感）と快適な乗り心地の確保に貢献します。
また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツS＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
（→P.237）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPSを総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ 後方車両への接近警報

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

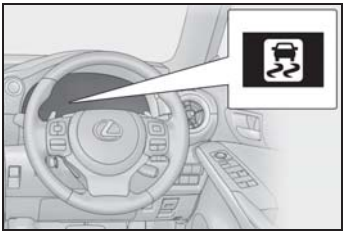
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABSが作動しているとき

TRC・VSC・ABSが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■TRC を停止するには

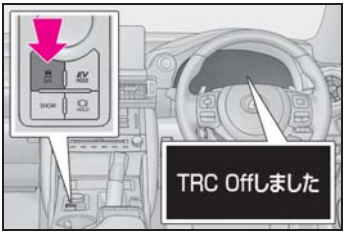
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押します。

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました ” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました ” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.179)

■VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました ” が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON モード

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーをPまたはNのシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチがアクセサリーモードまたは OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後１～２分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに“FHL 現在使用できません”が表示されたときは

後方車両への接近警報が一時的に使用不可と判断されています。
この場合、センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.210）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●車速が約 10km/h 未満のとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.237）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→P.76）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。

減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるや

かなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。※

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.296）

※ 前後のタイヤサイズが異なる車両には、タイヤチェーンを取り付けないでください。

知識

■タイヤチェーンについて

前後のタイヤサイズが同じ車両：

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

前後のタイヤサイズが異なる車両：

タイヤチェーンは装着できません。

タイヤチェーンを装着した場合、ボデーと干渉し走行に支障をきたすおそれがあります。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（前後のタイヤサイズが同じ車両）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

警告

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について（前後のタイヤサイズが同じ車両）

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明はP.296 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着（前後のタイヤサイズが同じ車両）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必

ず輪止め[※1]をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.146)

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと[※2]を確認してください。

※1 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

室内装備・機能

5

5-1. リモートタッチ／ディスプレイ

リモートタッチ..... 252

センターディスプレイ 254

5-2. エアコン・デフォッガーの使い方

オートエアコン..... 256

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 265

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 267

5-4. 収納装備

収納装備一覧 270

トランク内装備..... 273

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 275

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）..... 279

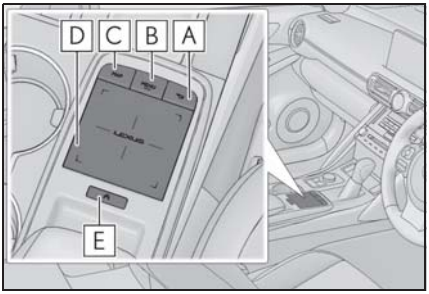
リモートタッチ

リモートタッチを使って、センターディスプレイの操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

■ 操作スイッチ



A 戻るボタン

1 つ前の画面に戻ります。

B “MENU” ボタン

メニュー画面を表示します。

C “MAP” ボタン

センターディスプレイで現在地を表示します。

D タッチパッド

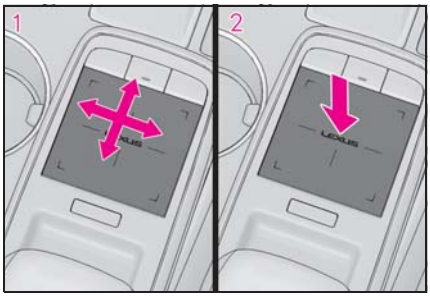
画面上のスイッチを選択または決定します。

また、リスト画面のスクロールや地図の拡大 / 縮小などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

■ タッチパッドの使い方



1 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※をスイッチに合わせる

※ ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

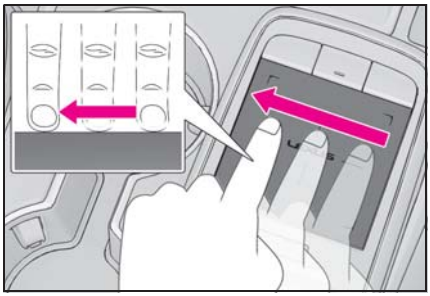
2 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

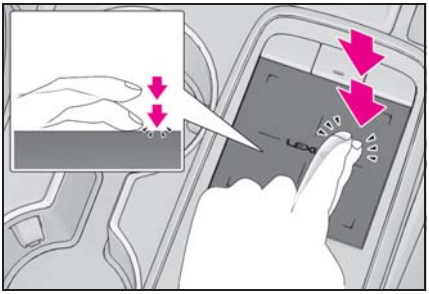
● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



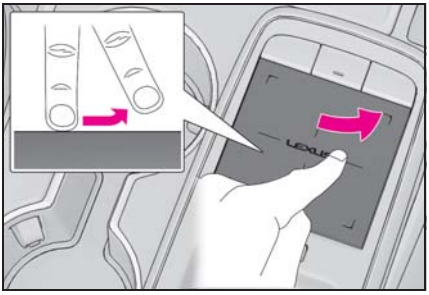
● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



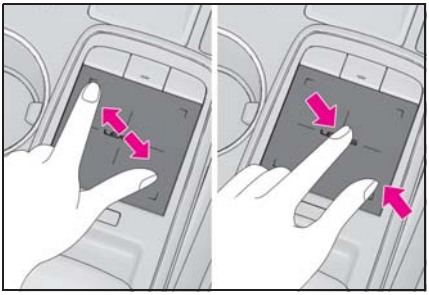
● フリック

タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面を動かすことができます。



● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた 2 本の指を広げたり近付けたりします。地図の拡大や縮小を行うことができます。



⚠ 注意

■ **リモートタッチの故障を防ぐために**

● リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

● リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。

● タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

センターディスプレイ

ディスプレイの見方

■ メニュー画面

リモートタッチの “MENU” ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

画面に直接タッチして選択することもできます。

詳細については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

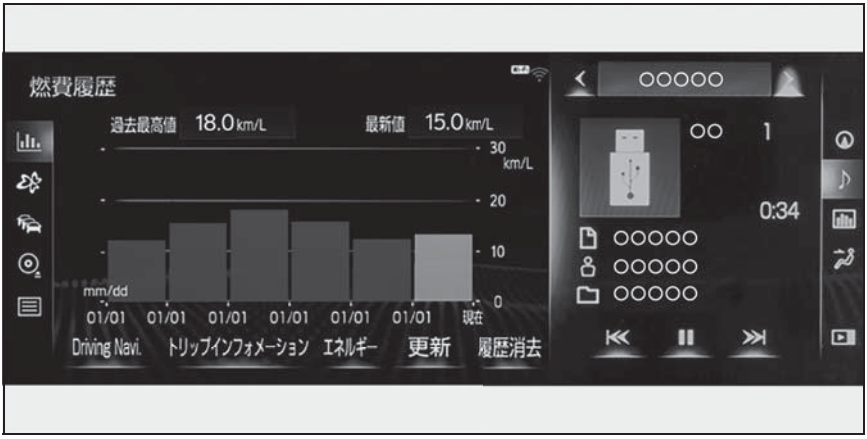
次の画面イラストは一例で、実際の画面とは異なります。

スイッチ	機能
	目的地を設定する ※
	オーディオ操作画面を表示する ※
／ ／	デジタルテレビ操作画面を表示する ※ Apple CarPlay/Android Auto を接続すると、TV の代わりに Apple CarPlay/Android Auto が表示されます。※
	ハンズフリー操作画面を表示する ※
	G-Link 画面を表示する ※ SmartDeviceLink™ Apps 画面を表示する。※
	情報画面を表示する（→P.84）
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する（→P.256）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、エアコンやオーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



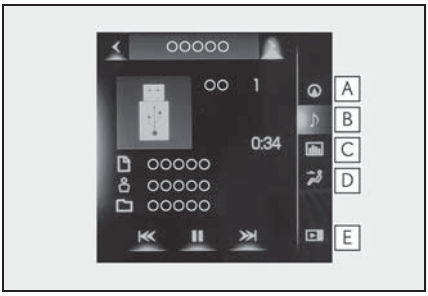
■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

❮ または ❯ を選択してお好みの画面を表示する



A ナビゲーションシステム※

B オーディオ※

C 車両情報（→P.84）

D エアコン（→P.256）

E サイド画面の表示／非表示を切りかえる※

※別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの “MENU” ボタンを押して、 を選択するとエアコン操作画面が表示されます。リモートタッチについては、→P.252 を参照してください。

エアコン操作画面は、サイド画面に表示し操作することもできます。

→P.261

エアコン操作スイッチについて

A 助手席側温度調整スイッチ

B S-FLOW スイッチ

C 吹き出し口切りかえスイッチ

D 風量減スイッチ

E 風量増スイッチ

F OFF スイッチ

G AUTO スイッチ

H 運転席側温度調整スイッチ

I リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

J フロントデフロスタースイッチ

K 外気導入スイッチ

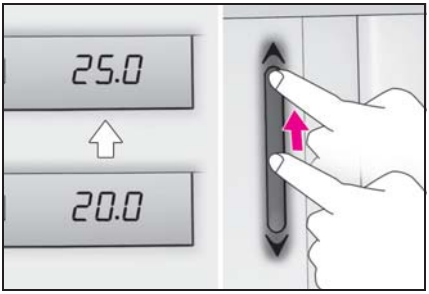
L 内気循環スイッチ

M A/C スイッチ

N DUAL スイッチ

■ 温度を調整する

センサーにタッチしながら、指を上または下にスライドする



センサーにタッチしても温度を調整することができます。

設定温度が変わるとブザーが鳴ります。

A/C スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

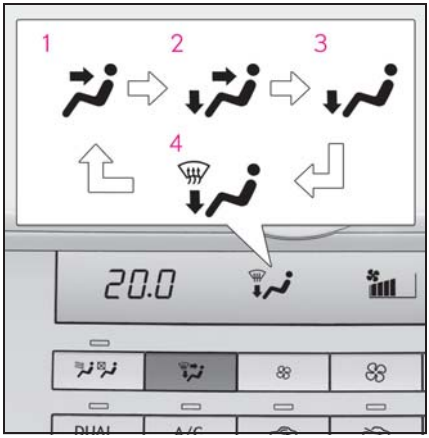
風量を増やすときは風量増スイッチを、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風

2 上半身と足元に送風

3 足元に送風

4 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

A/C スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチ （“A/C”）を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチ （“A/C”）を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→P.259）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ 電子キーによるエアコン設定の記憶について（ドライビングポジションメモリー装着車）

- 電子キーでドアを解錠してパワースイッチを ON モードにすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- パワースイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ 運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する（→P.237）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチ （“A/C”）を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声操作システムについて

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.310

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

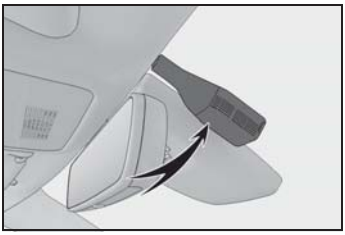
■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知（→P.258）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。



センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

●湿度センサーを分解しない

●ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない

●湿度センサーにシールなどを貼らない

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

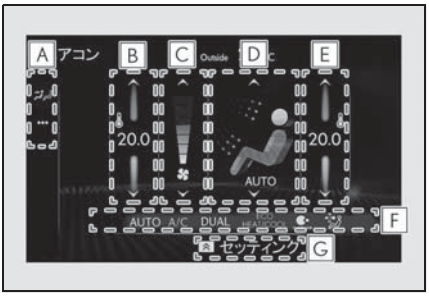
ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

エアコン操作画面について

■ メイン操作画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

画面に直接タッチして選択することもできます。



A サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

：エアコン操作画面を表示する

：オプション操作画面を表示する

B 助手席の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 吹き出し口を切りかえる

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

E 運転席の温度を調整する

F 各機能 ON ／ OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

G サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。

“AUTO” ：吹き出し口と風量が自動的に調整される（→P.262）

“Off” ：ファンを停止する

“A/C” ：冷房・除湿する

“A/C” の表示が消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

“DUAL” ：運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.263）

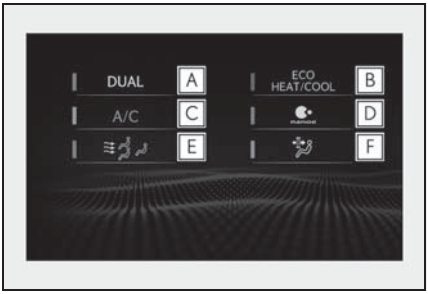
ECO HEAT/COOL：エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

■ オプション操作画面

サブメニューの を選択する。

各機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、画面上の作動表示灯が点灯します。



A 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.263）

B エコ空調モードを設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

C 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

D「ナノイー X」※ を作動させる

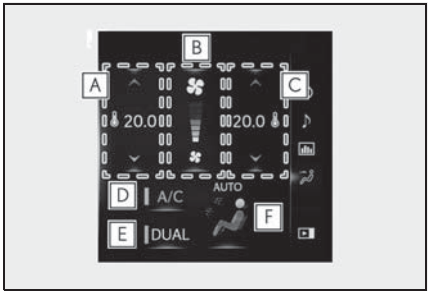
「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

E S-FLOW モードを設定する（→P.262）

F 花粉を除去する（花粉除去モード）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

■ サイド画面



A 助手席側の温度を調整する

B 風量を切りかえる

C 運転席側の温度を調整する

D 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

E 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.263）

F 吹き出し口を切りかえる

知識

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー X」について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側

の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※1。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します※2。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 、または のとき

・運転席窓側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※2「ナノイー X」が ON のとき。（→P.260）

警告

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す、またはサブファンクションメニューの “AUTO” を選択する

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す、またはサブファンクションメニューの “Off” を選択する（→P.260）

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

S-FLOW モード

リヤ席に乗員がいないとき、フロント席のみの送風に切りかえて、リヤ席の空調の効きを抑えます。

室温や外気温などの条件により、室内の快適性を保つため、リヤ席に送風されることがあります。

S-FLOW スイッチを押す、または

を選択する

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

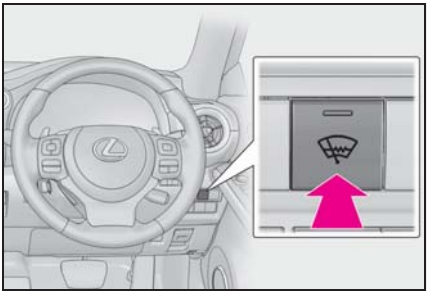
再度 S-FLOW スイッチを押す、または

を選択すると、リヤ席へ送風を再開します。

ウインドシールドデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。



ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

警告

■ウインドシールドデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

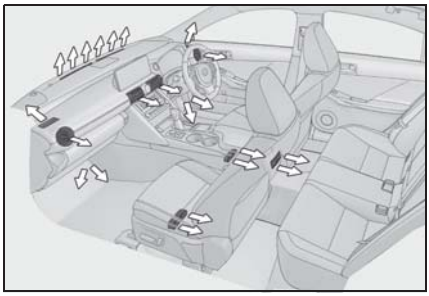
- エアコン操作スイッチの DUAL を押す
- サブファンクションメニューの “DUAL” を選択する （→P.260）
- オプション操作画面で “DUAL” を選択する
- サイド画面で “DUAL” を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりメイン操作画面の表示灯が点灯します。

吹き出し口の配置・操作

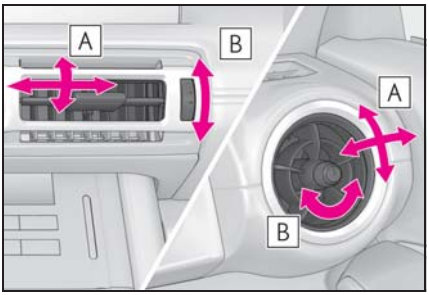
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

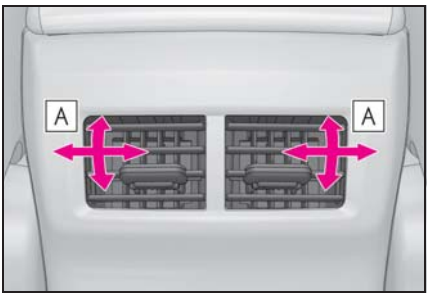
▶ フロント



A 風向きを調整する

B 吹き出し口の開閉

▶ リヤ



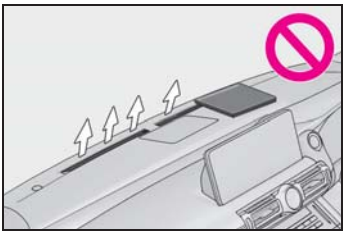
A 風向きを調整する

風向きを外側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

警告

■ **フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために**

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

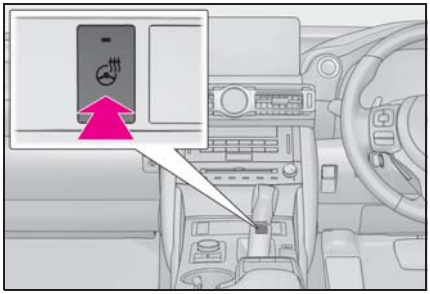
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■タイマー制御について

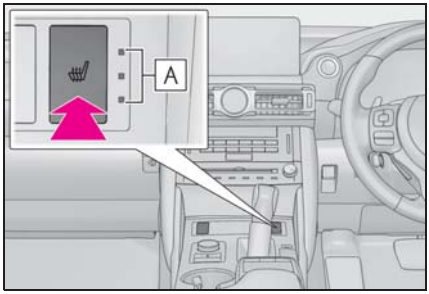
約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター

▶ A タイプ

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（橙）A が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

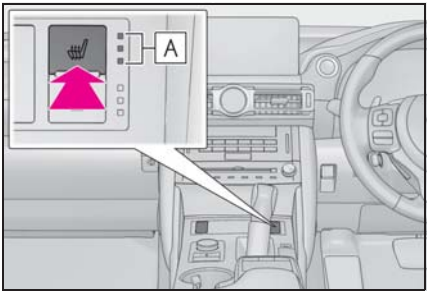


▶ B タイプ

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（橙）A が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→

弱（1 個点灯）→OFF



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■タイマー制御について

運転席と助手席のシートヒータースイッチを同時に押し続けると、ブザーが “ピッ” と鳴りタイマー制御が ON になります。

タイマー制御が ON になると、シートヒーターの作動状態が自動で次のように切りかわります。

選択した作動状態	作動状態の切りかわり
強	強 → 中 → 弱
中	中 → 弱
弱	弱

切りかわるまでの時間は、シートヒーターを作動させたときの室内温度などにより異なります。

もう一度上記の操作を行うと、ブザーが “ピッピッ” と鳴りタイマー制御が OFF になります。

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

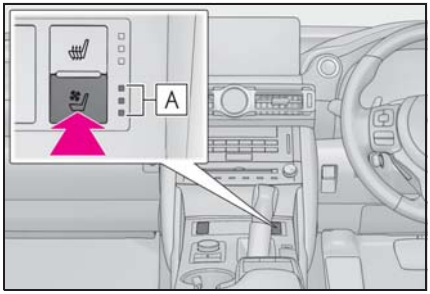
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（緑）A が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF



知識

■作動条件

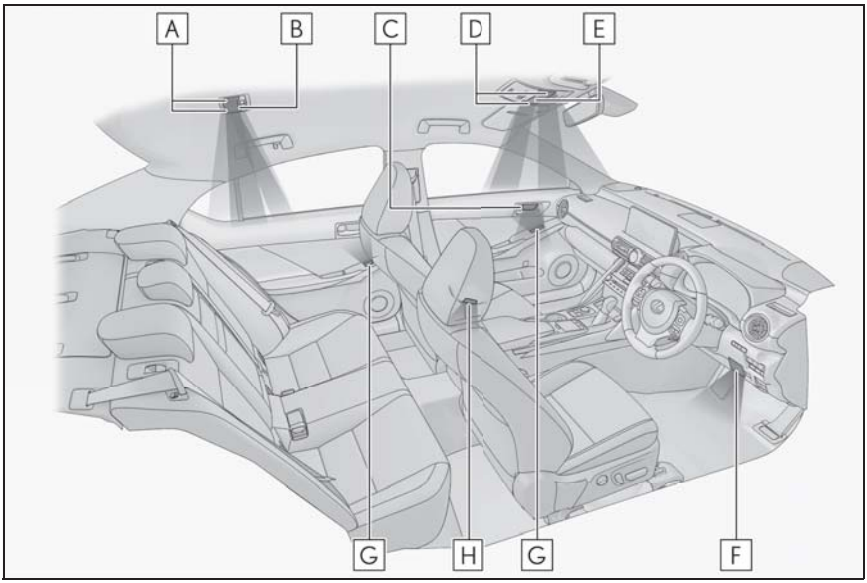
パワースイッチが ON モードのとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

室内灯一覧

室内灯の位置



A リヤパーソナルランプ（→P.268）

B リヤインテリアランプ（→P.267）

C ドアハンドル照明

D フロントパーソナルランプ（→P.268）

E フロントインテリアランプ（→P.267）

F 足元照明

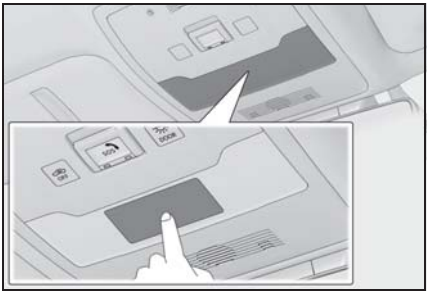
G パワーウインドウスイッチ照明

H ドアカーテシランプ

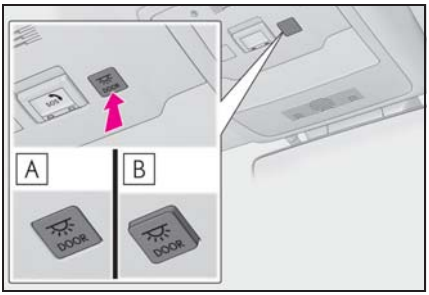
インテリアランプ

■ フロントインテリアランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



A ON

B OFF

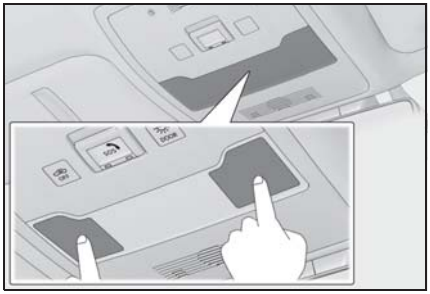
■ リアインテリアランプ

リヤインテリアランプはフロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。

パーソナルランプ

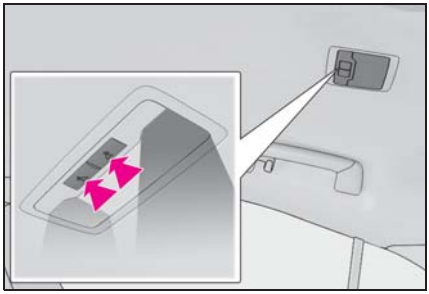
■ フロントパーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



■ リヤパーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する



知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

次の場合は、インテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれがあります。

● レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

●濡れた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.372）

注意

■ランプのレンズの取りはずしについて

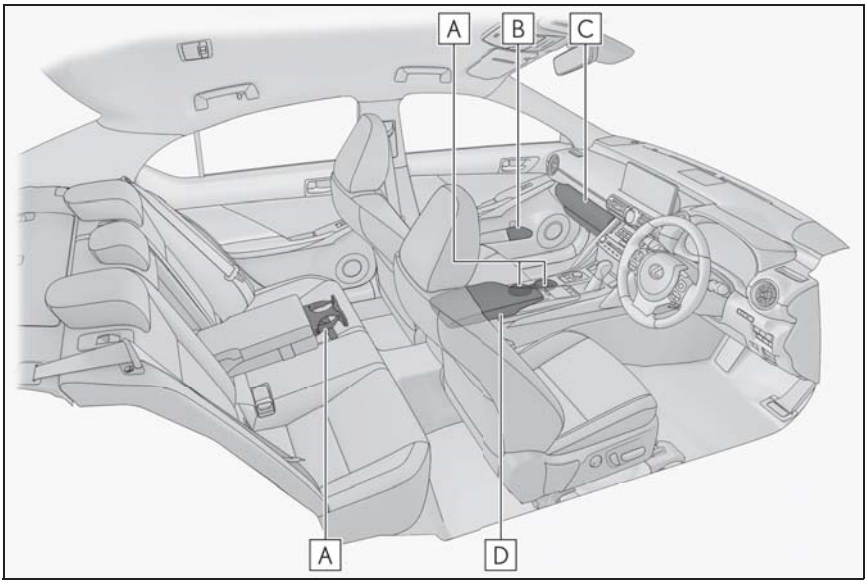
フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A カップホルダー（→P.272）

B ボトルホルダー（→P.272）

C グローブボックス（→P.271）

D コンソールボックス（→P.271）

警告

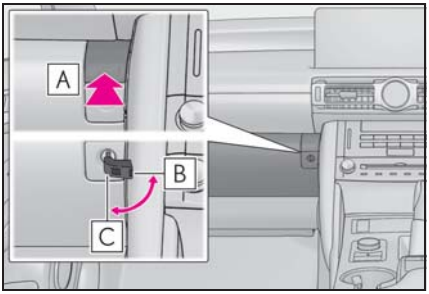
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



A 開ける（ボタンを押す）

B メカニカルキーで解錠

C メカニカルキーで施錠

知識

■グローブボックスランプ

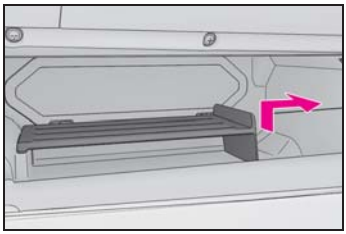
パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、グローブボックス内のランプが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。
（→P.103）

■仕切り板の取りはずし

グローブボックス内の仕切りを取りはずして使用することができます。

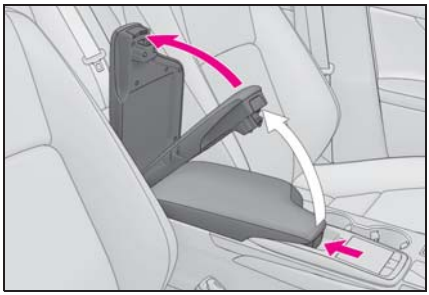


警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス



ノブを押す

手動でさらに開くと、全開にすることができます。

警告

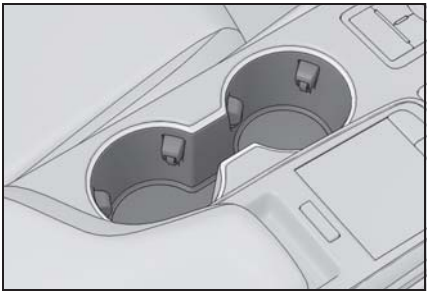
■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー／ボトルホルダー

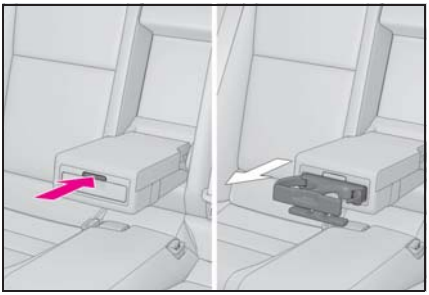
■ カップホルダー

▶ フロント

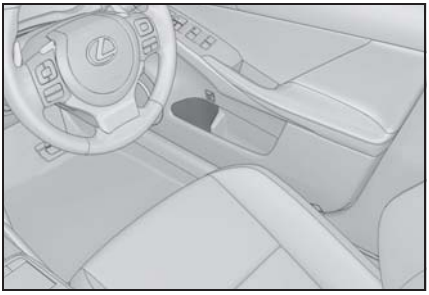


▶ リヤ

リヤアームレストを引き出し、アームレストのボタンを押して開ける



■ ボトルホルダー



知識

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。
- フロントカップホルダーの中敷を取りはずすことができます。

警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
ふたを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ カップホルダーの破損を防ぐために

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

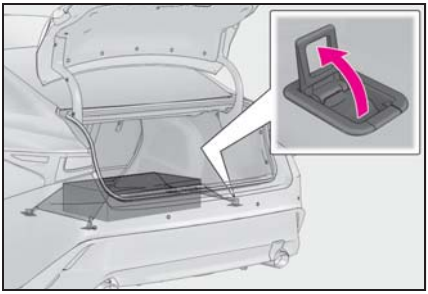
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

トランク内装備

荷物固定用フック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



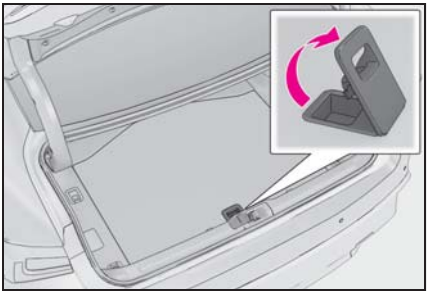
警告

■荷物固定用フックを使用しないときは

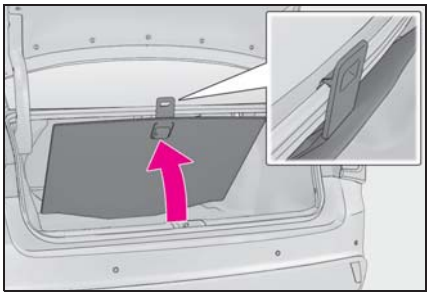
必ず固定用フックをもとの位置にもどしておいてください。

ラゲージマット

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



2 フックを使ってラゲージマットを固定する



注意

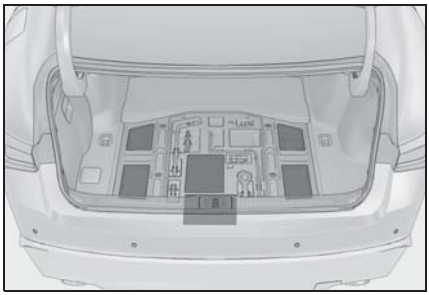
■ラゲージマットの損傷を防ぐために

トランクを閉めるときは、ラゲージマットのレバーをトランクの端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります。

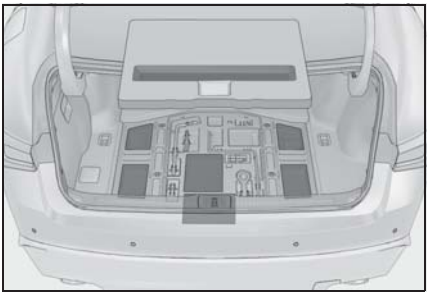
ラゲージアンダートレイ

ラゲージマットを取りはずす (→P.273)

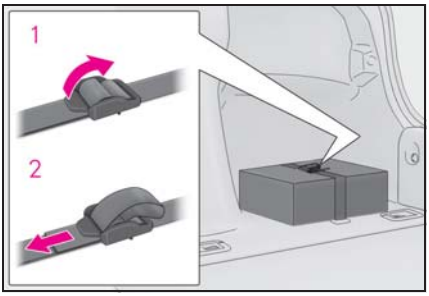
▶ アクセサリーコンセント非装着車



▶ アクセサリーコンセント装着車



救急箱等固定用バンドを使うには

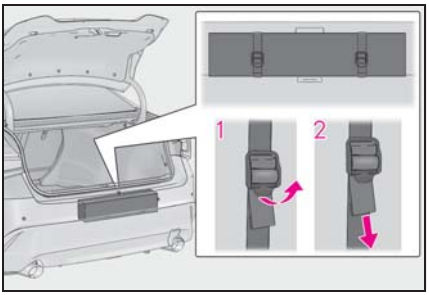


1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板等固定用バンドを使うには

■ ベルトを使用する

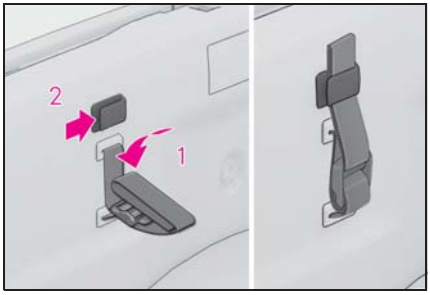


1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ ベルトを収納する



1 折りたたむ

2 ツメにはさむ

三角表示板等固定用バンドの損傷を防ぐため、使用しないときは収納してください。

⚠ 警告

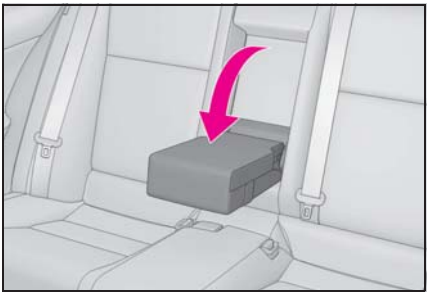
■三角表示板を収納するときは

確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

アームレスト

手前に倒して使用します。



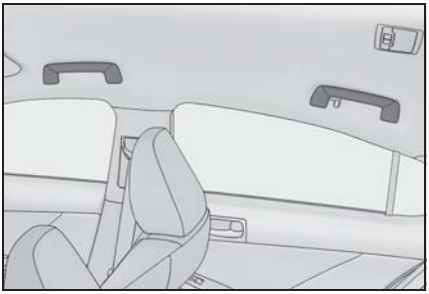
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

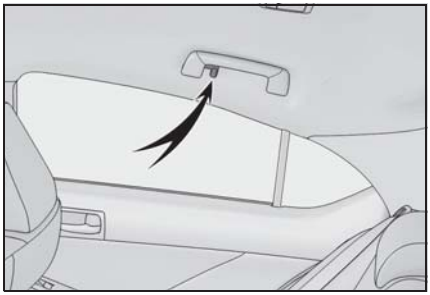
注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

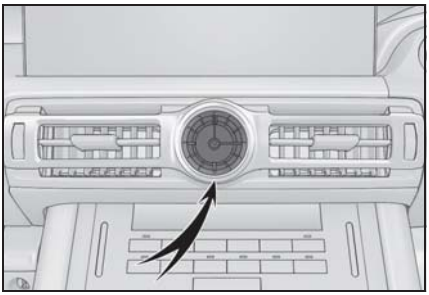
■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

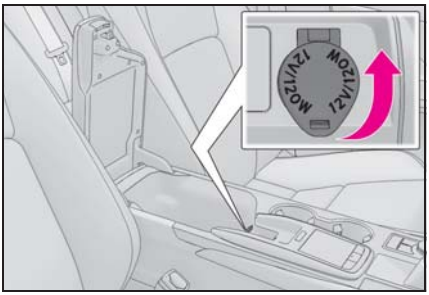
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



アクセサリーソケットを使うには

12V10A 未満の電気製品が使用できます。

ふたを開けて使用する



知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V10A をこえないようにしてください。

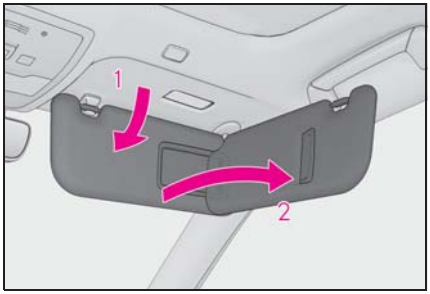
■ショートや故障を防ぐために

異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

サンバイザーを使うには



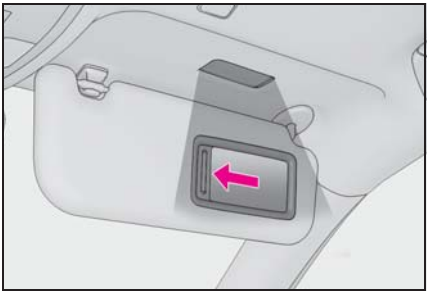
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

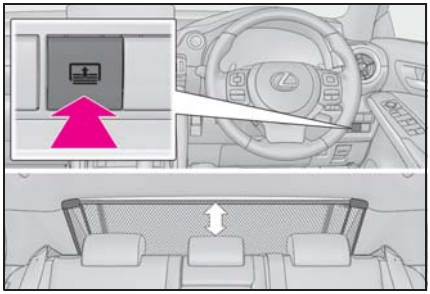
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

ランプが点灯します。





知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

リヤサンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

上昇／下降

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF にしたあと、約 1 分間リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。
ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す ※
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能により、リヤサンシェードが下降した状態でハイブリッドシステムを停止した場合は、再びハイブリッドシステムを始動させて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

警告

■リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

■正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

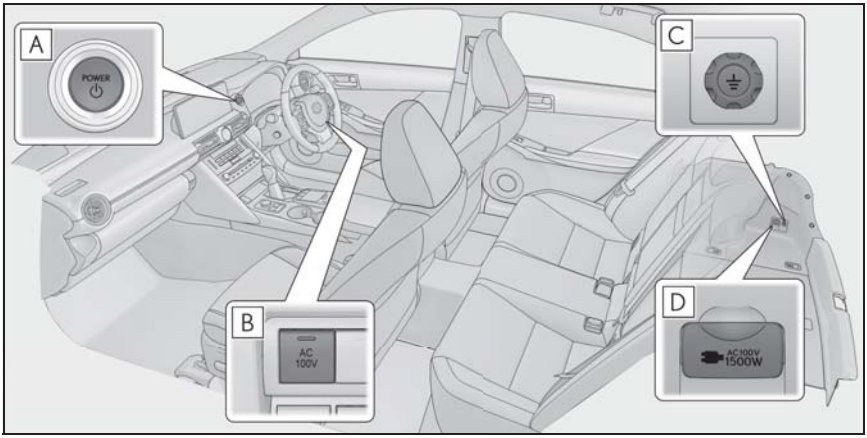
- リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間リヤサンシェードの操作を続けない

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

各部の名称



A パワースイッチ（→P.135）

B AC100V スイッチ

C アース端子

D ラゲージルーム内コンセント（運転席側）

コンセントを使用するには

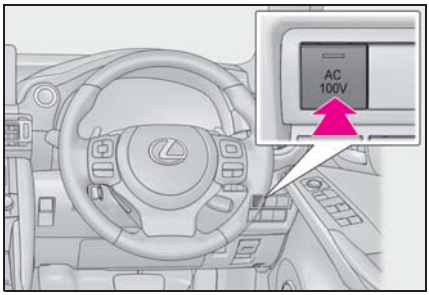
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.135）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

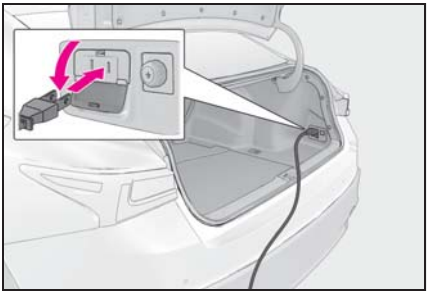
AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。



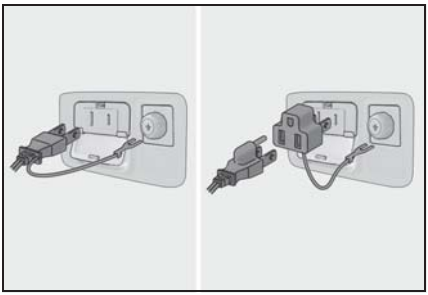
■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む



アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、ラゲージルーム内コンセントを使用してアース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



■ コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれる可能性があります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計が AC100V で最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

●消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●複数の電気製品を給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●各電気製品の取扱説明書に記載されて

いる注意事項に従ってください。

●一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。

・走行中の振動による電気製品の故障
・車室内の温度変化※ による電気製品の故障または作動不良
・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■アクセサリーコンセントについて

●コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください。（→P.84）残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度 AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●コンセントへは電源プラグ本体をもって抜き挿をし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●電源プラグはコンセントにいっぱいまで確実に挿し込み、電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

警告

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPにしていることを確認してください。

●電気製品を使用中に、READYインジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。

●給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→P.38）

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。

●車外で電気製品を使用するときや、災害などによる非常時に電力が必要な場合などには、非常時給電システムを使用してください。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

注意

■ショートや故障を防ぐために

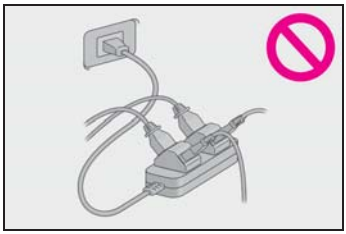
●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

●コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。



●コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。

●電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

■特に外気温が低いとき

特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 286

内装の手入れ 289

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 293

ガレージジャッキ..... 295

ウォッシャー液の補充..... 296

タイヤについて..... 296

タイヤの交換 304

タイヤ空気圧について 309

エアコンフィルターの交換 310

電子キーの電池交換..... 312

ヒューズの点検・交換..... 313

電球（バルブ）の交換..... 315

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.105）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
  ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入っ

た洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT）

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

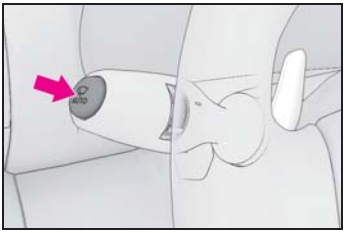
警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。（→P.157）
ワイパーが AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

警告

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

●Lexus Safety System +

●BSM

●RCTA

●PKSB

●後方車両への接近警報

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。（→P.157）

ワイパーが AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

注意

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - 駆動系部品
  - ステアリング部品
  - サスペンション部品
  - ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて（フロントサイドガラス）

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

警告

■車両への水の浸入

●床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.59)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.30)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ナビゲーション画面：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・その他の部品：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。(→P.165)

注意

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 重曹（炭酸水素ナトリウム）溶液をやわらかい布または合成セーム皮に含ませ、汚れをふき取る

真水に重曹を 10:1 の割合で溶かした溶液を使用してください。

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

人工皮革（ウルトラスエード®※）部分の手入れ

品質を長く保つため、頻繁にふれる部分は定期的なお手入れをしてください。

■ 日常的なお手入れ

このお手入れは定期的（1 か月に 1 回程度）に行うと効果的です。

1 布などに 40 ℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体をふく

毛羽が強く乱れないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度ふき取った布の汚れはすすいで充分に取り除いてからご使用ください。

2 乾いたらエチケットブラシなどで毛並みを整える

■ 汚れについて

● 液体がこぼれた場合は、ティッ

シュペーパーなどを軽くあてて吸い取る

● 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、エチケットブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除く

その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

● 油性の汚れの場合は、乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけふき取る

これらの方法で汚れが取れない場合は、次の手順で汚れを取り除いてください。

1 液体の汚れの場合：布などに40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽くふく

毛羽が強く乱れないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。

油性の汚れの場合：ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で汚れをたたきながら吸い取る

2 表面の毛羽が乱れた場合は、エチケットブラシなどで軽くブラッシングをしてから、表面を完全に乾燥させる

■ 毛羽の付着汚れを取り除くときは

ほこりなどの付着汚れはエチケットブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

※ “ウルトラスエード®” は東レ株式会社の登録商標です。

注意

■ 運転するときは

ふれる頻度が高い部分は汚れが移りやすいため、手が汚れていないことを確認してからふれてください。

■ 人工皮革（ウルトラスエード®）の傷みを避けるために

人工皮革（ウルトラスエード®）の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

● 強い力を加えない

● 爪を立てない

● 手でこすらない

● 汚れた手でふれない

■ 粘着テープを使うときは

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

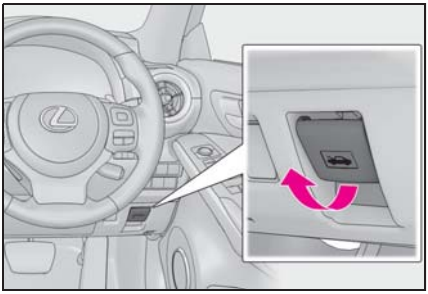
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

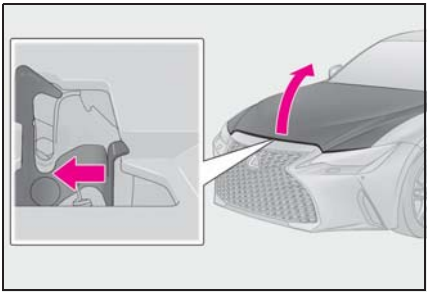
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける

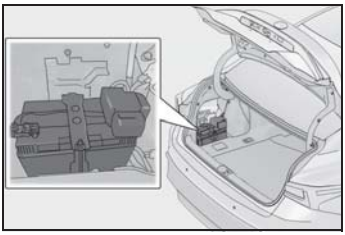


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはトランク（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.357）



■マルチインフォメーションディスプレイにボンネットが開いているメッセージが表示されたときは

→P.99

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

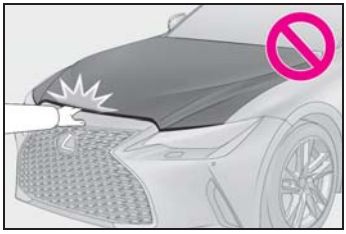
■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

交換する際はIS300h専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

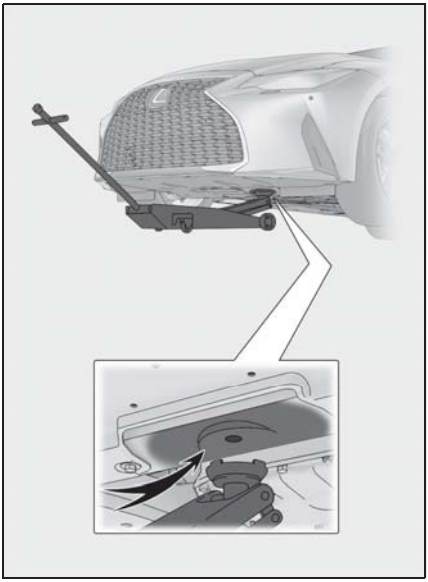
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

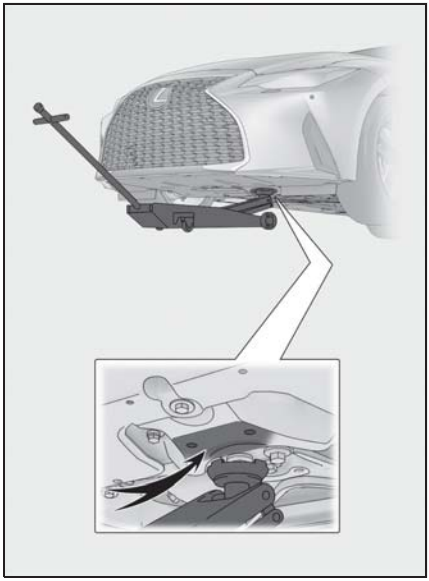
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

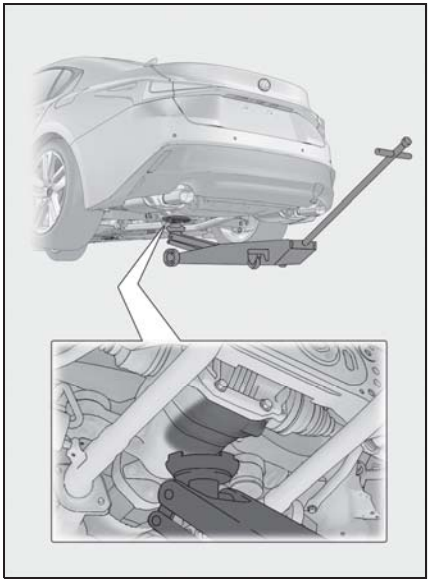
▶ FR 車



▶ AWD 車



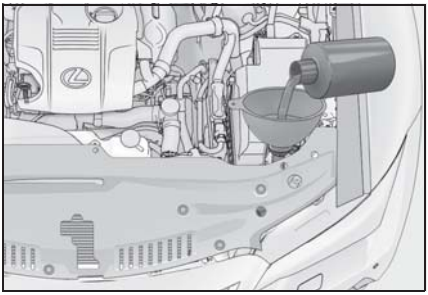
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充をするには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧の数値

▶18 インチ

前輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

後輪：240kpa（2.4kg/cm^2）※

▶19 インチ

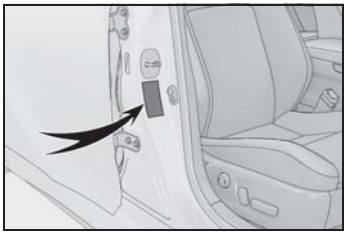
前輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

後輪：250kPa（2.5kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイ

ヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■低扁平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーン※を使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

※ 前後のタイヤサイズが異なる車両には、タイヤチェーンを装着できません。冬用タイヤを使用してください。

■低扁平タイヤの空気圧点検

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

注意

■低偏平タイヤについて

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

注意

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

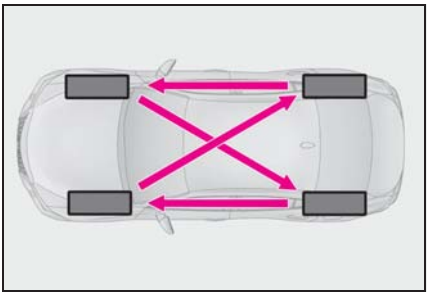
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

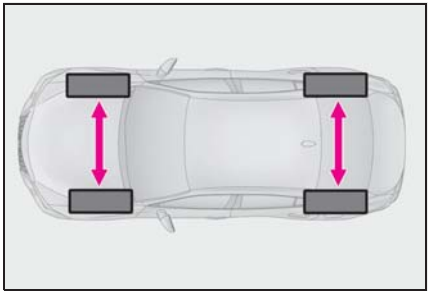
タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

▶ 前後のタイヤサイズが同じ車両



▶ 前後のタイヤサイズが異なる車両



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識

■タイヤローテーションを行うとき

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● タイヤ空気圧警報システムが検知

した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P.79）

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.337）

知識

■**タイヤ空気圧警報システムについて**

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■**タイヤ空気圧表示について**

●パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで約３分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約３分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■**タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況**

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時

間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できません。

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.302）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着や空気漏れする恐れがあります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク補修液を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

● タイヤローテーションを実施したとき

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● ID コードの登録を実施したとき（→P.302）

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上ハイブリッドシステムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

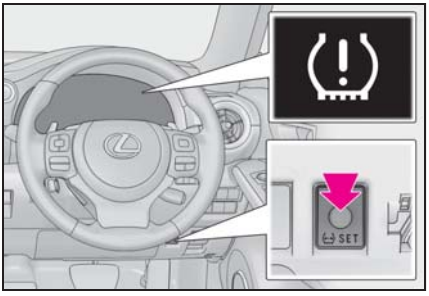
2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 ハイブリッドシステムを始動する（→P.135）

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

タイヤ空気圧警報システム設定中のメッセージが表示され、初期化を開始します。



5 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

知識

■ 初期化するときは

● 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。

● 車速が約40km/h以上のときに行われます。

● 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

● タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ 初期化操作について

● 初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

● 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

● タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

● 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
・ 約 40km/h 以上で走行していない

・未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、ハイブリッドシステムが作動したまま安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

●初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

● 新しいバルブ／送信機を装着したとき

● すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

車両が動いているときは、登録できません。

2 ハイブリッドシステムを始動する （→P.135）

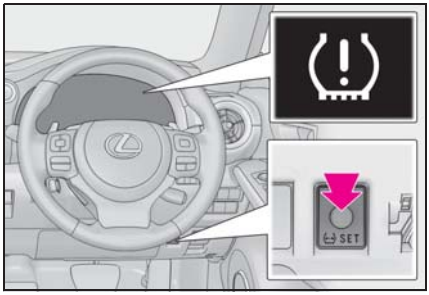
3 リセットスイッチを素早く 3 回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が 3 回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧が “--” になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



4 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

5 タイヤ空気圧警報システムを初期化する （→P.300）

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

5 約 40km/h 以上でタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する （→P.301）

知識

■ID コードの登録をするときは

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードの登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回パワースイッチを ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご依頼ください。

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをするおそれがあります。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する

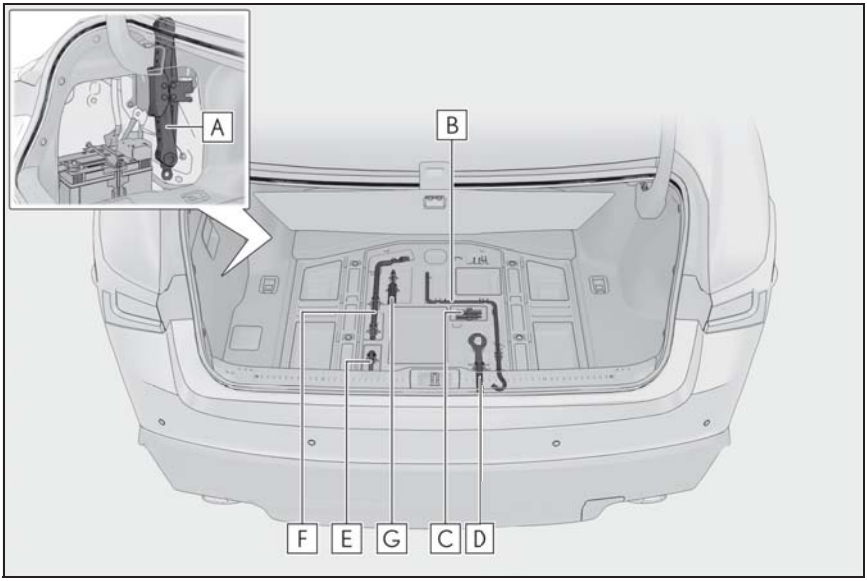
知識

■工具とジャッキについて

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ホイールボルトソケット
- ガイドピン
- ホイールボルトレンチ

工具とジャッキ位置



A ジャッキ★

B ジャッキハンドル★

C ホイールボルトソケット★

D けん引フック

E ガイドピン★

F ホイールボルトレンチ★

G ドライバー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ジャッキの使用について

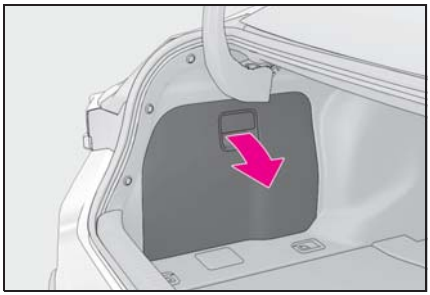
ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ●他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ●車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車両を持ち上げない
- ●車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- ●車両を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車両の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

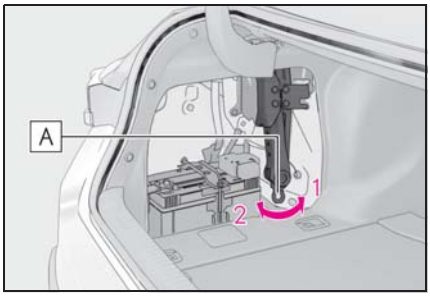
車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

ジャッキの取り出し方

1 補機バッテリーカバーをはずす



2 ジャッキを取りはずす



1 締まる

2 ゆるむ

ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴に車載のドライバーなどを挿入してゆ

るめてください。

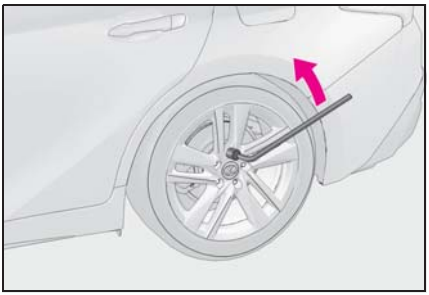
タイヤの交換

1 輪止め※をする

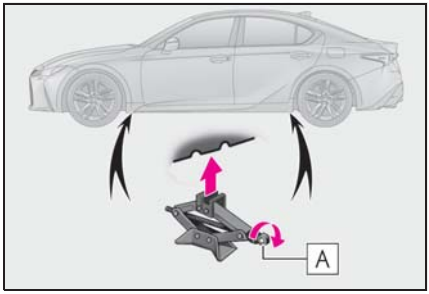
交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

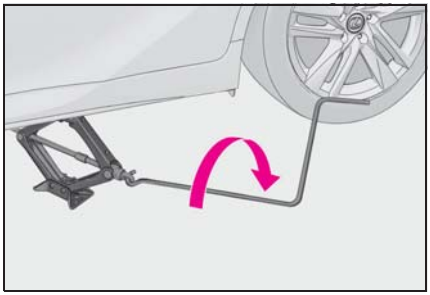
2 ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

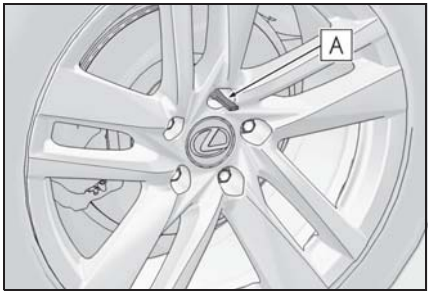


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



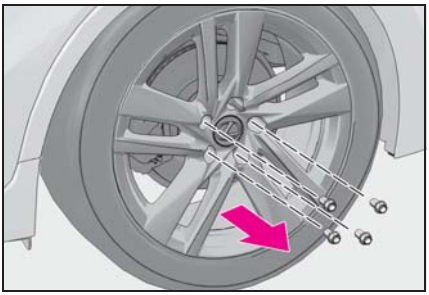
5 最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピン A を手で締め付ける

時計回りに回らなくなるまで締め付けます



6 残りのホイールボルトをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

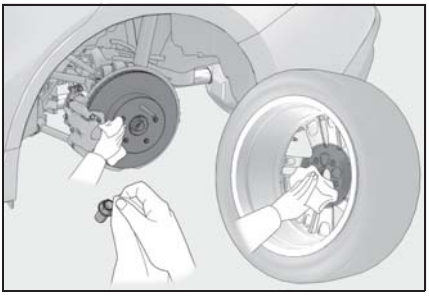
■タイヤ交換について

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

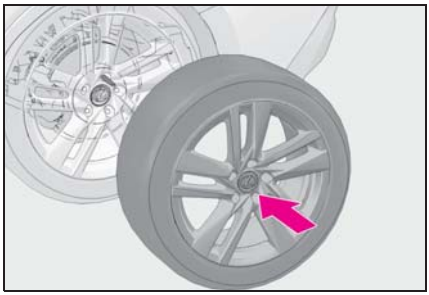
1 ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取る

汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



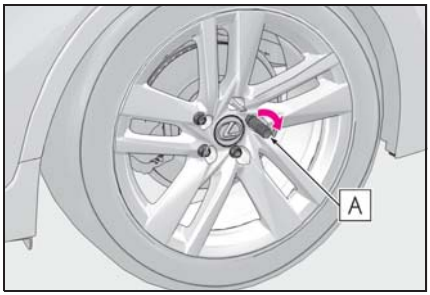
2 ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付ける

ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。

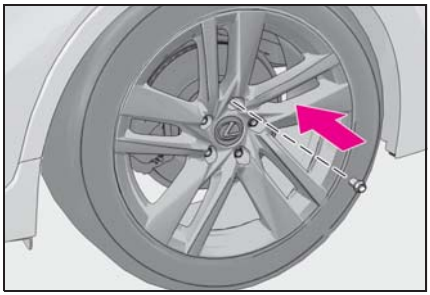


3 手または、ホイールボルトソケット[A]を使用し、ホイールボルトを軽く締め付ける

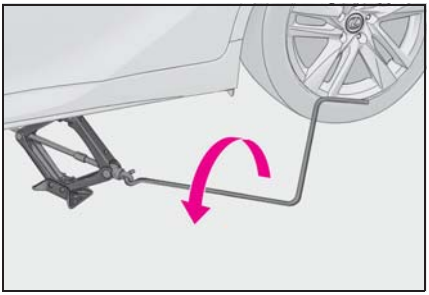
ホイールボルトソケットは手による仮締め以外に使用しないでください。



4 ガイドピンを取り外し、ホイールボルトを手順 **3** 同様に軽く締め付ける

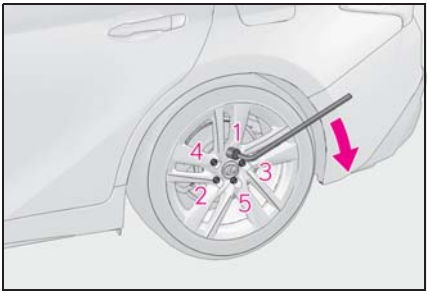


5 車体を下げる



6 図の番号順でホイールボルトを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m（1428kgf・cm）



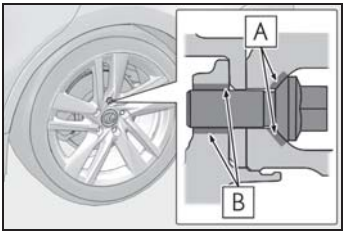
7 すべての工具・ジャッキを収納する

警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ホイールボルトとホイールの球面座部 A にオイルやグリースを塗らないでください。
  ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじ B が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またホイールボルトがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。また、約1000km走行したあとに、再度ホイールボルトを締め付けてゆるみがないことを確認してください。
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のホイールボルトを使用し、レクサス純正品以外のホイールボルトなどは使用しないでください。
- ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

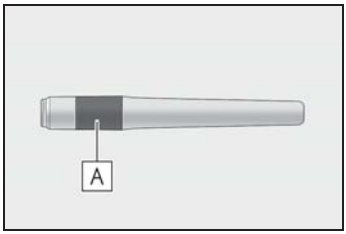
■ホイールボルトを締め付けるときは

ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

■ガイドピンについて

タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



注意

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.300

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

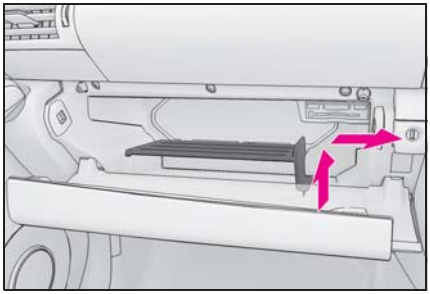
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

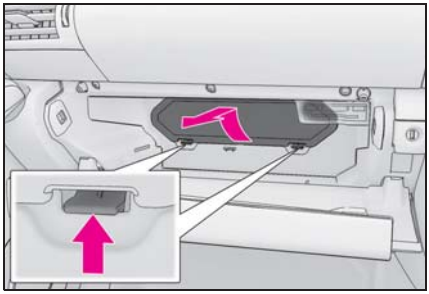
交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

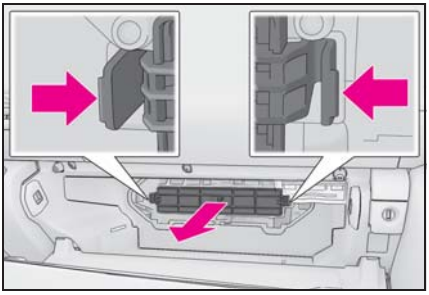
2 グローブボックスを開け、仕切り板をはずす



3 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターカバーを取りはずす

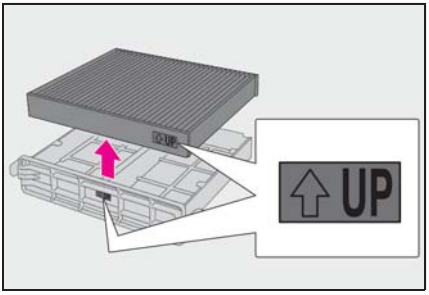


4 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす



5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池 CR2032

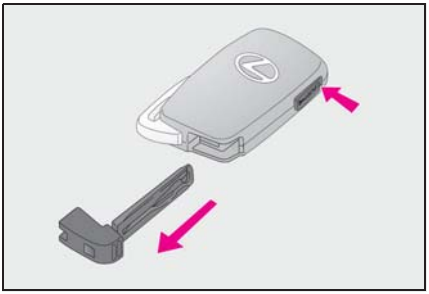
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

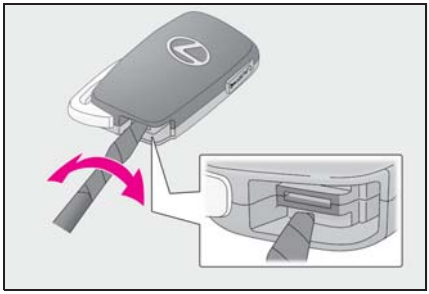
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



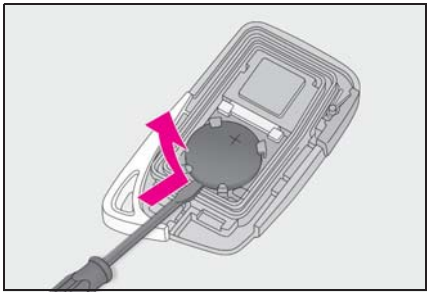
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

警告

- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

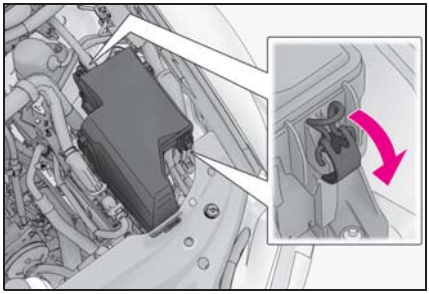
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

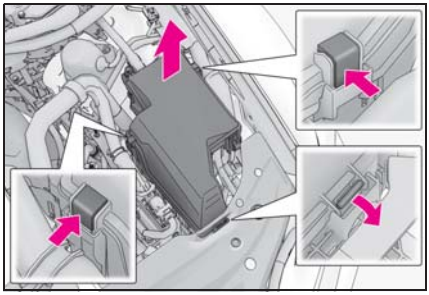
▶ エンジンルーム

すべてのクリップをはずす



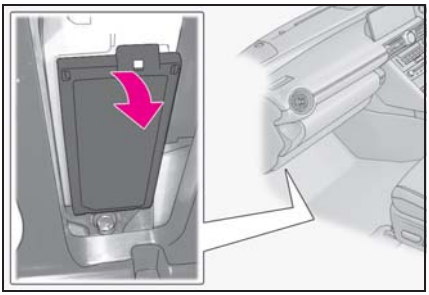
左右のツメを押してロックをはずし、手前のプレートを引きながらカバーを持ち上げる

カバーを取り付けるときは、手前のプレートおよび左右のツメが確実にかみ合っていることを確認してください。



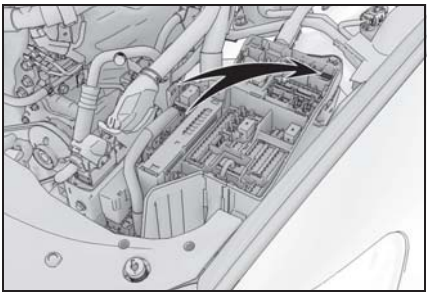
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす

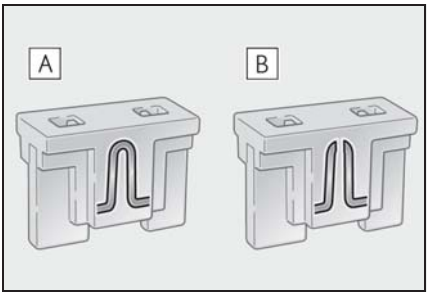


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

警告

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換をおこなわないでください。
取り扱いを誤ると感電し、生命に関わるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

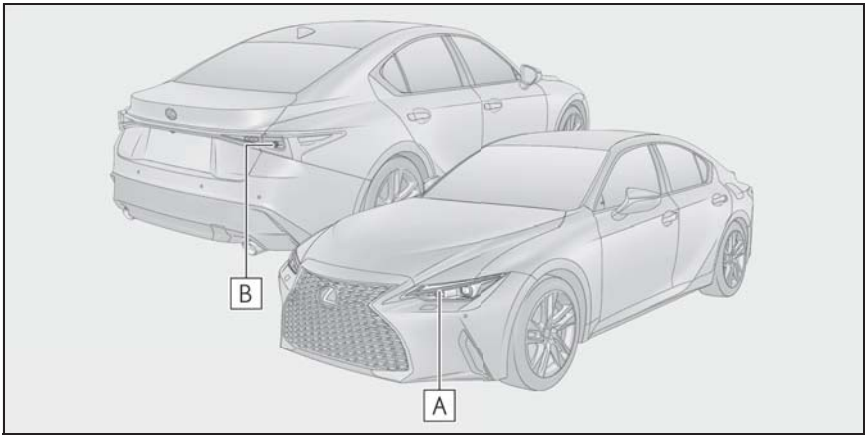
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P.371）

バルブ位置



A フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

B リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 尾灯／制動灯
- 後退灯
- リヤフォグランプ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）とリヤ方向指示灯／非常点滅灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

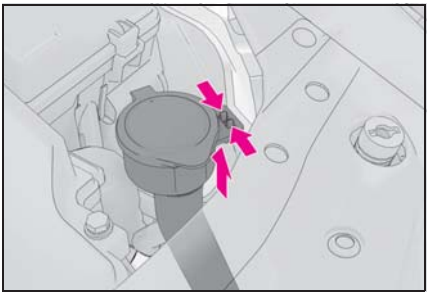
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.314

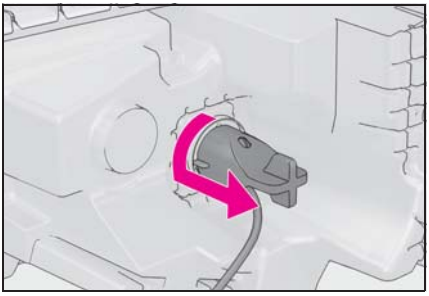
電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

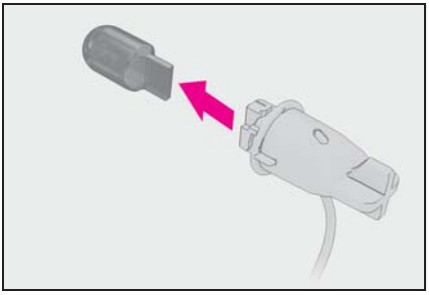
1 助手席側を交換するときは、ツメをはずしてウォッシャー液注入口を取りはずす



2 ソケットを左にまわして取りはずす

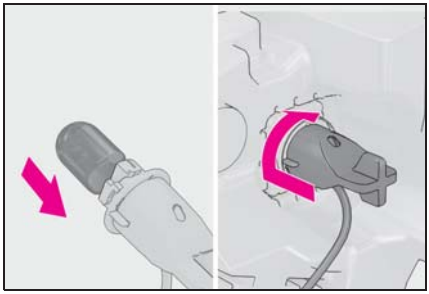


3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんフロント方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

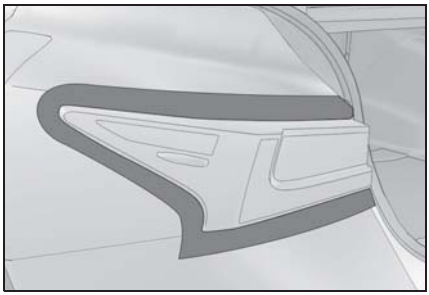


5 助手席側の電球を交換したときは、ウォッシャー液注入口をもとどおりに取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 トランクを開け、ランプ周りの車両側に保護テープを貼る

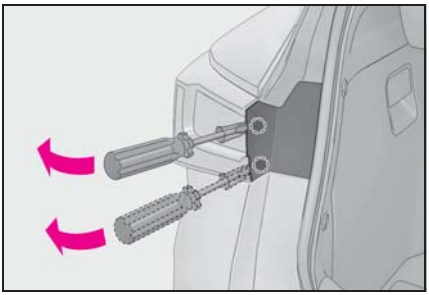
マスキングテープなど粘着力の弱いテープを使用してください。保護テープを取りはずす際に跡が残ったり、塗装が損傷するおそれがあります。



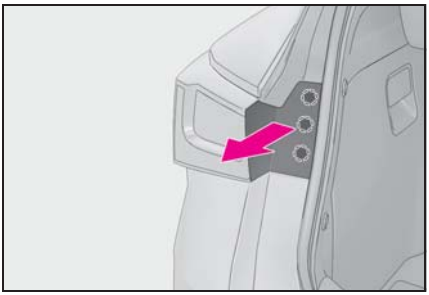
2 カバー外側にマイナスドライバーを数回差し込み、点線部のツメをはずしてカバーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

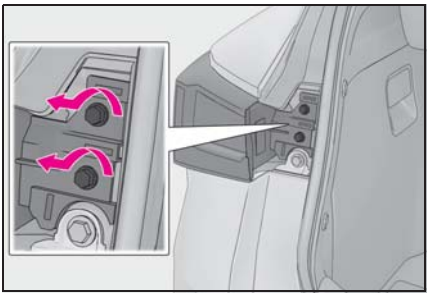
ださい。



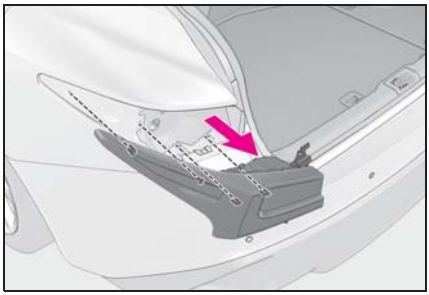
3 カバーを車両後方へ引っ張り、ランプ本体内側のカバーをはずす



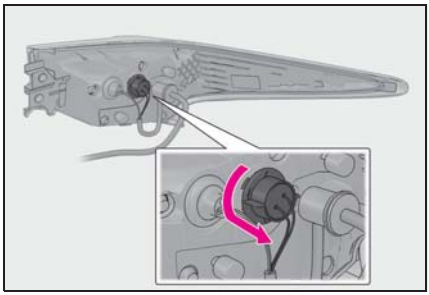
4 ボルト（２本）を取りはずす



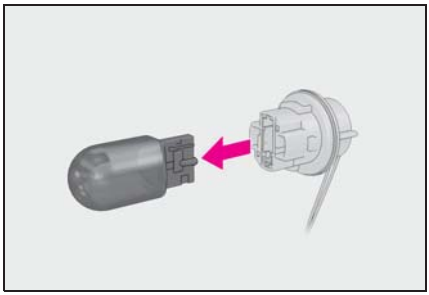
5 ランプ本体を車両後方に引っ張り、取りはずす



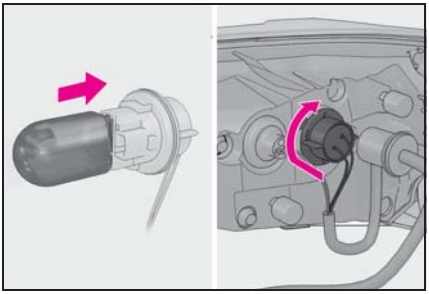
6 ソケットを左にまわして取りはずす



7 電球を取りはずす

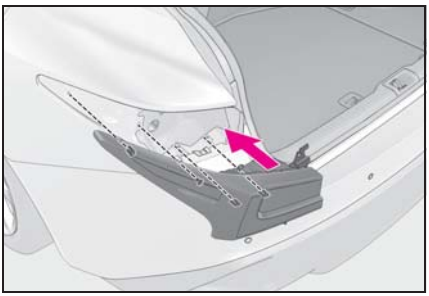


8 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

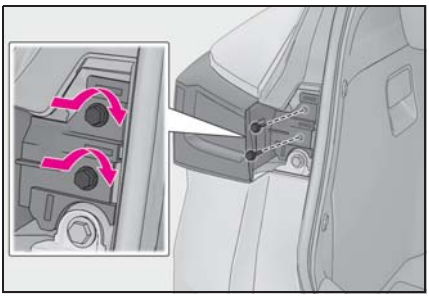


9 ランプ本体を取り付ける

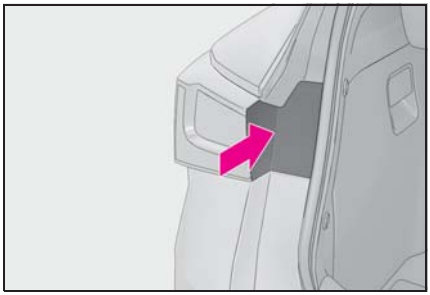
タブの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押して取り付ける。



10 ボルト（２本）を取り付ける



11 カバーを取り付ける



12 保護テープをはがす

知識

■フロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するとき（バルブタイプ）

ウォッシャー液が多く入っているときは、ウォッシャー液注入口を取りはずした際にウォッシャー液がこぼれ、お車の清掃が必要になる場合があります。

警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

警告

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 322
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 323
発炎筒 323
車両を緊急停止するには 324
水没・冠水したときは 325

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 327
警告灯がついたときは 333
警告メッセージが表示されたときは..... 341
パンクしたときは..... 344
ハイブリッドシステムが始動できないときは 353
キーをなくしたときは 354
給油扉が開かないときは 355
電子キーが正常に働かないときは..... 355
補機バッテリーがあがったときは..... 357
オーバーヒートしたときは 361
スタックしたときは..... 364

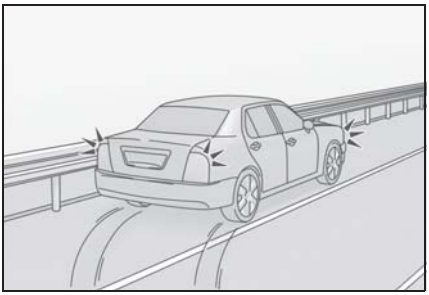
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.323）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

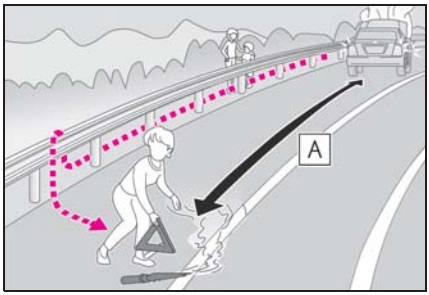
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.323）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

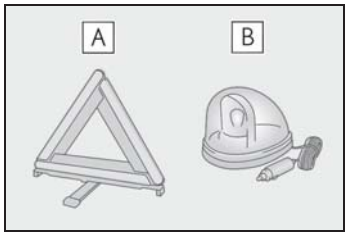


知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

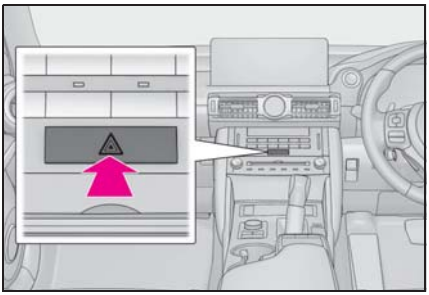
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●ハイブリッドシステム停止中（READYインジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

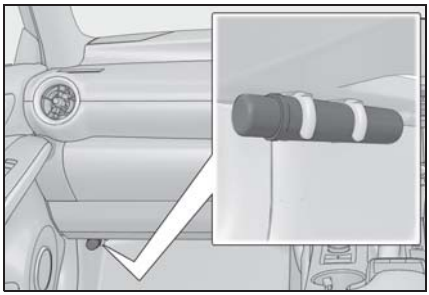
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

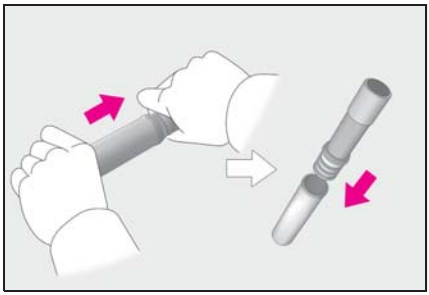
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



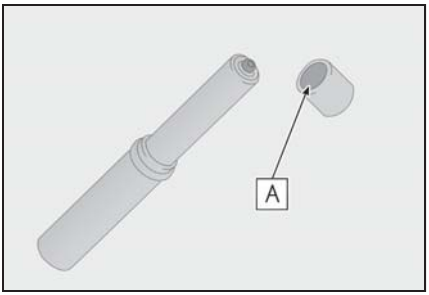
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

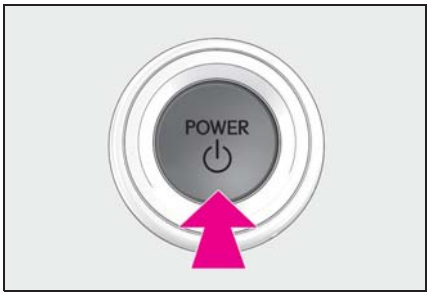
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

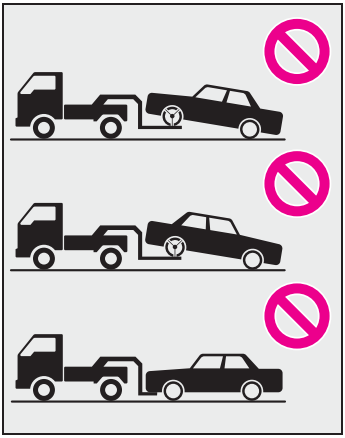
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

▶ 2WD 車

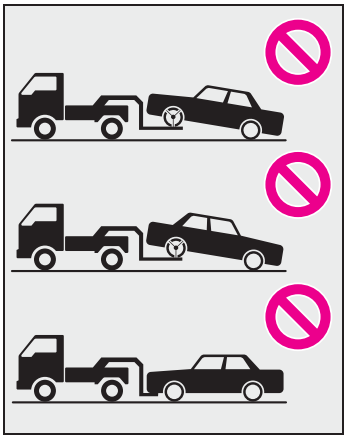
必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



警告

▶AWD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

注意

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

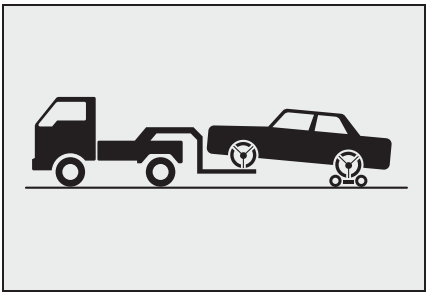
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

● ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない

● 異常な音がする

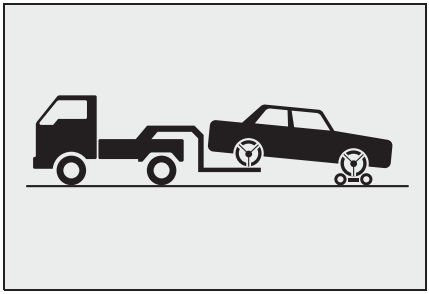
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

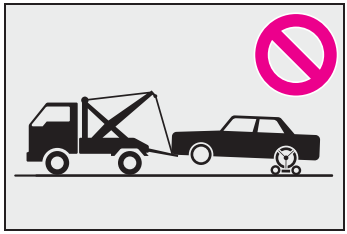


台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

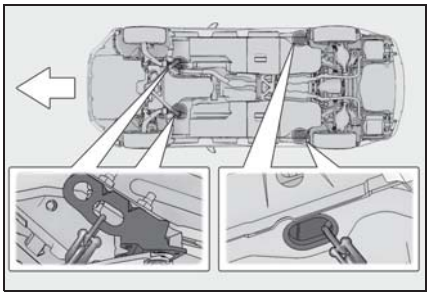
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



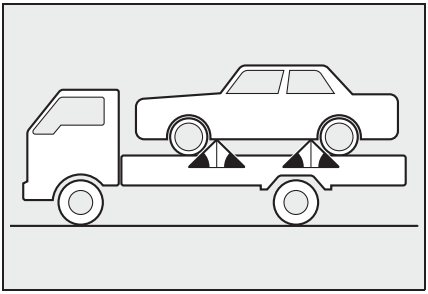
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が

45° になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

●ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

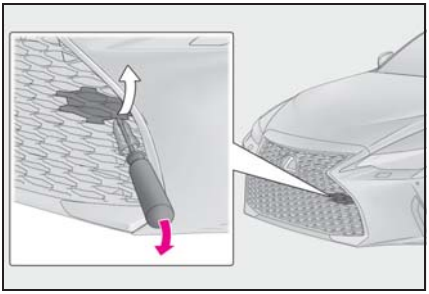
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

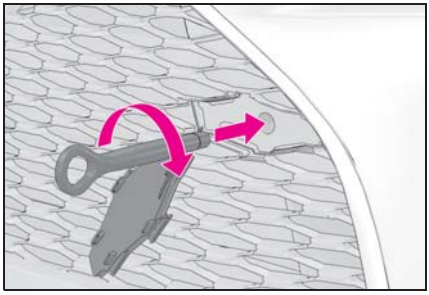
1 トランク内のホイールボルトレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す（→P.304）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

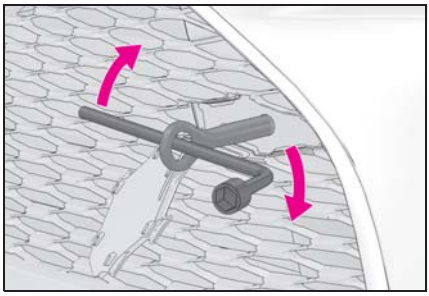
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールボルトレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

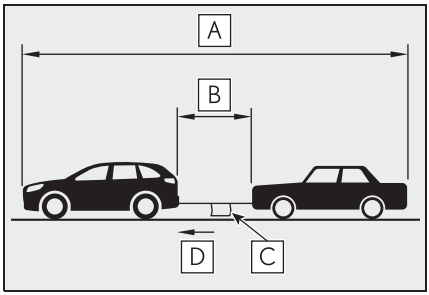


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。(→P.147)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.141

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

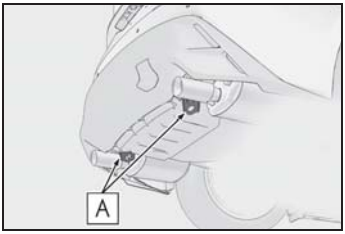
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールボルトレンチについて

トランクに搭載されています。(→P.304)

■輸送用フックについて

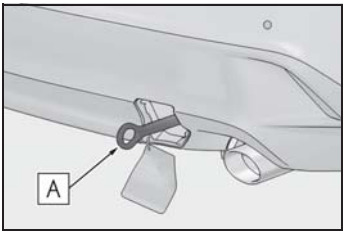
このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



A 輸送用フック

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

■緊急用フックを取り付けるには

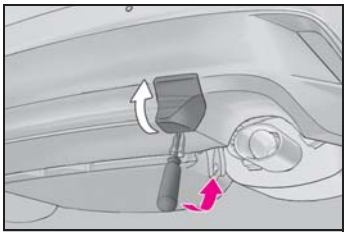
緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のホイールボルトレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す（→P.304）

2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

ださい。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 ホイールボルトレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.361）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムが過熱 → **安全な場所に停車し、対処方法（→P.362）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 駆動用電池残量低下警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	長時間シフトポジションが N になっているため、駆動用電池の残量が低下した **→ シフトポジションが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションを P にしてください。** **→ READY インジケーターが消灯しているときは、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを再始動してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ポップアップフード警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ポップアップフードが作動した **→ ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。** ポップアップフードの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** ●アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ●パーキングサポートブレーキ（静止物）作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1（警告ブザー ※2）

警告灯	警告内容・対処方法
REAR REAR REAR	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※1センターパネルに表示されます。

※2リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.339）に従ってください。**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.189）**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.217）**

■ RCTA OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.210）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.223）**

■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.231, 341）**

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.168, 342）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.179**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.344

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1. タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
2. 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.301）

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯しま

す。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.299

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、80km/h をこえない速度で走行してください。
- ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
  タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.301）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.333）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。
状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■“ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■“ハイブリッドシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.361

■“駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■“駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは

一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■“N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “ 停車時はブレーキを踏んでください ” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “ バッテリー保護のため自動で電源を Off しました ” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “ ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください ” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●オートマチックハイビーム

■ “ クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください ” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.168）

■ “ クルーズコントロール 現在使用できません ” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.168, 333）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●オートマチックハイビーム

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

●ドライバー異常時停車支援システム（LTA 連動型）

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.168, 333）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

●ドライバー異常時停車支援システム（LTA 連動型）

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・“エンジン冷却水高温”（→P.361）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
・“ハイブリッドシステム故障”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“故障のためブレーキ力が低下”
・“充電システム故障”
・“エンジン油圧不足”

●“補機バッテリー（始動用）充電不足”が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
・数秒後※に表示が消えたときは：
ハイブリッドシステムが作動した状態を約15分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.357）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約6秒間表示されます。

注意

■“電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください”がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

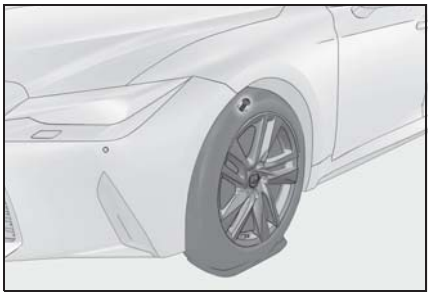
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる （→P.323）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



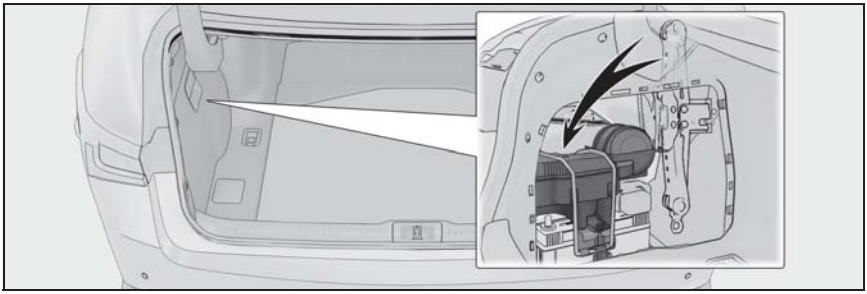
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

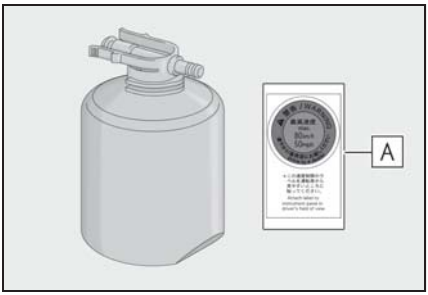
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キットの搭載位置



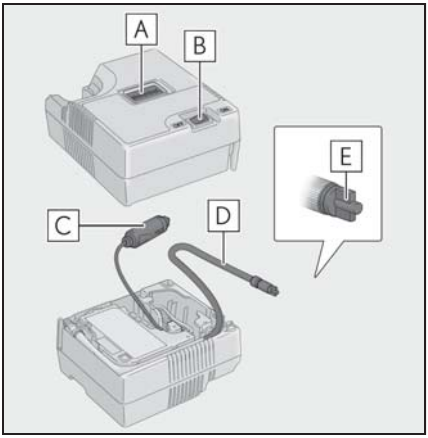
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付

着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

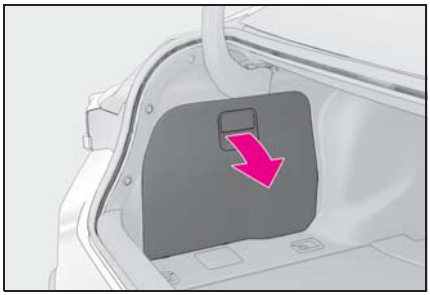
■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

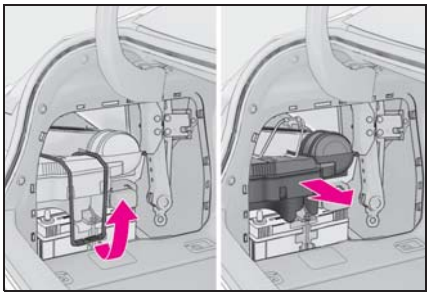
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 補機バッテリーカバーをはずす



2 バンドをはずし、応急修理キットを取り出す

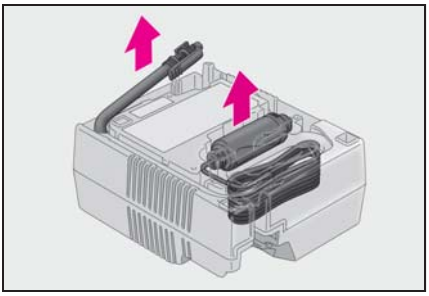


応急修理をするには

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

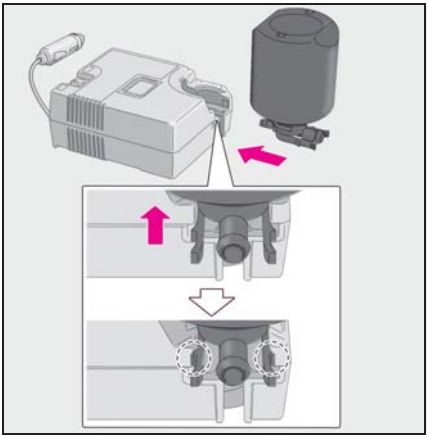
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



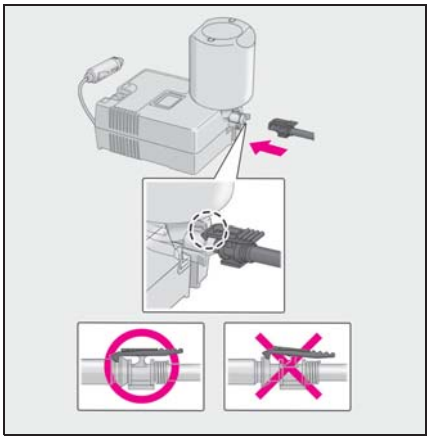
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

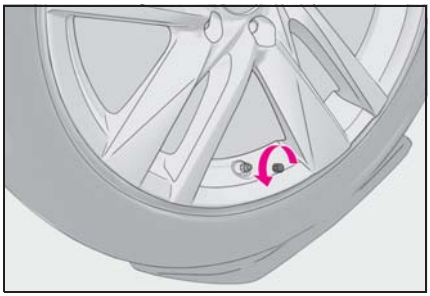


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

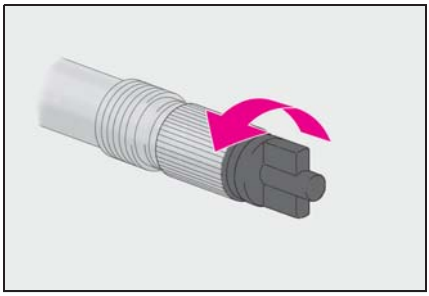


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



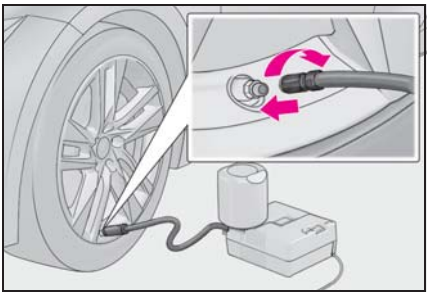
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

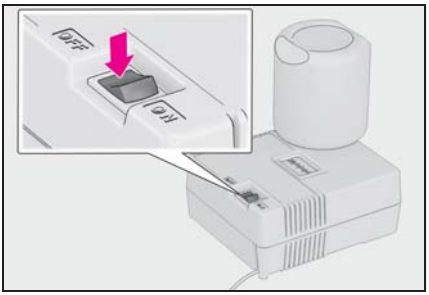


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

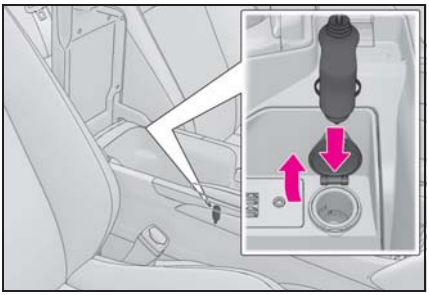
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



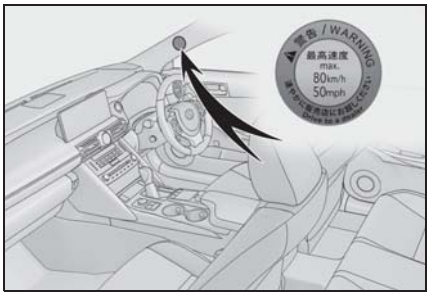
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.276）

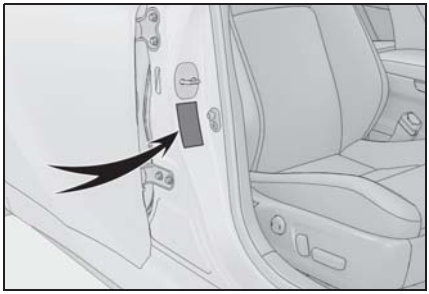


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



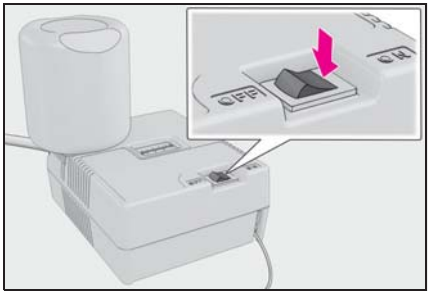
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.296）

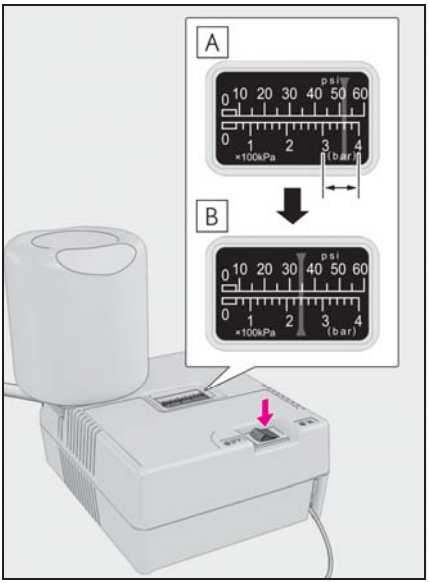


12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.350, 371）

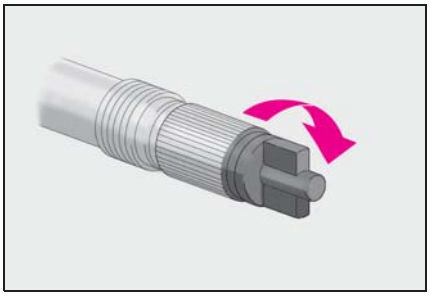
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



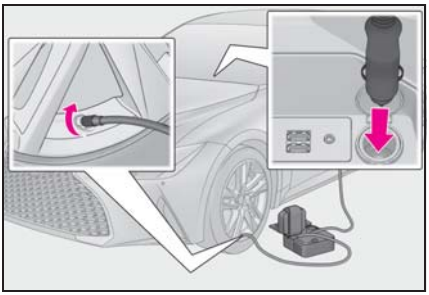
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

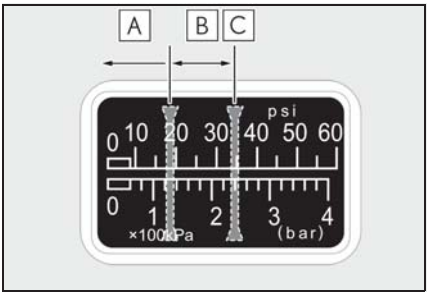
20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください。



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kpa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

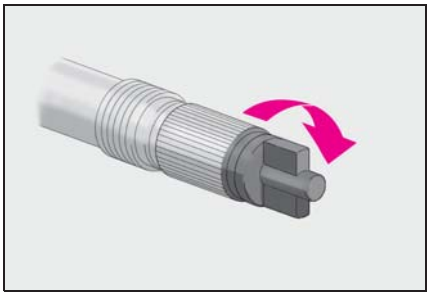
B 空気圧が 130kpa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.371）の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

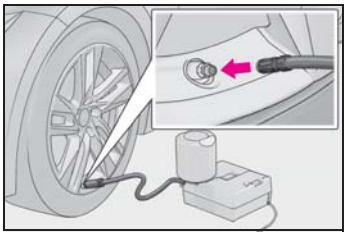
■応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■タイヤがパンクしているとき

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.135）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.355）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.61）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.353）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.357）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→P.293）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→P.293）
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.357）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.146）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

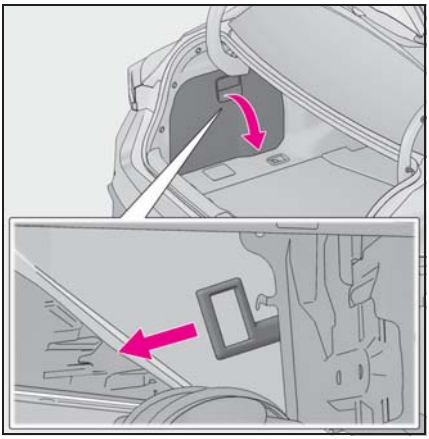
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

トランク内の補機バッテリーカバーをはずし、タイヤパンク応急修理キットを取り出して図のレバーを引きます。



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.105）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.105）

注意

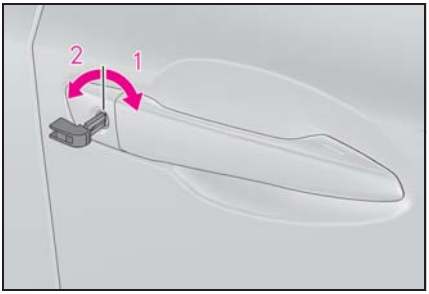
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

■ ドア

メカニカルキー（→P.94）を使って次の操作ができます。

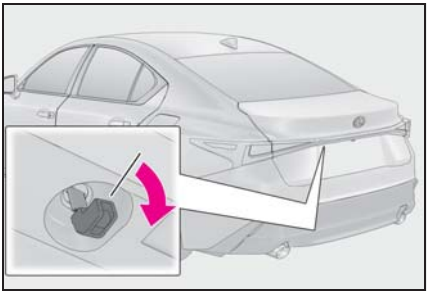


1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

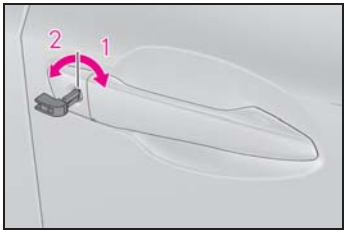
■ トランク

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける（→P.63）



知識

■ キー連動機能



1 ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

2 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

警告

■ **メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

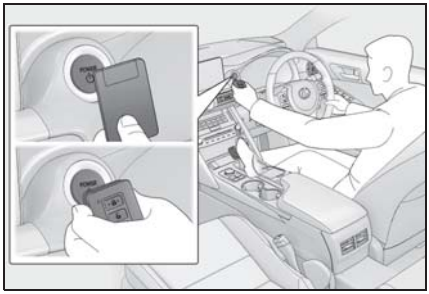
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーがＰの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.312)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.62)

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.137)

補機バッテリーがあがったときは

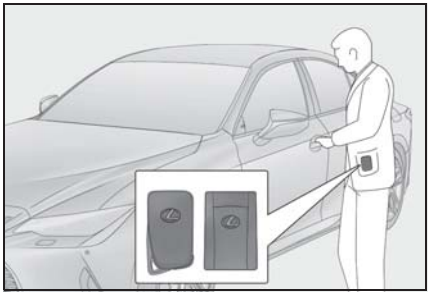
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

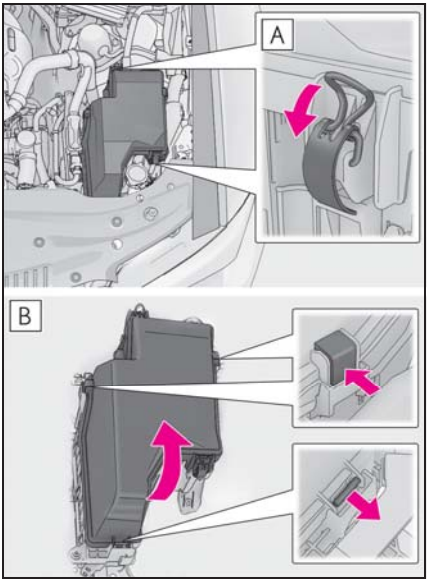
ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.63)



2 ボンネットを開け、ヒューズボックスを開ける

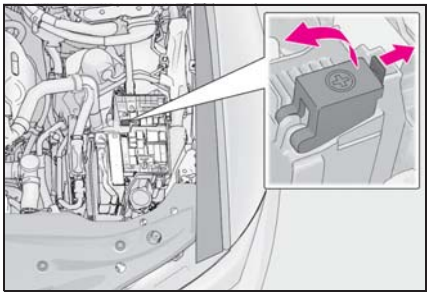


A すべてのクリップをはずす

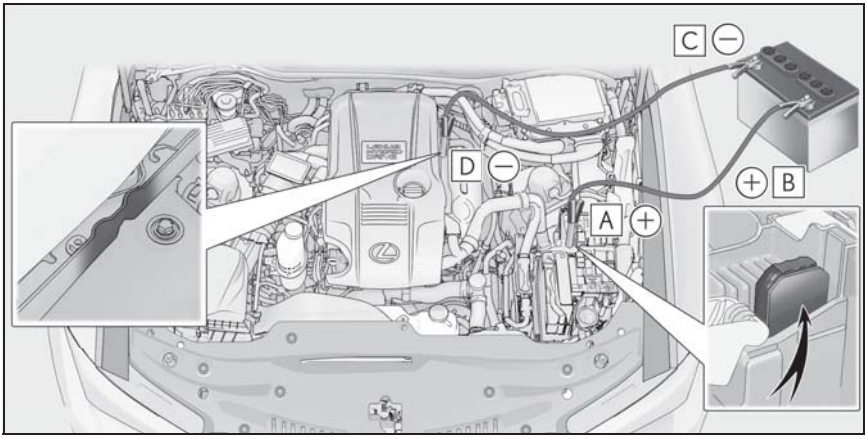
B 左右のツメを押してロックをはずし、手前のプレートを引きながらカバーを持ち上げる

3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子C につなぎ、もう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）D につなぐ



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→P.293

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→P.294

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援しないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.72）の表示がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム高温 出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

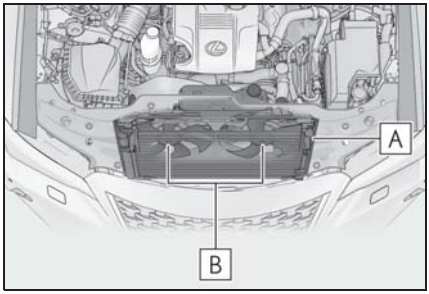
対処方法

▶ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

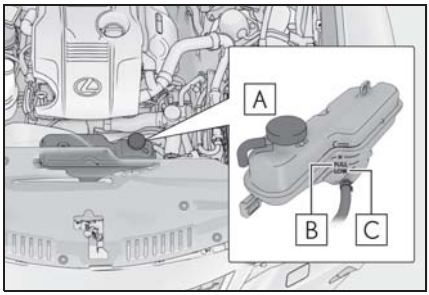


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

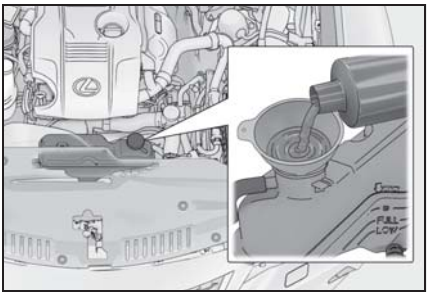
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

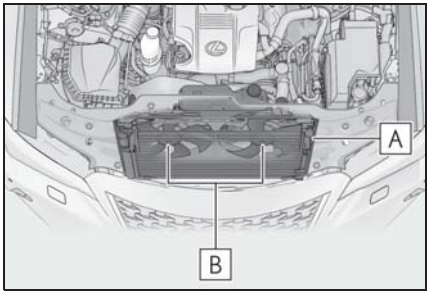
7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ハイブリッドシステム高温 出力制限中です” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

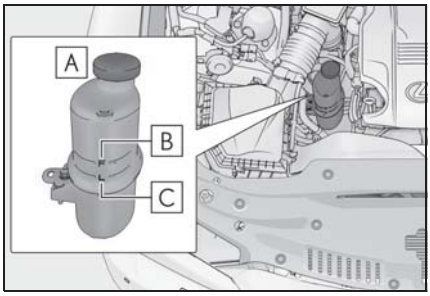


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “F”（上限）と “L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

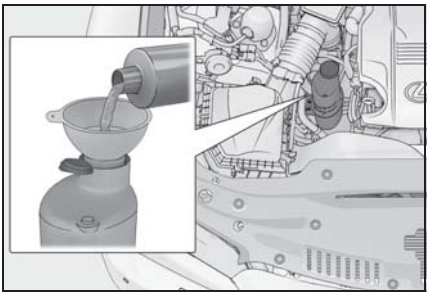
B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する
表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

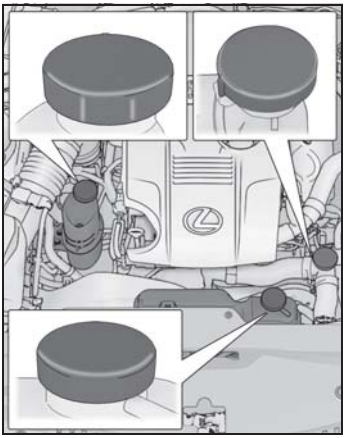
■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンやベルトなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや注水キャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用する場合は、弊社純正品または同等品を使用する

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

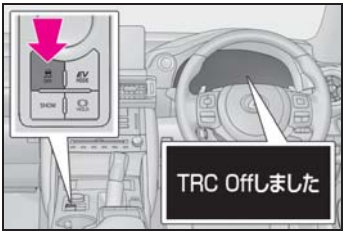
脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3 後輪の下に木や石などをあてがう
4 ハイブリッドシステムを再始動する
5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 368

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 372

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 382

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	66.2

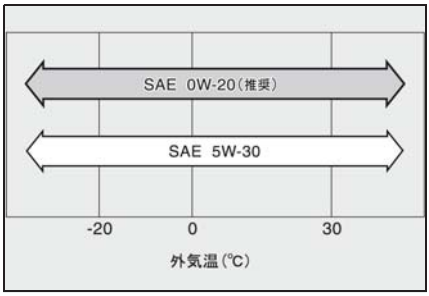
エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.1	4.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

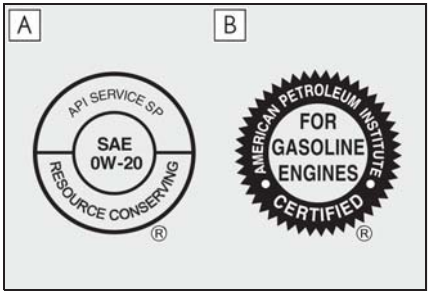


オイル粘度について（例として0W-20で説明します）：

- 0W-20の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20の20は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

■ 指定エンジンオイル

API規格SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RCか、ILSAC規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20が入手困難な場合は、5W-30もご使用いただけます。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）		
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度30%　－12°C 濃度50%　－35°C	AVE30	ガソリンエンジン	8.1
		パワーコントロールユニット	2.2
	AVE35	ガソリンエンジン	8.0
		パワーコントロールユニット	2.3

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルードWS	3.8

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください

注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（AWD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正トランスファーギヤオイル LL80	0.7

フロントディファレンシャル（AWD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5, SAE 85W-90）	0.7

リヤディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5, SAE 75W-85）	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	117

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
4.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/45R18 94Y	18 × 8 1/2J	240（2.4）	
235/40R19 92Y	19 × 8 1/2J	240（2.4）	250（2.5）
265/35R19 94Y	19 × 9 1/2J	-	250（2.5）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
車内	ドアカーテシランプ	5
	バニティミラーランプ	8
	足元照明	3.8
	トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
IS300h	AVE30	2AR-FSE（2.5L ガソリン）	1KM	FR（後輪駆動）
	AVE35			AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して⚙を選択する

2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する

3 画面に表示されている内容に従って設定を変更する

■ センターディスプレイで設定するには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、“ 設定・編集 ” を選択する

画面に直接タッチして選択することもできます。

2 “ 設定・編集 ” 画面の “ 車両 ” を選択する

3 “ 車両カスタマイズ ” または “ ドライブモードカスタマイズ ” を選択する

4 “ 車両カスタマイズ ” を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“ する ”（作動）・“ しない ”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+” または “ − ” を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

知識

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.72, 79）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	○	○	—
EV インジケーター	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
スイッチを押したときに表示される画面の設定 ※2	ドライブインフォ 1	お好みの項目 ※3	—	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	設定できる項目は →P.80 を参照	—	○	—
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2	航続可能距離		—	○	—
	リセット間平均車速				
ドライブインフォ 3※2	給油後平均燃費		—	○	—
	始動後走行時間				
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
カラー	カラー 1	カラー 2	○	○	—

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
タコメーター切りかえ	自動切りかえ	常時タコメーター	—	○	—
		常時ハイブリッドシステムインジケーター			
REV インジケーター ※4	4000r/min	2000 ～ 6000r/min	—	○	—
		なし			
REV ピーク ※4	あり	なし	—	○	—
リヤシートリマインダー	あり	なし	—	○	—

※1機能についての詳しい説明は P.83 を参照してください。

※2F SPORT 以外

※3登録できない項目もあります。

※4F SPORT

■ ドアロック（→P.96, 100, 355）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.96, 104）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.96, 104）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.94, 96, 100）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける（長）			
		非作動			

■ パワーイージーアクセスシステム★（→P.111）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メモリーコール機能★（→P.112）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→P.118）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→P.121）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ ムーンルーフ★（→124）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
メカニカルキー連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.133）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	—	○	—

※ “なし” に変更しても、パワースイッチを ON モードにするたびに “あり” に戻ります。

■ 方向指示灯（→P.145）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
方向指示灯の点滅中に、点滅している側へ方向指示レバーを一段階操作したときの作動	点滅したまま	消灯	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.151）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	-2	-2 ～＋ 2	○	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	パワースイッチを OFF にする	—	—	○

■ ランプ（→P.151）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）共通（→P.170）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ機能	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—

※ パワースイッチを ON モードにすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.180）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.190）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とハンドルの振動／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.193）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.202）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知タイミング	早い／普通／遅い	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.209）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

■ PKSA（パーキングサポートアラート）（→P.213）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.227）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.237）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード★時のパワートレーン制御	Normal	Power	○	—	—
		Eco			
カスタムモード★時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—	—
カスタムモード★時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→P.256）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○

■ シートヒーター（→P.265）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
タイマー制御	なし	あり	○	—	○

■ イルミネーション（→P.267）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
インサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。

・シフトレバーを P 以外に入れると全ドアが施錠されます。

・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。

・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。
- ナビゲーション画面以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、パワースイッチをOFF にし、再度パワースイッチを ON モードにするまでナビゲーション画面には反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.232
クリアランスソナー	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.217
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤローテーションを実施したとき ・指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ・ID コードの登録を実施したとき	P.300
バックガイドモニター★	・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・補機バッテリーの電圧が低下したとき ・補機バッテリーを脱着したとき	別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照
パノラミックビューモニター★	・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・補機バッテリーの電圧が低下したとき ・補機バッテリーを脱着したとき	別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 384
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 386
アルファベット順さくいん …… 388
五十音順さくいん…… 390

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.354）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.354）

キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.312）

施錠・解錠できない

- パワースイッチが ON モードになっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.137）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.105）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.99）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.102）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.135）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.135）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.104）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.136）

● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.353）

● 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.357）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● パワースイッチは ON モードになっていますか？

パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.141）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.136）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.123）

パワースイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードまたは ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.138）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.386）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.333、341 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.344）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.364）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.62
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P.341
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.122，125
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.62
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.102
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.92
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.97
	電子キーを車内に置き忘れている	P.105

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・トランクを解錠する、またはハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.97
	パーキングブレーキが解除されていない	P.148
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない ※	P.336
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.143
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.130
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.197
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.170
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.180

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.190
進入禁止区域に進入したとき		
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時停車支援システム（LTA 連動型）が作動した	P.204
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.214
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.222

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 256
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 239
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
..... 240
AHB
（オートマチックハイビーム）.. 154
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 240, 243
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 240
AWD
（オールホイールドライブ）.... 371
BSM
（ブラインドスポットモニター）209
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）..... 239
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 6
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）..... 240
EV ドライブモード 139
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）
..... 371
Harmonious Driving Navi. 画面. 84
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）..... 369
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....40
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....151, 316
LED デイライト 152
Lexus Safety System +
AHB（オートマチックハイビーム）
.....154
LTA（レーントレーシングアシスト）.....180
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....170
RSA（ロードサインアシスト）.190
先行車発進告知機能.....202
ドライバー異常時対応システム204
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....193
LTA
（レーントレーシングアシスト）180
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..170
PKSA
RCTA （リヤクロストラフィックアラート）.....213
クリアランスソナー.....213
PKSA（パーキングサポートアラート）
.....213
PKSB（パーキングサポートブレーキ）
.....227
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....222
REV インジケーター.....75
REV ピーク 75
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....30

S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）239
TRC
（トラクションコントロール）240, 364
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）..... 240
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）..... 239

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 357
アームレスト..... 275
RSA (ロードサインアシスト) 190
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 222
格納のしかた 119
操作..... 118
ブラインドスポットモニター（BSM）209
ポジションメモリー..... 111
ミラーヒーター 258
リバース連動機能 118
アクセサリーコンセント 279
アクセサリーソケット 276
アクセサリーモード 137
アクティブコーナリングアシスト（ACA）..... 240
アシストグリップ..... 275
足元照明 267
ワット数 371
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 240
アラーム
オートアラーム 62
音さくいん 386
警告ブザー 333
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 239
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 104

い

イグニッションスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能 138
車両を緊急停止するには 324
ハイブリッドシステム始動のしかた...135
モードの切りかえ 137
位置交換（タイヤローテーション)..298
イベントデータレコーダー（EDR）.....6
イモビライザーシステム.....61
インジケーター（表示灯）.....70
インストルメントパネル照度調整スイッチ.....78
インテリアランプ 267
インナーミラー 117

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 315
方向指示レバー 145
ウインドウ
ウォッシャー.....157
パワーウインドウ 121
リヤウインドウデフォッガー 258
ウインドウロックスイッチ.....123
ウォッシャー 157
液の補給.....296
スイッチ.....157
タンク容量.....371
冬の前の準備・点検 248
動けなくなったときは（スタック)..364
雨滴感知式ワイパー 157
運転
雨の日の運転.....128
運転を補助する装置 239
寒冷時の運転.....248
正しい運転姿勢.....25
手順 128
ハイブリッド車運転のアドバイス.....246
運転支援システム情報表示.....82
運転席シートベルト非着用警告灯 ...336

え

エアコン
「ナノイー X」..... 261
オートエアコン 256
花粉除去機能 261
曇り取り（フロントガラス）..... 257
フィルターの清掃 310
エアコン・デフォッガー 256
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 335
改造・廃棄 35
警告ブザー 335
作動条件 31
正しい姿勢 25
配置 30
エネルギーモニター 84
エレクトリックパワーステアリング（EPS）..... 240
エンジン
イモビライザーシステム..... 61
エンジンスイッチ 135
オーバーヒート 361
タコメーター 72, 73
ハイブリッドシステムが始動できない 353
ハイブリッドシステムの始動方法 135
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）..... 135
ボンネット 293
エンジンオイル
警告灯 334
冬の前の準備・点検..... 248
メンテナンスデータ..... 368
容量 368
エンジン回転計（タコメーター）72, 73
エンジンスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能 138
車両を緊急停止するには..... 324
ハイブリッドシステム始動のしかた...135
モードの切りかえ 137
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....293
警告メッセージ.....99
エンジンルーム 293
エンジンルームから蒸気が出ている...361

お

オイル（エンジンオイル）.....368
オーディオシステム連携表示.....82
オートアラーム 62
オートエアコン 256
オートドアロック・アンロック機能 100
オートマチックハイビーム.....154
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動 153
オーバーヒート 361
オープナー
給油扉.....163
トランク.....101
ボンネット.....293
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ 123
お子さまの安全のために 39
キーの電池.....312
シートベルトの着用 27, 28
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告.....265
チャイルドシート 40
チャイルドシートの取り付け 40
チャイルドプロテクター 99
発炎筒の取り扱いに関する警告.....324
バッテリーに関する警告 360
パワーウインドウに関する警告.....122
“ODO TRIP” スイッチ 78

オドメーター／トリップメーターディスプレイ 77
“ODO TRIP” スイッチ 78
表示項目 77

か

カーテシランプ
装着位置 267
カーテンシールドエアバッグ 30
カードキー..... 92
カーペット
洗浄 289
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示..... 72, 73
回生ブレーキ..... 55
外装の電球（バルブ）
交換要領 315
ワット数 371
ガス欠になったとき 57
カスタマイズ機能..... 372
型式 371
カップホルダー..... 272
カメラ
前方カメラ（PCS) 165
白線認識用カメラ（LTA) 180
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... 258
ガレージジャッキ..... 295
冠水路走行..... 133
寒冷時の運転..... 248

き

キー
カードキー 92
キーナンバープレート..... 92
キーの構成 92
キーレスエントリー..... 94, 104
キーをなくした 354
正常に働かない 355
施錠・解錠ができない 355
電子キー.....92
電池が切れた 312
ハイブリッドシステムが始動できない 353
メカニカルキー 94
ワイヤレスリモコン 94
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 104
ワイヤレスドアロック 94
救急箱等固定用バンド.....274
給油
給油口が開けられない 355
給油のしかた 162
メンテナンスデータ 368
緊急時シートベルト固定機構.....28
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）.....353
緊急時の対処
オーバーヒートした 361
キーの電池が切れた 312, 355
キーをなくした 354
警告灯がついた 333
警告メッセージが表示された 341
けん引.....327
故障したときは 322
車両を緊急停止する 324
水没・冠水したときは 325
スタックした 364
電子キーが正常に働かない 355
ハイブリッドシステムが始動できない 353
発炎筒.....323
パンクした 344
補機バッテリーがあがった 357
緊急停止システム 60
緊急ブレーキシグナル.....240

く

空気圧（タイヤ）
タイヤ空気圧警報システム..... 298
メンテナンスデータ..... 371
区間距離計（トリップメーター）..... 77
駆動用電池
警告灯 334
警告メッセージ 60
充電について 55
搭載位置 57
冷却用吸入口 59
曇り取り
フロントガラス 257
ミラーヒーター 258
リヤウインドウデフォッガー 258
クラクション（ホーン）..... 116
クリアランスソナー 214
警告メッセージ 217
操作 215
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 151
電球（バルブ）の交換..... 315
クリップ
フロアマット 24
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 193
グローブボックス 271
グローブボックスランプ 271

け

警音器（ホーン）..... 116
計器類（メーター）..... 72
警告灯 333
RCTA OFF 表示灯..... 337
ABS & ブレーキアシスト..... 335
SRS エアバッグ..... 335
LTA 表示灯 337
エンジン.....334
駆動用電池残量低下 334
クリアランスソナー OFF 表示灯 337
高水温.....333, 334
シートベルト非着用 336
スリップ表示灯 338
タイヤ空気圧.....337
ドライブスタートコントロール.....335
燃料残量.....336
パーキングブレーキ表示灯 339
ハイブリッドシステム過熱 333
パワーステアリング 336
PKSB OFF 表示灯 338
PCS 338
ブレーキ.....333
ブレーキオーバーライドシステム.....335
ブレーキホールド作動表示灯 339
ポップアップフード 335
油圧 334
警告ブザー
LTA.....183
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....337
ABS & ブレーキアシスト 335
SRS エアバッグ 335
LTA（レーントレーシングアシスト）..337
エンジン.....334
駆動用電池残量低下 334
クリアランスソナー 337
高水温.....333, 334
シートベルト非着用 336
シフトダウン制限 143, 144
衝突警報.....170
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....197
手放し運転警告（LTA).....188
ドライブスタートコントロール.....335

トランク開 99
ハイブリッドシステム..... 334
ハイブリッドシステム過熱..... 333
パワーステアリング..... 336
半ドア 97
半ドア走行時 99
PKSB（パーキングサポートブレーキ）338
プリクラッシュセーフティシステム .. 338
プリクラッシュブレーキ..... 170
ブレーキ 333
ブレーキオーバーライドシステム 335
ブレーキホールド 339
ポップアップフード..... 335
ボンネット開 99
窓開 122
ムーンルーフ開 125
油圧 334
リバース 140
警告メッセージ..... 341
化粧ミラー（バニティミラー）..... 276

こ

交換
キーの電池 312
タイヤ 304
電球（バルブ）..... 315
ヒューズ 313
航続可能距離..... 81, 88
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）..... 133
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 315
高電圧部位..... 57
コーションラベル..... 57
コートフック..... 275
子供専用シート
取り付け方 41
小物入れ.....270
コンソールボックス 271
コンライト（自動点灯・消灯装置）..151

さ

サービスプラグ 57
サイドエアバッグ 30
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 315
方向指示レバー 145
サイドミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
.....222
格納のしかた.....119
操作 118
ブラインドスポットモニター（BSM）.209
ポジションメモリー 111
ミラーヒーター 258
リバース連動機能 118
サスペンションコントロール（PCS）
.....171
三角表示板等固定用バンド.....274
サンシェード
ルーフ.....124
サンバイザー 276

し

シート
正しい運転姿勢 25
チャイルドシート 40
調整 109
手入れ.....289
パワーイージーアクセスシステム.....111
ヘッドレスト 114
ポジションメモリー 111
メモリーコール機能 112
シートヒーター 265

シートベルト..... 27
お子さまの着用 27, 28
緊急時シートベルト固定機構..... 28
正しく着用するには..... 28
着け方・はずし方 28
手入れ..... 289
妊娠中の方の着用 27
非着用警告灯 336
シートベルト非着用警告灯 336
シートベルトプリテンショナー
機能..... 29
プリテンショナー警告灯..... 335
シートベンチレーター 265
シートポジションメモリー 111
G モニター 82
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）..... 58
室内灯（インテリアランプ）..... 267
始動後走行距離..... 81
始動のしかた..... 135
シフトポジション..... 140
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ..... 141
シフトレンジの切りかえ..... 142
操作..... 140
リバース警告ブザー..... 140
締め付けトルク（ホイール）..... 307
ジャッキ
ガレージジャッキ 295
車幅灯
電球（バルブ）の交換..... 315
ランプスイッチ 151
車両型式 371
車両仕様（スペック）..... 368
車両接近通知装置..... 56
車両データの記録..... 6
車両を緊急停止するには 324
瞬間燃費 81, 88
仕様（車両仕様）.....368
衝撃感知ドアロック解除システム 97
初期化
タイヤ空気圧警報システム 300
パワーウインドウ.....121
初期設定.....382
助手席シートベルト非着用警告灯 ...336
侵入センサー（オートアラーム）.....64

す

水温計.....72, 73
スイッチ
EV ドライブモード 139
LTA.....185
PCS OFF.....173
PKSB.....228
RCTA 223
TRC OFF.....241
VSC OFF.....241
イグニッション.....135
インストルメントパネル照度調整.....78
ウインドウロック.....123
ウインドシールドデアイサー 263
ウォッシャー.....157
オートマチックハイビーム 154
“ODO TRIP” 78
クリアランスソナー 215
シート調整.....109
シートヒーター.....265
シートベンチレーター 266
シートポジションメモリー 111
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....193
侵入センサー OFF 64
ステアリングヒーター 265
スノーモード.....142
タイヤ空気圧警報リセット 300
ドアミラー.....118

ドアロック 98
ドライブモードセレクト 237
トランクオープナー 101
トランクオープナーメイン 103
パーキングブレーキ 146
パドルシフト 142, 143
パワーウインドウ 121
パワースイッチ 135
ハンドル位置調整 116
ブレーキホールド 149
方向指示レバー 145
ホーン（警音器）..... 116
ポジションメモリー 111
ムーンルーフ 124
メーター操作 80
ランプ 151
リセット（タイヤ空気圧警報システム）
..... 300, 302
リヤウインドウデフォッガー 256
レーダークルーズコントロール 193
ワイパー 157
スタック 364
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.. 239
ステアリングヒーター 265
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 116
ステアリングヒーター 265
パワーイージーアクセスシステム 111
ポジションメモリー 111
メーター操作スイッチ 80
ステアリングロック 136
解除できないとき 136
警告メッセージ 136
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 240
電球（バルブ）の交換 315
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 248
スピードメーター 72, 73
スペック（車両仕様）.....368
スマートエントリー＆スタートシステム
アンテナの位置 104
カスタマイズ設定 372
緊急始動機能 353
作動範囲 104
正常に働かないとき 355
節電機能 105
電波がおよぼす影響について 107
ドアの解錠・施錠 96
トランクの解錠 101
ハイブリッドシステムの始動 135
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 315
ランプスイッチ 151
スリップ表示灯 240

せ

清掃
外装 286
シートベルト 289
内装 289
ホイール・ホイールキャップ 286
レーダー 165
制動灯
緊急ブレーキシグナル 240
電球（バルブ）の交換 315
セカンダリーコリジョンブレーキ ...240
積算距離計（オドメーター）.....77
セキュリティインジケーター 61, 62
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....197
先行車発進告知機能 202
センサー
LTA 180
インナーミラー 117
雨滴感知センサー 160

侵入センサー 64
ライトセンサー 152
レーダー 165, 210
洗車 286
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換..... 315
ライトセンサー 152
ランプ消し忘れ防止機能..... 153
ランプスイッチ 151
センターディスプレイ 254

そ

走行時間 81
走行情報表示..... 80
走行モード（ドライブモード）142, 237
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
..... 298
速度計（スピードメーター）..... 72, 73

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換..... 315
方向指示レバー 145
タイヤ
空気圧 309, 371
空気圧警告灯 337
交換 304
締め付けトルク 307
チェーン 248
点検 296
パンク応急修理キット..... 344
パンクしたときは 344
冬用タイヤ 248
ホイールサイズ 371
ローテーション（位置交換）..... 298
タイヤが空まわりする（スタックした）
..... 364
タイヤ空気圧
警告灯.....337
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの登録・選択 302
機能について 298
空気圧バルブ／送信機について.....300
空気圧表示画面 298
警告灯.....337
初期化.....300
タイヤチェーン 248
タコメーター 72, 73
REV インジケーター 75
REV ピーク 75

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....248
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け.51
シートベルトでの固定 49
選択方法.....40
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
.....146
警告灯.....339
警告メッセージ.....147
操作 146
冬季の注意.....248
未解除走行時警告ブザー 148

て

ディスプレイ
マルチインフォメーションディスプレイ79
ディファレンシャル
フロントディファレンシャル 370
リヤディファレンシャル 370
手入れ
外装 286
シートベルト.....289

内装 289
ホイール・ホイールキャップ 286
レーダー 165
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換 315
ランプスイッチ 151
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 258
電気モーター 54, 57
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 315
ワット数 371
点検基準値（メンテナンスデータ）. 368
電子キー 92
作動範囲 104
正常に働かないとき 355
節電機能 105
電池が切れた 355
電池交換 312
電子制御ブレーキシステム（ECB）. 239
電池交換（キー）..... 312

と

ドア 96
オートドアロック・アンロック機能 .. 100
衝撃感知ドアロック解除システム 97
スマートエントリー＆スタートシステム 104
チャイルドプロテクター 99
ドアガラス 121
ドアロックスイッチ 98
ワイヤレスリモコン 96
ドアカーテシランプ
位置 267
ワット数 371
ドアハンドル照明 267
ドアポケット 270
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 222
格納のしかた 119
操作 118
ブラインドスポットモニター（BSM）. 209
ポジションメモリー 111
ミラーヒーター 258
リバース連動機能 118
盗難防止装置
イモビライザーシステム 61
オートアラーム 62
時計 72, 73, 276
トップテザーアンカレッジ 52
ドライバー異常時対応システム）..... 204
ドライビングポジションメモリー ... 111
ポジションメモリー 111
メモリーコール機能 112
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御 133
後退速度の抑制制御 133
ドライブモードセレクトスイッチ ... 237
トラクションコントロール（TRC）.. 240
トランク
オープナー 101
キー閉じ込み防止機能 102
警告メッセージ 99
電子キーが正常に働かないとき 355
トランクオープナーを使用できなくするには 103
トランク内の装備 273
パワートランクリッド 100
メインスイッチ 103
トランクランプ 102
ワット数 371
トランスファー
メンテナンスデータ 370

トランスミッション
Sモード 143
シフトダウン制限警告ブザー ... 143, 144
スノーモード 142
操作 141
ハイブリッドトランスミッション 140
パドルシフトスイッチ..... 142, 143
メンテナンスデータ..... 369
トリップメーター..... 77

な

内装
収納装備 270
手入れ 289
「ナノイー X」..... 261
ナビゲーションシステム連携表示..... 82

に

ニーエアバッグ..... 30
荷物
積むときの注意 134
トランク 100
トランク内装備 273
荷物固定用ネット 273

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.... 364

ね

燃費
エネルギーモニター..... 84
給油後平均燃費 88
瞬間燃費 81, 88
平均燃費 81, 87, 88
燃料
給油 162
種類 368
燃料計.....72, 73
燃料残量警告灯 336
容量 368
燃料計.....72, 73

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....236
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....233
パーキングブレーキ 146
警告灯.....339
警告メッセージ.....147
操作 146
冬季の注意.....248
未解除走行時警告ブザー 148
排気ガス 38
ハイビーム（ヘッドランプ）
オートマチックハイビーム 154
電球（バルブ）の交換 315
ランプスイッチ 151
ハイブリッドシステムインジケーター76
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード 139
運転のアドバイス 246
エネルギーモニター 84
オーバーヒート 361
回生ブレーキ 55
ガス欠になったとき 57
緊急始動機能.....353
緊急時の停止方法 324
緊急停止システム 60
駆動用電池冷却用吸入口 59
警告メッセージ.....60
高電圧部位.....57
サービスプラグ 57
事故が発生したとき 58

始動できないときは..... 353
始動方法 135
車両接近通報装置 56
充電..... 55
注意..... 57
特徴..... 54
特有の音と振動 55
パワー（イグニッション）スイッチ .. 135
補機バッテリーがあがった..... 357
メンテナンス・修理・廃車するとき 56
ハイブリッドトランスミッション
Sモード 143
パドルシフト 142, 143
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 315
ハザードランプ（非常点滅灯）
電球（バルブ）の交換..... 315
ワット数 371
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 121
ムーンルーフ 124
発炎筒 323
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 315
バッテリー（駆動用電池）
充電について 55
搭載位置 57
冷却用吸入口 59
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯 334
搭載位置 293
補機バッテリーがあがった..... 357
パドルシフト..... 142, 143
パドルシフトスイッチ..... 142, 143
バニティ（化粧用）ミラー 276
バニティミラーランプ
装備について 276
ワット数 371
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....315
ワット数.....371
パワー（イグニッション）スイッチ
自動電源 OFF 機能.....138
ハイブリッドシステム始動のしかた...135
モードの切りかえ 137
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 123
閉めることができないときは 121
初期化.....121
操作 121
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...122
挟み込み防止機能 121
巻き込み防止 121
パワーウインドウスイッチ照明.....267
パワーコントロールユニット.....57
パワーステアリング 240
警告灯.....336
パワートランクリッド.....100
パンクした
タイヤ空気圧警告灯 337
タイヤパンク応急修理キット装着車...344
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 315
ランプスイッチ 151
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整.....116
ステアリングヒーター 265
パワーイージーアクセスシステム.....111
ポジションメモリー 111
メーター操作スイッチ 80

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....239

ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM）..... 240
ヒーター
エアコン・デフォッガー..... 256
シートヒーター 265
ステアリングヒーター..... 265
ミラーヒーター 258
非常点滅灯（ハザードランプ）
電球（バルブ）の交換..... 315
ワット数 371
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換..... 315
ランプスイッチ 151
ヒューズ 313
表示灯 70
日よけ（サンバイザー）..... 276
ヒルスタートアシストコントロール 240

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 357
フォグランプ
電球（バルブ）の交換..... 315
ブザー
シフトダウン制限警告..... 143, 144
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 197
手放し運転警告（LTA)..... 188
パーキングブレーキ未解除走行時警告 148
半ドア走行時警告 99
窓開警告 122
ムーンルーフ警告 125
リバース警告 140
フック
けん引フック 330
コートフック 275
フロアマット固定フック..... 24
フューエルメーター 72, 73
フューエルリッド（給油口）
給油口が開かない 355
給油のしかた 162
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....248
冬用タイヤ 248
ブラインドスポットモニター（BSM）
.....209
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS OFF スイッチ 173
機能 170
PCS 警告灯 338
ブレーキ
回生ブレーキ 55
緊急ブレーキシグナル 240
警告灯.....333
パーキングブレーキ 146
ブレーキホールド 149
メンテナンスデータ 370
ブレーキアシスト 239
ブレーキフルード 370
ブレーキホールド 149
フロアマット 24
フロントシート
シートヒーター 265
シートベンチレーター 265
正しい運転姿勢 25
調整 109
手入れ.....289
パワーイージーアクセスシステム.....111
ヘッドレスト 114
ポジションメモリー 111
メモリーコール機能 112
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換 315
方向指示レバー 145
ワット数.....371

へ

平均車速 81, 88
平均燃費 81, 87, 88
ヘッドランプ
クリーナー 157
電球（バルブ）の交換..... 315
ライトセンサー 152
ランプ消し忘れ防止機能..... 153
ランプスイッチ 151
ヘッドランプオートレベリングシステム
..... 153
ヘッドレスト..... 114
ベンチレーター（シートベンチレーター）
..... 265

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 304
メンテナンスデータ..... 371
方向指示灯
電球（バルブ）の交換..... 315
方向指示レバー 145
ホーン（警音器）..... 116
補機バッテリー
搭載位置 293
補機バッテリーがあがった..... 357
ポジションメモリー..... 111
保証 7
ポップアップフード 36
ボトルホルダー..... 272
ボンネット
開け方 293
警告メッセージ 99
ポップアップフード..... 36

ま

マルチインフォメーションディスプレイ
.....79
運転支援システム情報 82
エネルギーモニター 84
オーディオシステム連携 82
警告メッセージ.....341
G モニター.....82
設定 83
走行情報表示.....80
タイヤ空気圧.....298
ドライブインフォメーション 81
ナビゲーションシステム連携 82
メーター操作スイッチ 80
メニューアイコン 79
割り込み表示.....79

み

ミラー
アウターミラー 118
インナーミラー 117
ドアミラー.....118
バニティミラー 276
ミラーヒーター 258

む

ムーンルーフ
操作 124
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 124
挟み込み防止機能 124

め

メーター
計器類.....72
警告灯.....333
警告メッセージ.....341

照度調整 78
設定 83
時計 72, 73
ハイブリッドシステムインジケーター . 76
表示・配置の切り替え..... 75
表示灯 70
マルチインフォメーションディスプレイ79
メーター操作スイッチ..... 80
メーターリング..... 75
メカニカルキー..... 94
メニューアイコン..... 79
メモリーコール機能..... 112
メンテナンスデータ..... 368

も

モーター（電気モーター）..... 57
モーターでの走行（EV ドライブモード）
..... 139

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 372
雪道ですべって動けない（スタックした）
..... 364
油脂類 368

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換..... 315
ランプスイッチ 151
ラゲージアンダートレイ 273
ラゲージマット..... 273
ラゲージルーム（トランク）.. 100, 273
ラジエーター
オーバーヒート 361
メンテナンスデータ..... 369
ランプ
室内灯.....267
電球（バルブ）の交換 315
非常点滅灯（ハザードランプ）.....323
ヘッドランプ（前照灯）.....151
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....145
ライトセンサー 152
ランプ消し忘れ防止機能 153
ランプ消し忘れ防止機能.....153

り

リバース連動機能 118
リモートタッチ 252
リヤウィンドウデフォッガー.....258
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....222
リヤサンシェード 277
リヤシート 110
ヘッドレスト 114
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...336
リヤフォグランプ
電球（バルブ）の交換 315
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 315
方向指示レバー 145
リング（メーター）.....75

る

ルームミラー（インナーミラー）.....117

れ

冷却水
冬の前の準備.....248
メンテナンスデータ 369

冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 361
メンテナンスデータ..... 369
レーダークルーズコントロール 193
警告メッセージ 200
接近警報 197
レーントレーシングアシスト（LTA）180
警告メッセージ 189
操作 185
レバー
シフト 140
方向指示 145
ボンネット解除 293

ろ

ロードサインアシスト（RSA）..... 190
ロック
ウインドウロック 123
スマートエントリー＆スタートシステム
..... 104
チャイルドプロテクター..... 99
ドア 96
ワイヤレスリモコン..... 94

わ

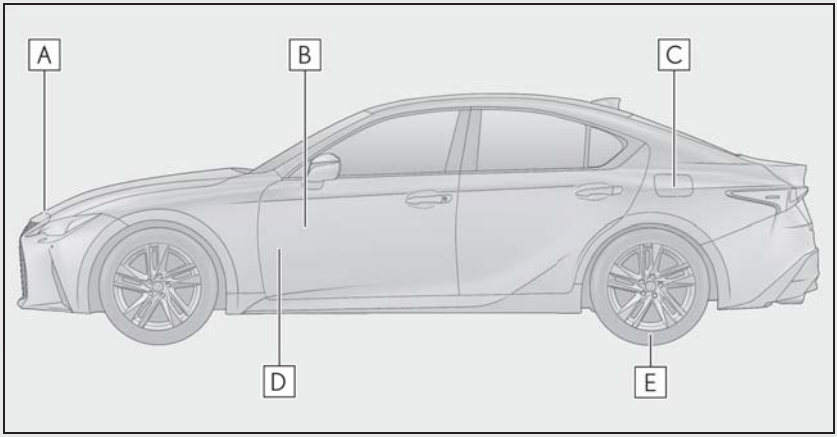
ワイパー＆ウォッシャー 157
ウォッシャー液の補充..... 296
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 249
ワイヤレスリモコン
作動の合図 97
操作 94
電池の交換 312
半ドア警告ブザー 97
ワックス 286
ワット数 371

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・オーディオ
・パノラミックビューモニター
・ナビゲーションシステム
・音声操作システム
・ハンズフリー
・G-Link
・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.293）

B トランクオープナースイッチ（→P.101）

C 給油口（→P.163）

D ボンネット解除レバー（→P.293）

E タイヤ空気圧（→P.371）

燃料の容量（参考値）	66.2L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン	P.368
タイヤが冷えているときの空気圧		P.371
エンジンオイル容量（参考値）		P.368
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P.368

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

キJ-2

M53F54
01999-53F54
CC-2021年9月 2日
2021年9月 9日初版

IS300h